

男女共同参画に関する市民意識調査  
報 告 書

令和4年3月

米 子 市



# 目 次

## 第1章 調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査の方法	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	3

## 第2章 調査の結果

I 回答者の属性	7
II 家庭での役割について	10
(1) 家庭での役割分担 [問7]	10
(2) 家庭での役割分担の満足度 [問8]	17
III 就労について	18
職場の現状 [問9]	18
IV 地域活動などについて	24
地域の現状 [問10]	24
V ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて	31
(1) ドメスティック・バイオレンスの経験・認知 [問11]	31
(2) ドメスティック・バイオレンスに対する相談先 [問12]	32
(3) セクシャル・ハラスメントの経験・認知 [問13]	33
(4) セクシャル・ハラスメントへの対応 [問14]	34
(5) ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに関する考え方 [問15]	35
VI 男女共同参画に関する意識や考え方について	40
(1) 男女平等についての意識 [問16]	40
(2) 男女のあり方についての考え方 [問17]	48
VII 男女共同参画社会に関する施策について	59
(1) 用語等の認知度 [問18]	59
(2) 米子市が行う施策について [問19]	60
VIII 意見・要望など自由記述	67

## 第3章 調査結果のまとめ

1 家庭での役割について	75
2 就労について	75
3 地域活動などについて	76
4 ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて	76
5 男女共同参画に関する意識や考え方について	77
6 男女共同参画社会に関する施策について	77

資料

男女共同参画に関する市民意識調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81

## 第1章 調査の概要

---



## 1 調査の目的

男女共同参画に関する意識や実態などを把握し、今後の男女共同参画に関する施策を推進していくための参考とするとともに、米子市男女共同参画推進計画の改定に向けた基礎資料とする。

## 2 調査項目

調査は以下の調査項目および自由意見記入欄にて構成した。

- (1) 基本的属性
- (2) 家庭での役割について
- (3) 就労について
- (4) 地域活動などについて
- (5) ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて
- (6) 男女共同参画に関する意識や考え方について
- (7) 男女共同参画社会に関する施策について

## 3 調査の方法

- (1) 調査区域：市内全域
- (2) 調査対象：令和3年9月1日現在米子市に居住する満20歳以上の市民2,000人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 実施方法：郵送配布、郵送回収
- (5) 調査期間：令和3年9月9日～10月5日

## 4 回収結果

- (1) 有効回収数：866件
- (2) 有効回収率：43.3%

## 5 報告書の見方

- (1) 本文、表、グラフなどに使用する「n」は、各設問に対する回答者数である。
- (2) 百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答が可能な問においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- (5) グラフ中の「無回答」には、「非該当(設問に答える必要のない人の分)」は含まれていない。
- (6) 「前回調査」とは平成28年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」のことをいう。





## 第2章 調査の結果

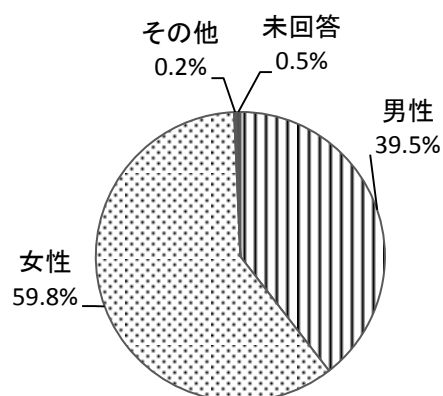
---



# I 回答者の属性

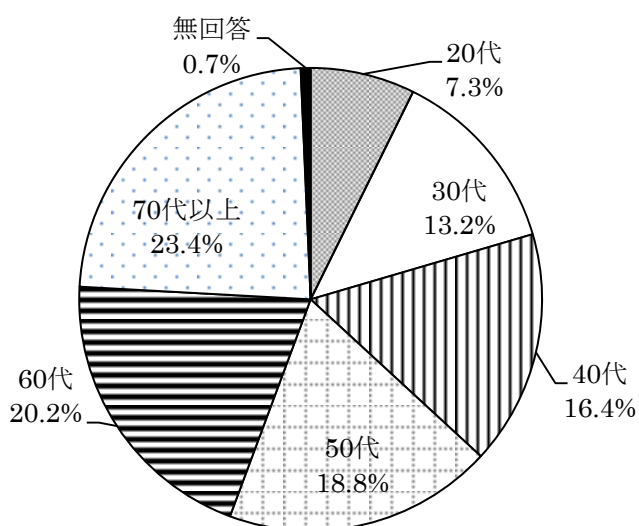
## (1) 性別

	人数	割合
男性	342	39.5%
女性	518	59.8%
その他	2	0.2%
無回答	4	0.5%
全体	866	100.0%



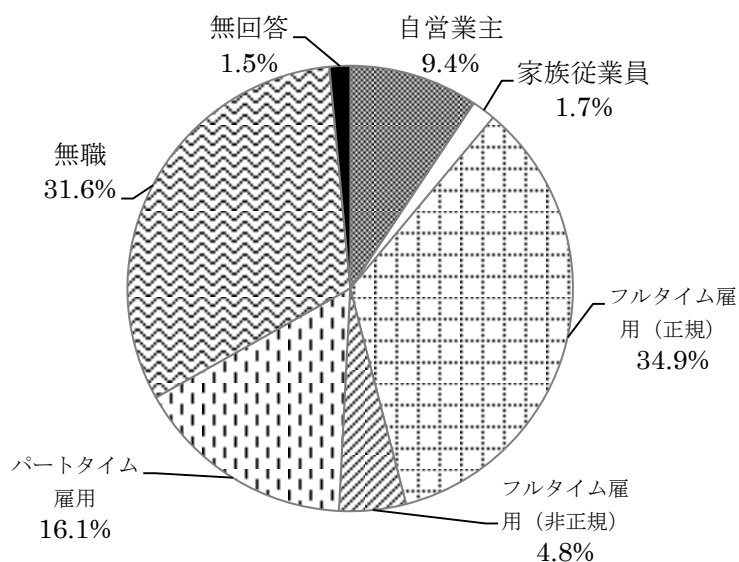
## (2) 年齢

	人数	割合
20代	63	7.3%
30代	114	13.2%
40代	142	16.4%
50代	163	18.8%
60代	175	20.2%
70歳以上	203	23.4%
無回答	6	0.7%
全体	866	100.0%



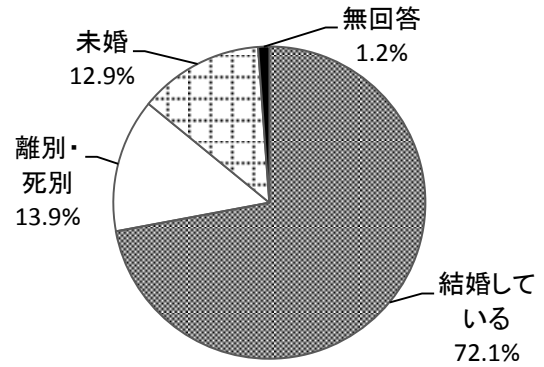
## (3) 職業

	人数	割合
自営業主	81	9.4%
家族従業員	15	1.7%
フルタイム正規雇用	302	34.9%
フルタイム非正規雇用	42	4.8%
パートタイム	139	16.1%
無職	274	31.6%
無回答	13	1.5%
全体	866	100.0%



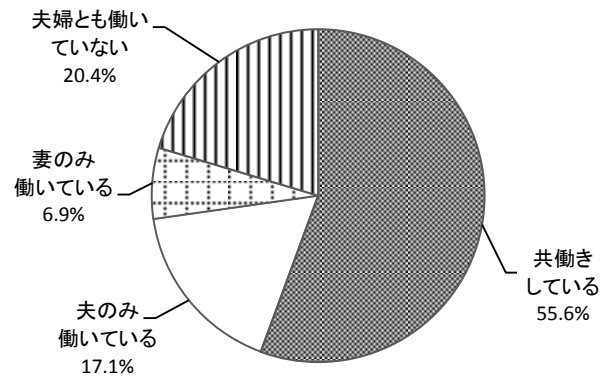
#### (4) 結婚の有無

	人数	割合
結婚している	624	72.1%
離別・死別	120	13.9%
結婚したことがない	112	12.9%
無回答	10	1.2%
全体	866	100.0%



#### (5) 共働きの有無

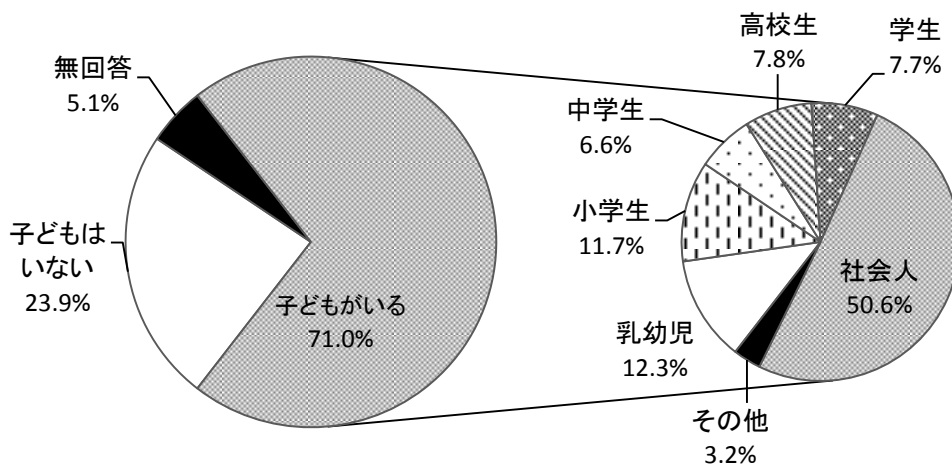
	人数	割合
共働きしている	347	55.6%
夫のみ働いている	107	17.1%
妻のみ働いている	43	6.9%
夫婦とも働いていない	127	20.4%
全体	624	100.0%



#### (6) 子どもの有無と子どもの年代

	人数	割合
子どもがいる	615	71.0%
子どもはいない	207	23.9%
無回答	44	5.1%
全体	866	100.0%

	人数	割合
乳幼児	99	12.3%
小学生	94	11.7%
中学生	53	6.6%
高校生	63	7.8%
学生 (大学生等)	62	7.7%
社会人	407	50.6%
その他	26	3.2%



回答者の属性について、性別は男性が342人(39.5%)、女性が518人(59.8%)、その他が2人(0.2%)、無回答が4人(0.5%)であった。米子市の20歳以上の男女比率(男性46.9%、女性53.1%)と比較すると、男性より女性の方が回答率が高くなっている。

年齢では、回答者の年代と米子市の20歳以上人口における年代別割合は、下表のとおりである。

年 齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者の割合	7.3%	13.2%	16.4%	18.8%	20.2%	23.4%
20歳以上人口における年代別割合	11.3%	13.3%	17.4%	15.2%	14.9%	27.9%

令和3年8月31日現在指定区別年齢別男女別人口調から算出

職業では、「フルタイム正規雇用」が34.9%で最も高く、次いで、「無職」(31.6%)「パートタイム」(16.1%)の順となっている。

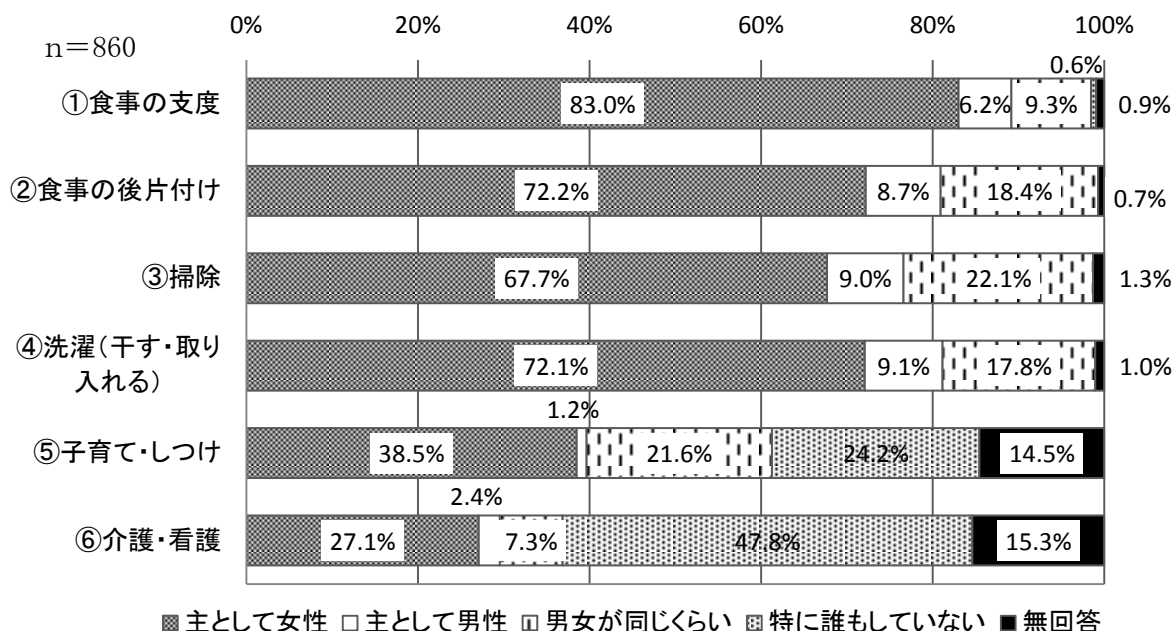
結婚と共働きの有無では、「結婚している」が72.1%で最も高く、そのうち「共働きしている」は55.6%で半数を占めている。また、「夫のみ働いている」が「妻のみ働いている」より10.2%高くなっている。

子どもの有無と子どもの年代では、「子どもがいる」が71.0%で、その子どもの年代は「社会人」が半数以上の50.6%で最も高く、次いで「乳幼児」(12.3%)、「小学生」(11.7%)の順となっている。

## Ⅱ 家庭での役割について

### (1) 家庭での役割分担 [問7]

あなたの家庭では、①～⑥のような家庭での役割について、主に女性がしていますか、男性がしていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



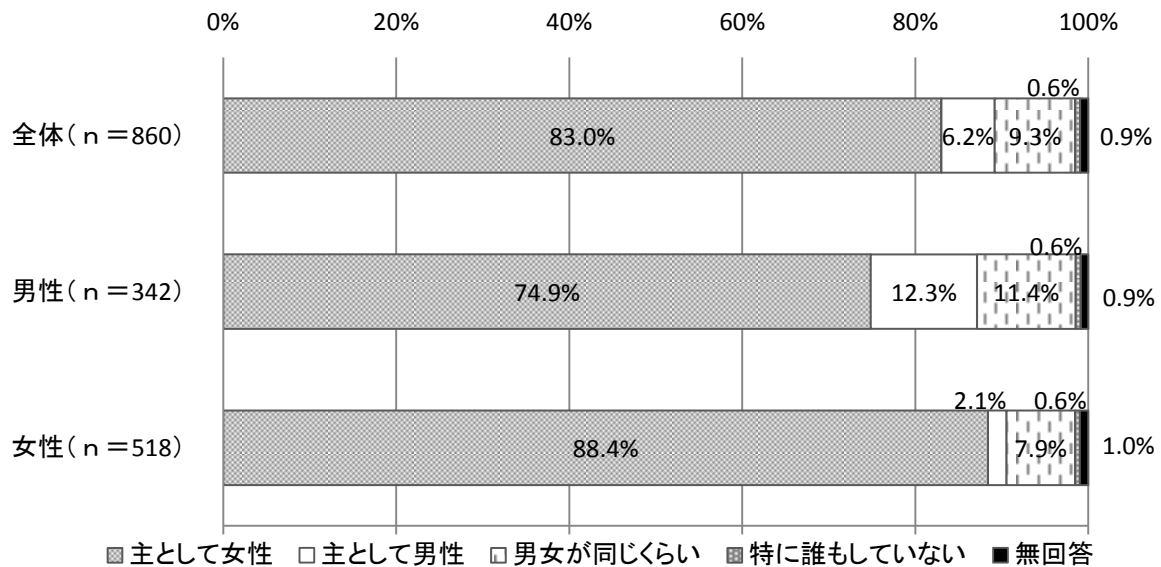
#### 【全 体】

家庭での役割分担について、「主として女性」がするという割合が高いのが「食事の支度」「食事の後片付け」「洗濯」となっており、いずれも70%以上で、その中で最も高いのが「食事の支度」(83.0%)となっている。

そして、「主として男性」がするという割合はすべてについて10%未満となっているが、「洗濯」が9.1%、次いで「掃除」(9.0%)、「食事の後片付け」(8.7%)の順となっている。

また、「男女が同じくらい」するという割合を見ると、「掃除」が22.1%と最も高く、次いで、「子育て・しつけ」(21.6%)、「食事の後片付け」(18.4%)、「洗濯」(17.8%)の順となっている。

## ① 食事の支度



### 【全体・性別】

「食事の支度」について、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が最も高くなっているが、男性と女性ではその割合に10ポイント以上の開きがある。

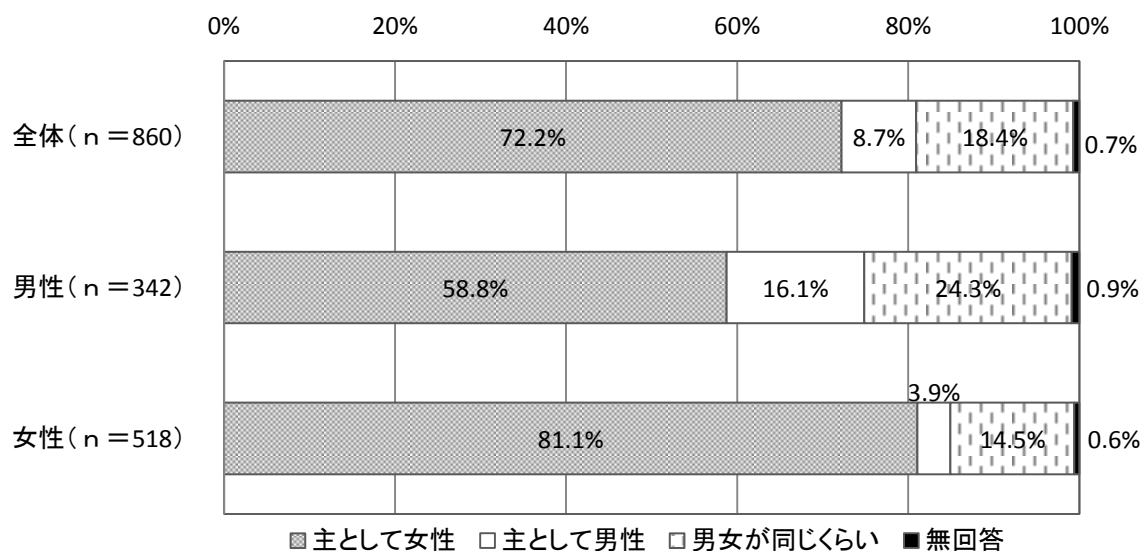
そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が12.3%に対して女性は2.1%であり、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が11.4%に対して女性は7.9%である。女性より男性の方がポイントが高くなっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「主として女性」がしているという割合が全体で2.3ポイント、男性で2.8ポイント、女性で2.4ポイント、それぞれ減少している。

それに対して、「主として男性」「男女が同じくらい」がしているという割合では、全体で3.6ポイント、男性で5.1ポイント、女性で2.9ポイント、それぞれ増加している。

## ②食事の後片付け



### 【全体・性別】

「食事の後片付け」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性と女性ではその割合に20ポイント以上の開きがある。

そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が16.1%に対して女性は3.9%であり、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が24.3%に対して女性は14.5%である。ここでも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

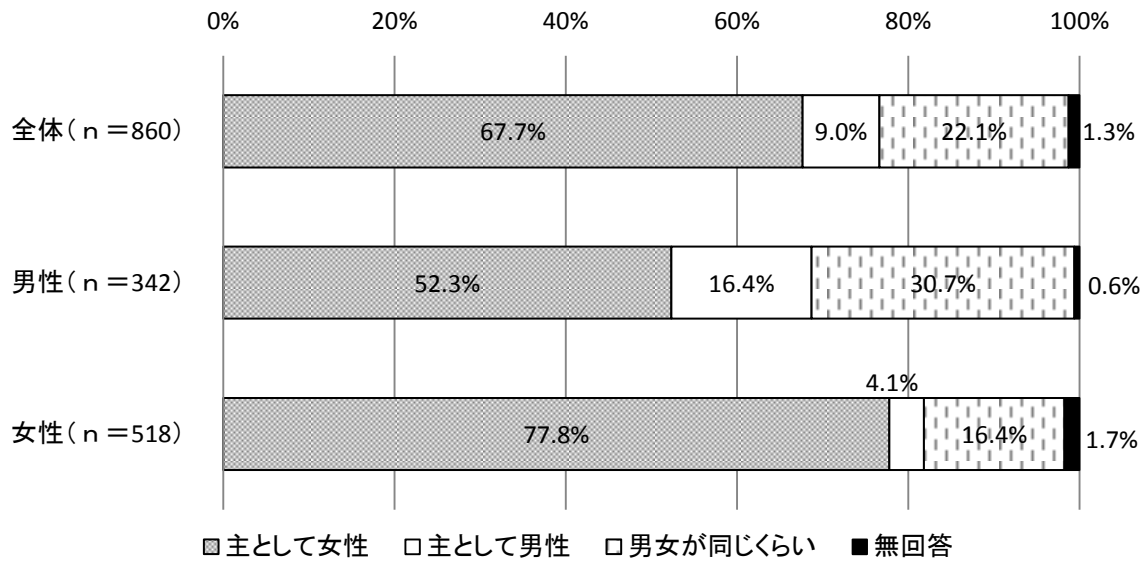
### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「主として女性」がしているという割合が全体で4.2ポイント、男性で5.8ポイント、女性で3.9ポイント、それぞれ減少している。

それに対して、「主として男性」「男女が同じくらい」がしているという割合では、全体で6.6ポイント、男性で9.1ポイント、女性で5.8ポイント、それぞれ増加している。



### ③掃除



#### 【全体・性別】

「掃除」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性と女性では20ポイント以上の開きがある。

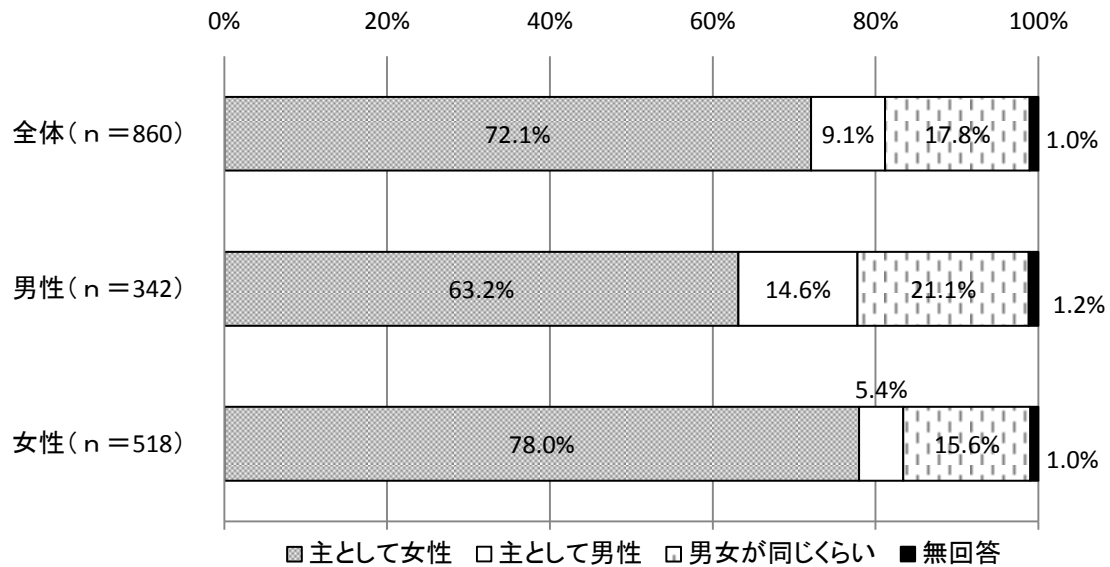
そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が16.4%に対して女性は4.1%であり、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が30.7%に対して女性は16.4%である。ここでも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「主として女性」がしているという割合が全体で3.5ポイント、男性で3.1ポイント、女性で4.9ポイント、それぞれ減少している。

それに対して、「主として男性」「男女が同じくらい」がしているという割合では、全体で5.9ポイント、男性で7.5ポイント、女性で5.8ポイント、それぞれ増加している。

#### ④洗濯（干す・取り入れる）



#### 【全体・性別】

「洗濯（干す・取り入れる）」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性と女性ではその割合に10ポイント以上の開きがある。

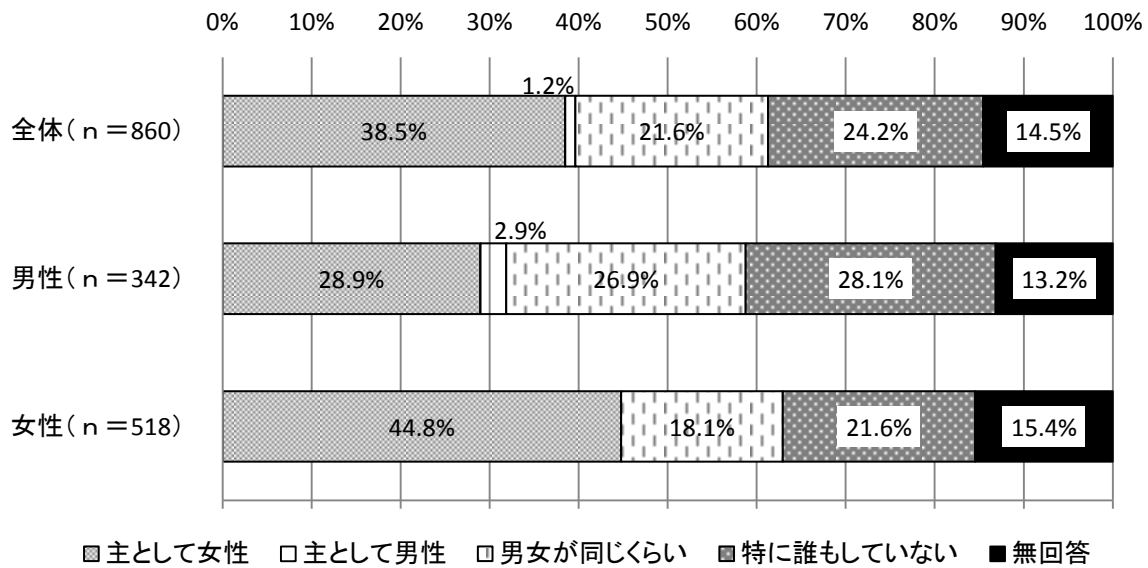
そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が14.6%に対して女性は5.4%であり、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が21.1%に対して女性は15.6%である。ここでも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「主として女性」がしているという割合が全体で3.1ポイント、男性で1.0ポイント、女性で5.1ポイント、それぞれ減少している。

それに対して、「主として男性」「男女が同じくらい」がしているという割合では、全体で5.6ポイント、男性で4.0ポイント、女性で7.1ポイント、それぞれ増加している。

## ⑤子育て・しつけ



### 【全体・性別】

「子育て・しつけ」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性と女性ではその割合に10ポイント以上の開きがある。

男性では「主として男性」「男女が同じくらい」を合わせた割合が29.8%で、「主として女性」がしているという割合とほぼ同じとなっている。

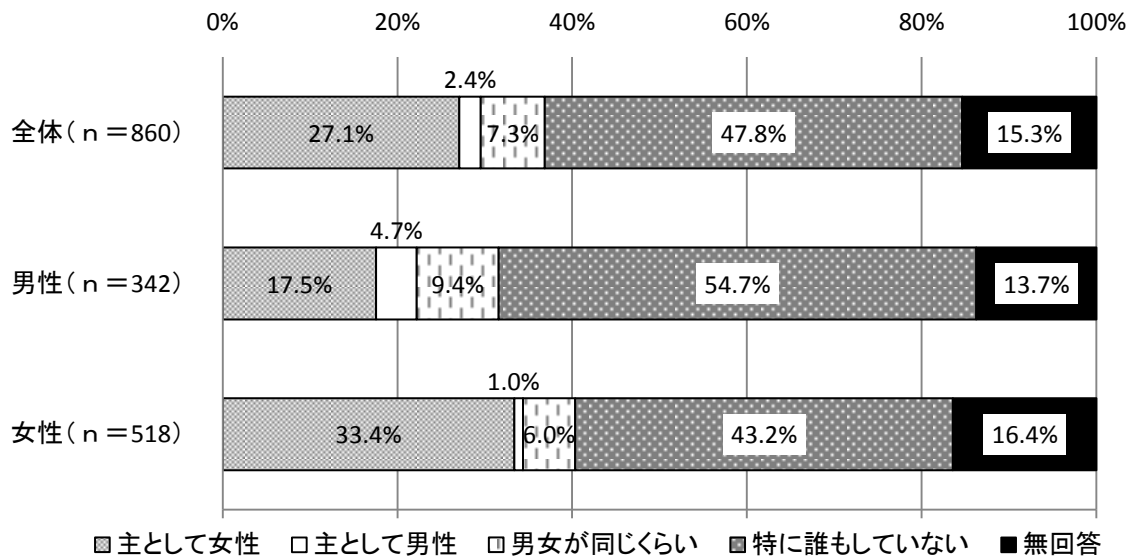
そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が2.9%に対して女性は0.0%とであり、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が26.9%に対して女性は18.1%である。ここでも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「主として女性」がしているという割合が全体で1.0ポイント、女性で1.5ポイント、それぞれ増加しており、男性では、0.5ポイント減少している。

それに対して、「主として男性」「男女が同じくらい」がしているという割合では、全体で0.8ポイント、女性で1.4ポイント、それぞれ減少しており、男性では、0.7ポイント増加している。

## ⑥介護・看護



### 【全体・性別】

「介護・看護」については、男性、女性共に「だれもしていない」という割合が最も高くなっている。次いで、「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性と女性ではその割合に10ポイント以上の開きがある。

そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が4.7%に対して女性は1.0%であり、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が9.4%に対して女性は6.0%である。ここでも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

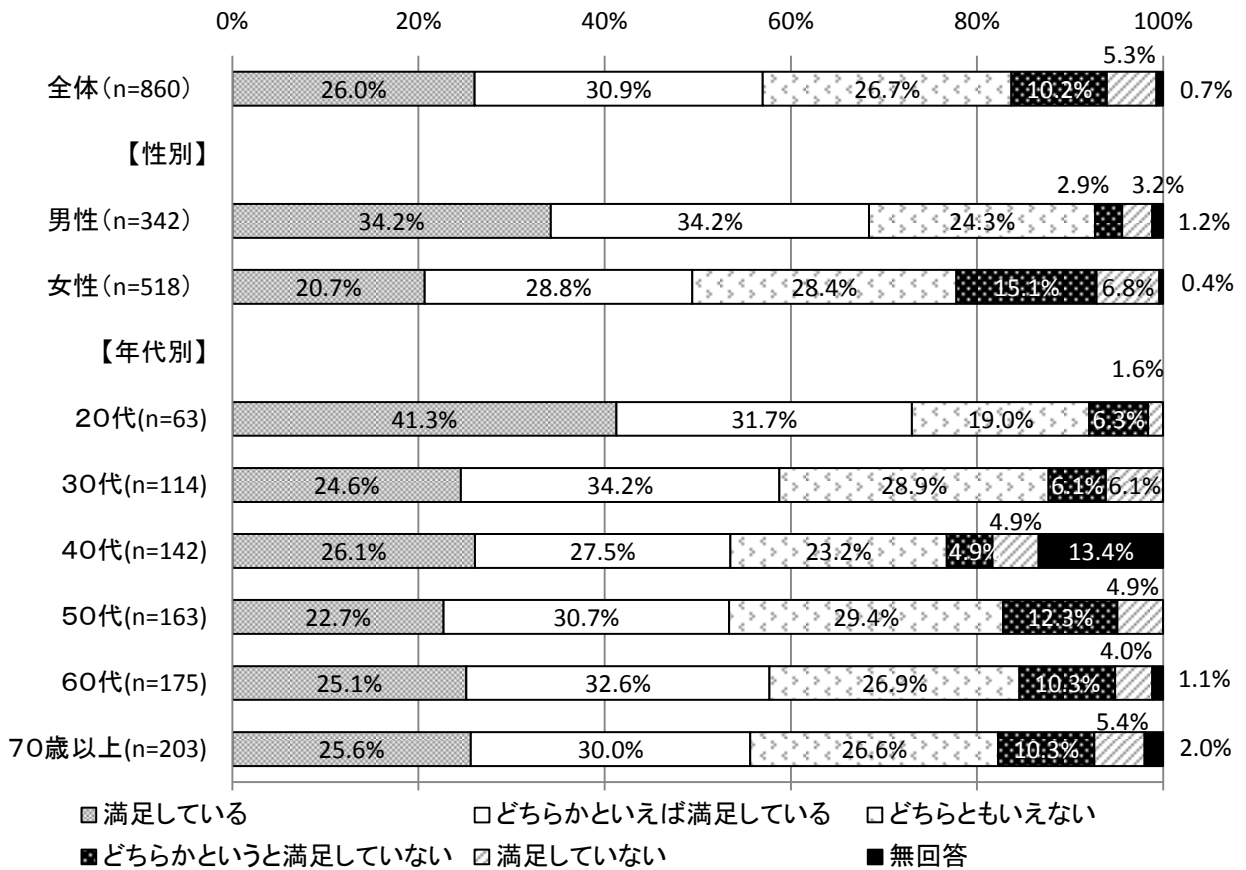
### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「主として女性」がしているという割合が全体で0.6ポイント、女性で1.4ポイント、それぞれ増加しており、男性では、1.5ポイント減少している。

それに対して、「主として男性」「男女が同じくらい」がしているという割合では、全体で0.6ポイント、女性で0.8ポイント、それぞれ減少しており、男性では、0.4ポイント増加している。

## (2) 家庭での役割分担の満足度 [問8]

あなたは、自分の家庭内での役割分担について満足していますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。



### 【全体・性別】

全体では「どちらかといえば満足している」が30.9%と最も高く、次いで「満足している」「どちらともいえない」がほぼ同じ割合となっている。

性別では、男性は「満足している」とする割合が女性より13.5ポイント高くなっており、それに対して女性は「どちらかといえば満足していない」「満足していない」を合わせた割合が男性より15.8ポイント高くなっている。

### 【年代別】

「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が、世代を問わず高くなっている。また、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」を合わせた割合が最も高いのが50歳代で17.2%、次いで70歳以上の15.7%となっている。

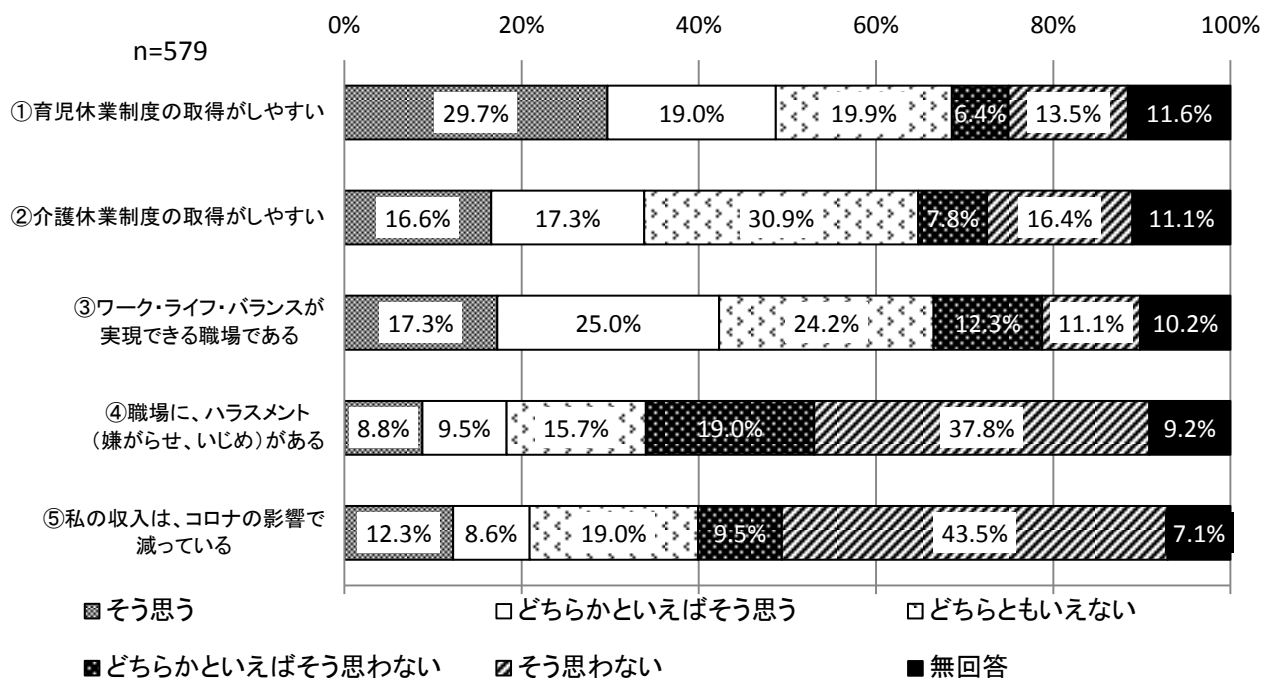
### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「満足している」とする割合が、全体では0.6ポイント減少しており、性別では男性が1.6ポイント減少、女性は0.7ポイント増加している。

### Ⅲ 就労について

#### 職場の現状[問9]

あなたの職場は、①～⑤のようなことがあてはまりますか。それぞれについて1つ選んで番号に○をつけてください。

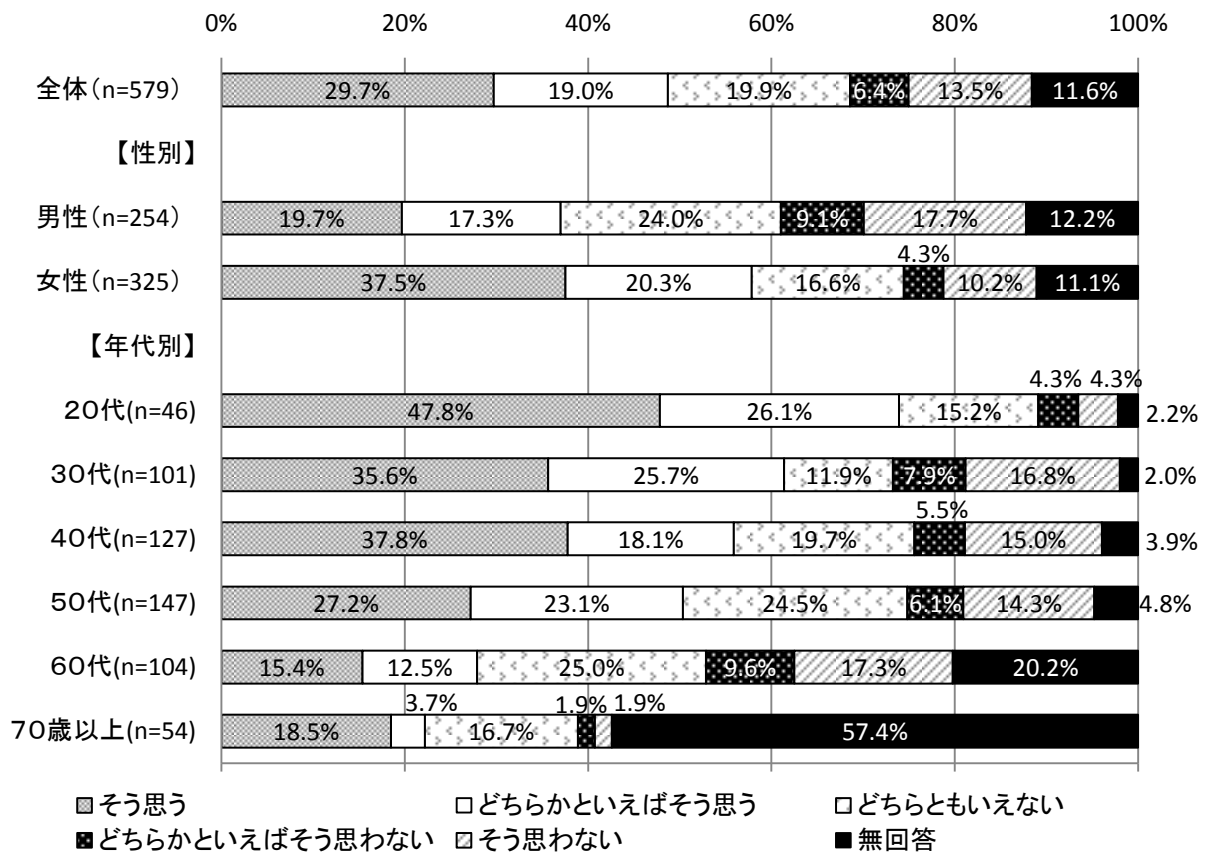


#### 【全体】

職場の現状について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「育児休業制度の取得がしやすい」が48.7%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスが実現できる職場である」(42.3%)、「介護休業制度の取得がしやすい」(33.9%)の順となっている。

また、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合を見ると、「職場にハラスメントがある」が56.8%で最も高く、次いで「収入はコロナの影響で減っている」(53.0%)の順となっている。

### ①育児休業制度の取得がしやすい



#### 【全体・性別】

全体では「そう思う」が29.7%で最も高く、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（19.9%）を上回っている。

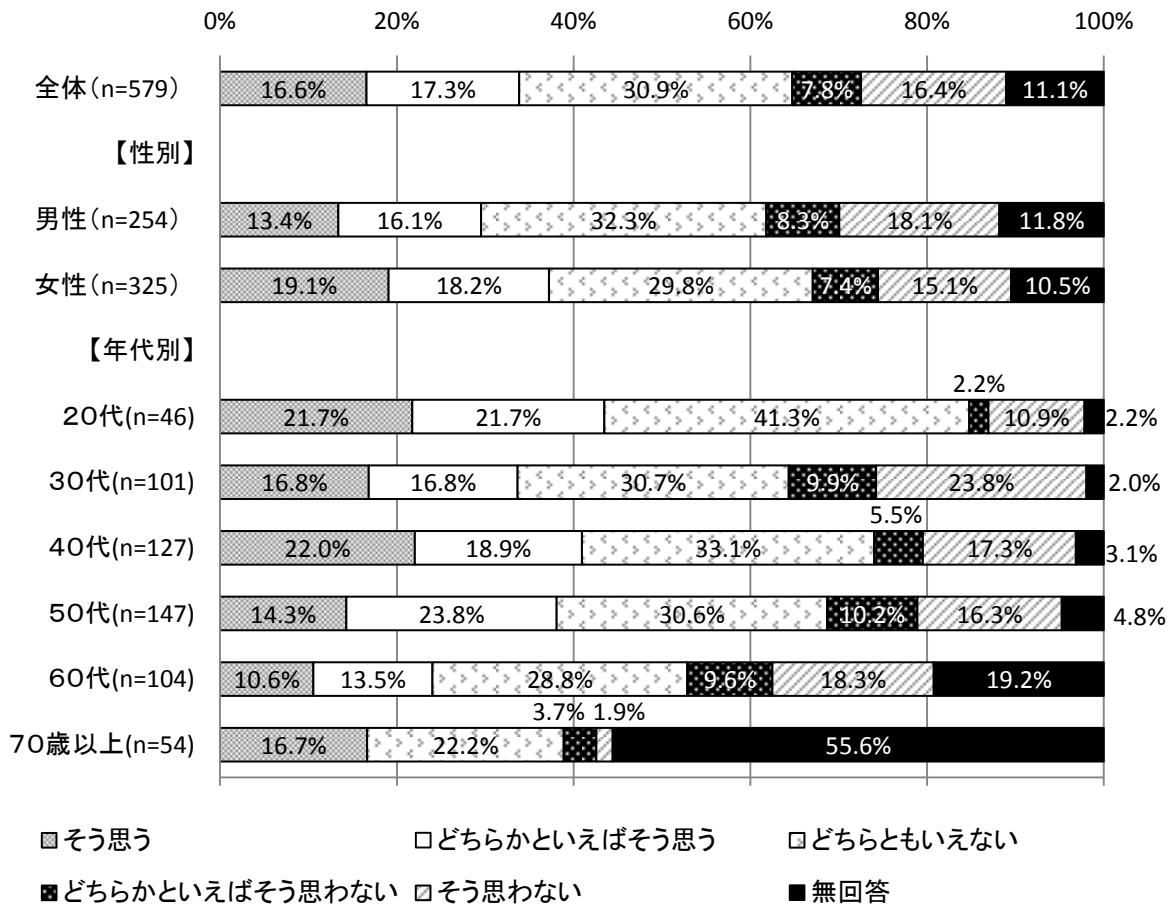
また、女性では「そう思う」とする割合が37.5%で、男性（19.7%）を17.8ポイント上回っている。

#### 【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、若い世代ほど高くなっている。

60歳代では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合と、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合がほぼ同じ割合となっている。

## ②介護休業制度の取得がしやすい



### 【全体・性別】

全体では「どちらともいえない」が30.9%と最も高くなっている。

また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が33.9%で「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（24.2%）を上回っている。

男性、女性共に「どちらともいえない」が男性32.3%、女性29.8%と最も高く、女性では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が37.3%で男性（29.5%）を7.8ポイント上回っている。

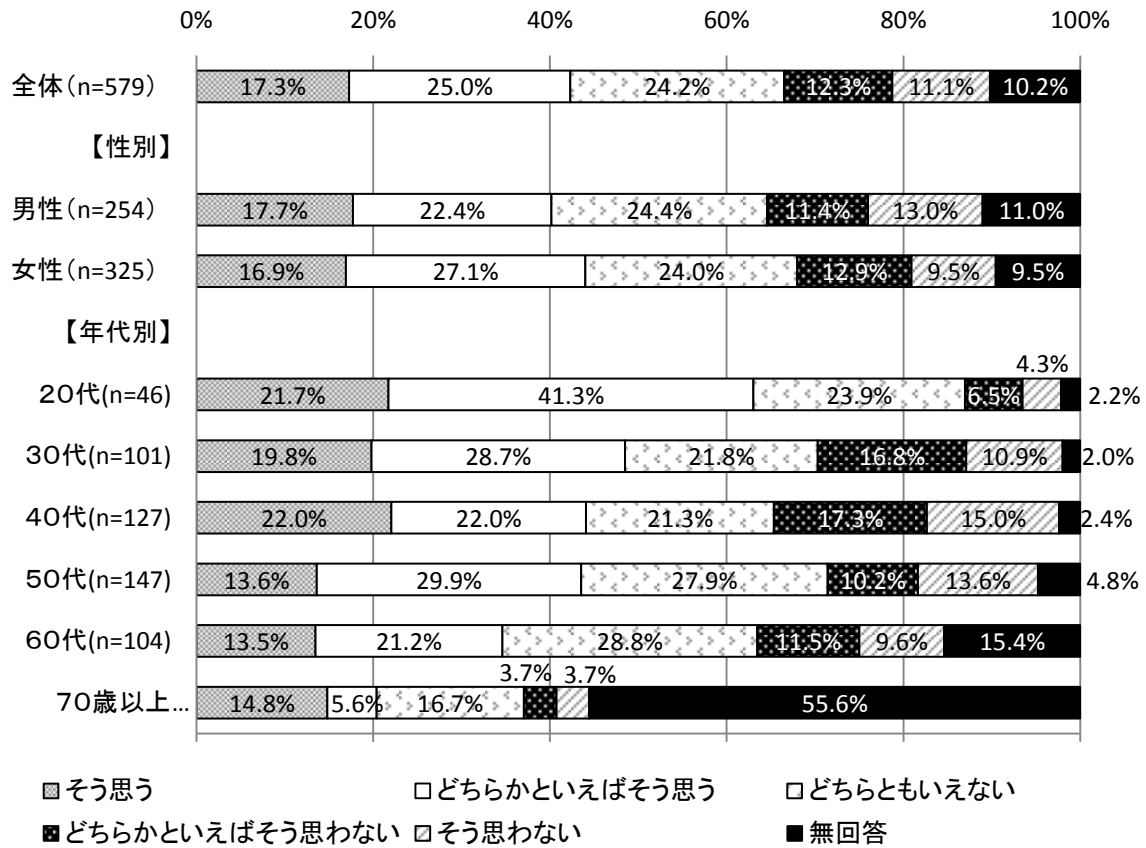
### 【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、20歳代から50歳代では30%～40%台となっている。

30歳代と60歳代では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合と「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合がほぼ同じとなっている。



### ③ワーク・ライフ・バランスが実現できる職場である



#### 【全体・性別】

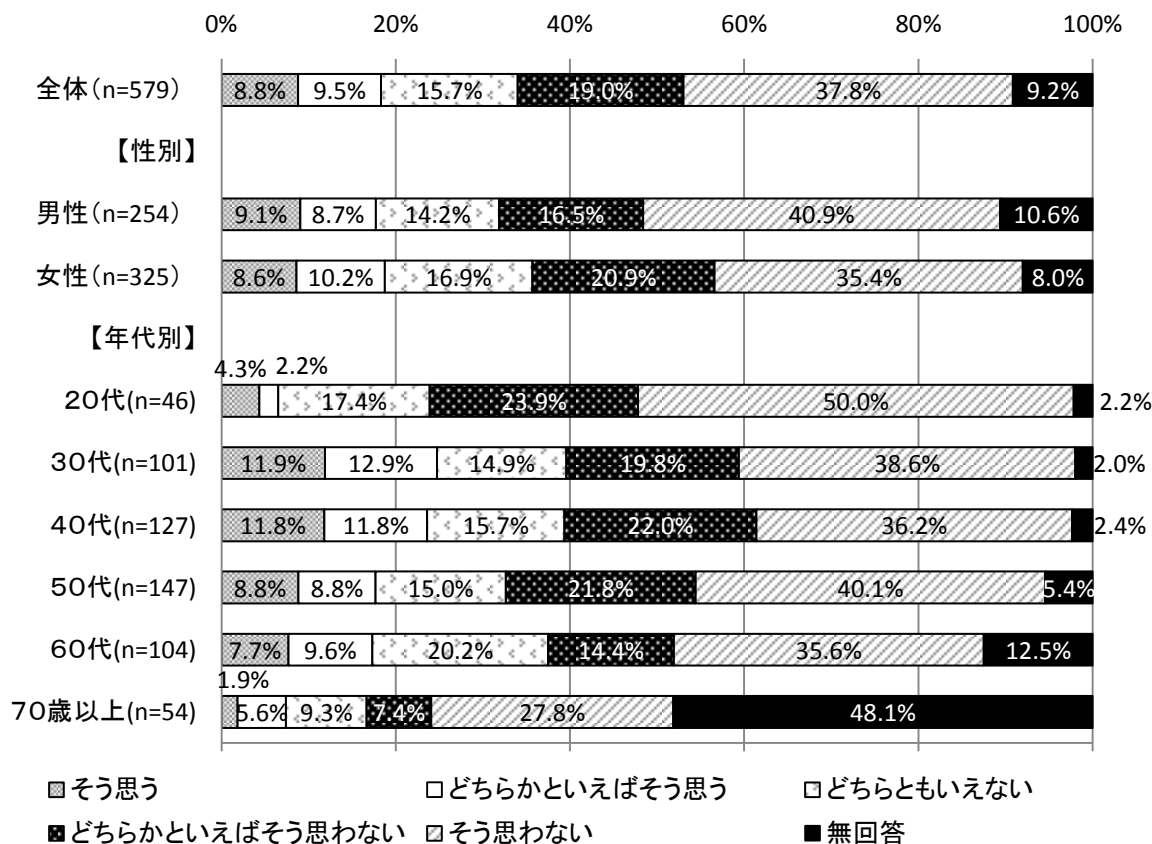
全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が42.3%で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（23.4%）を上回っている。

また、女性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が44.0%で、男性（40.1%）より3.9ポイント高くなっている。

#### 【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは、20歳代で64.4%である。また、全ての年代で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合を上回っている。

④職場に、ハラスメント（嫌がらせ、いじめ）がある



【全体・性別】

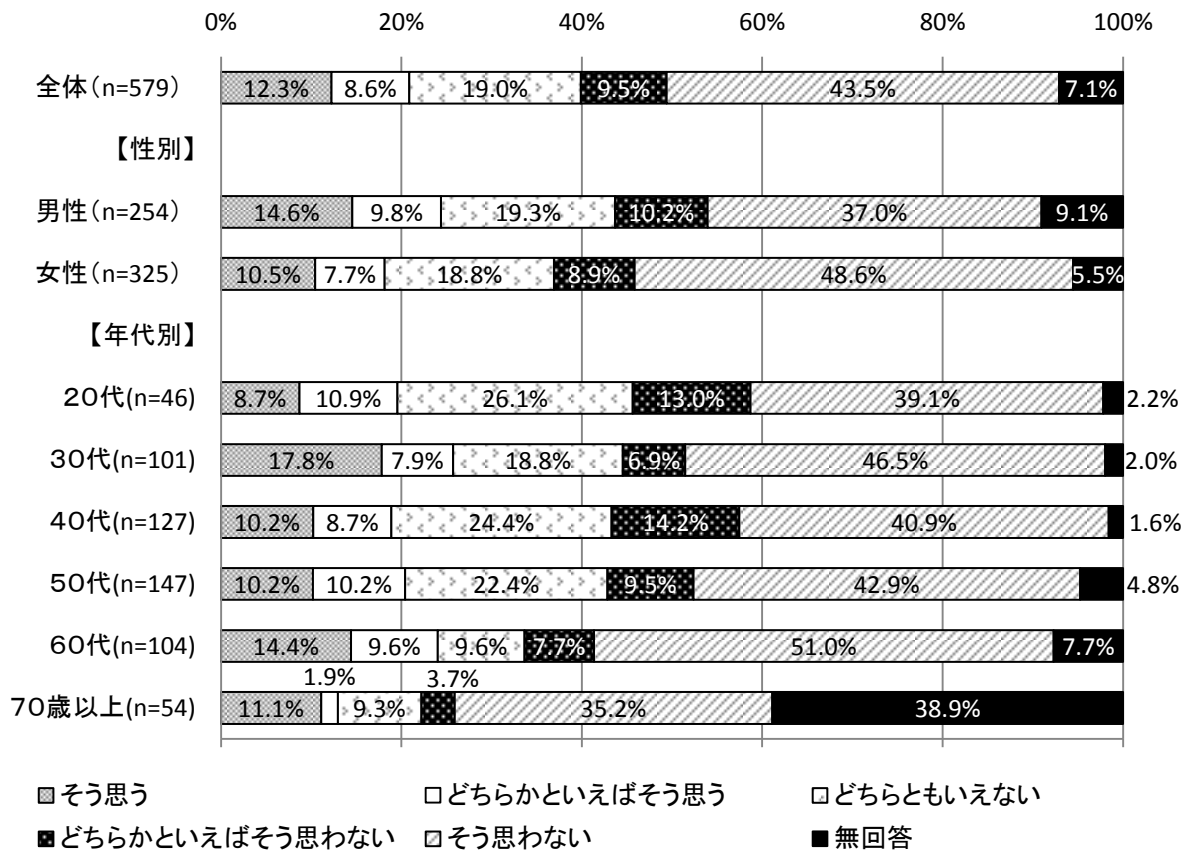
全体では「そう思わない」が37.8%で最も高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合（18.3%）を上回っている。

また、男性女性共に「そう思わない」が男性40.9%、女性35.4%と最も高く、いずれも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を上回っている。

【年代別】

「そう思わない」が世代を問わず高い割合となっており、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を上回っている。

⑤私の収入は、コロナの影響で減っている



【全体・性別】

全体では「そう思わない」が43.5%で最も高くなっており、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が50%を越えている。

女性は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が男性より10.3ポイント高くなっており、これに対して男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が女性より6.2ポイント高くなっている。

【年代別】

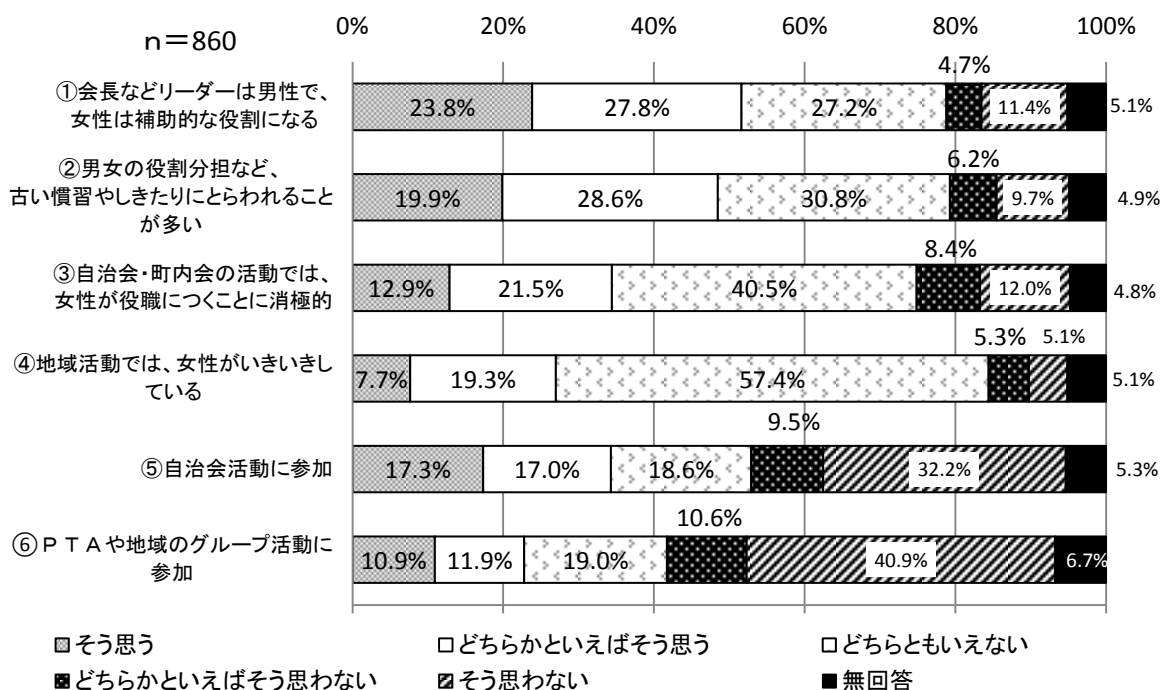
「そう思わない」が世代を問わず高い割合となっており、70歳以上を除くすべての世代で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が、50%を超えている。

また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、70歳以上を除き、概ね20%程度となっているが、最も高いのは30歳代で25.7%となっており、次いで60歳代(24.0%)の順となっている。

## IV 地域活動などについて

### 地域の現状 [問 10]

あなたがお住まいの地域についてお尋ねします。①～⑥のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

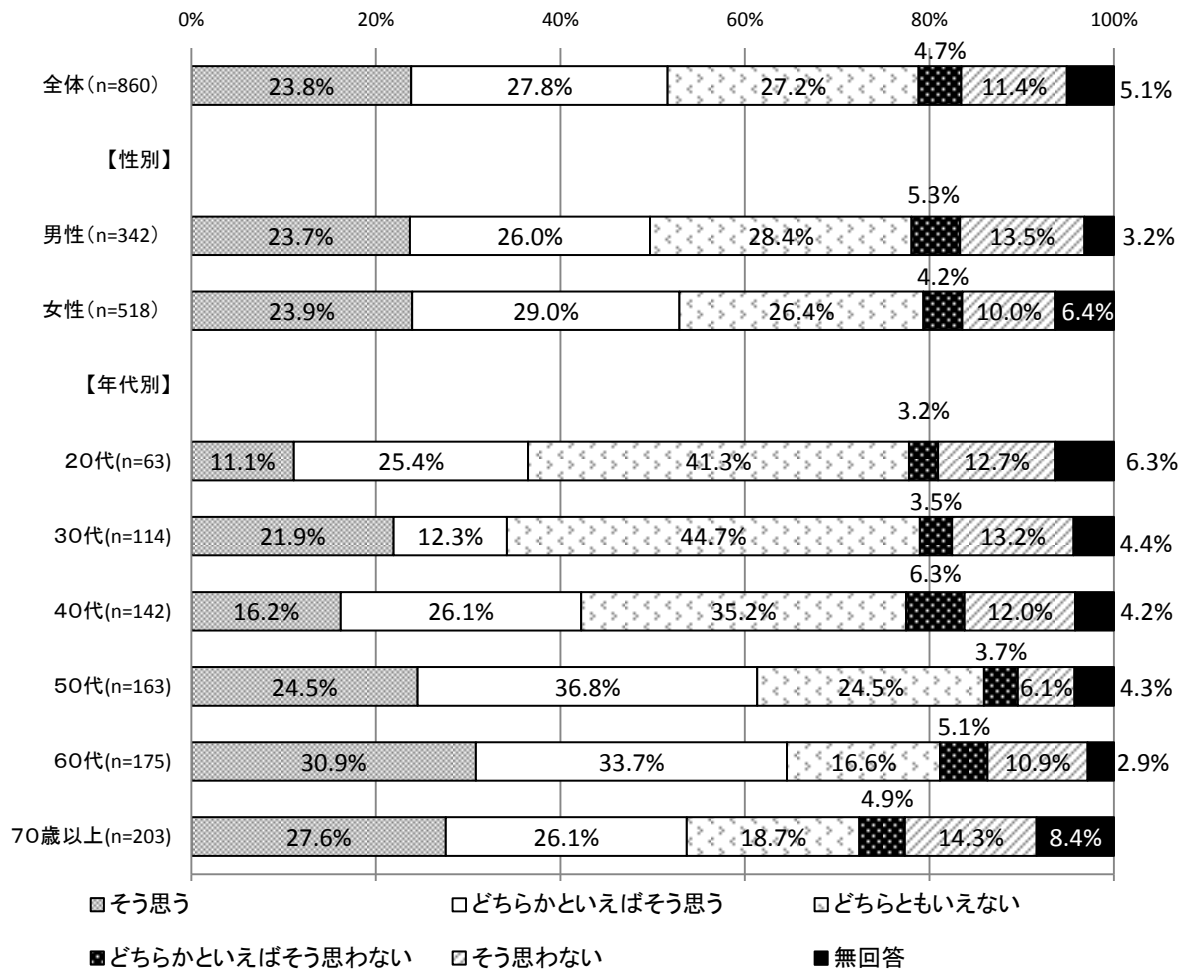


#### 【全体】

地域の現状について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「地域活動で男性がリーダー、女性は補助」が51.6%と最も高く、次いで「男女の役割分担など古い慣習にとられている」(48.5%)の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合をみると、「PTAや地域のグループ活動に参加」が51.5%と最も高く、次いで「自治会活動に参加」(41.7%)の順となっている。

①地域活動では、会長などリーダーは男性で、女性は補助的な役割になる



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 51.6%、男性 49.7%、女性 52.9%で、いずれも 50%前後となっている。

【年代別】

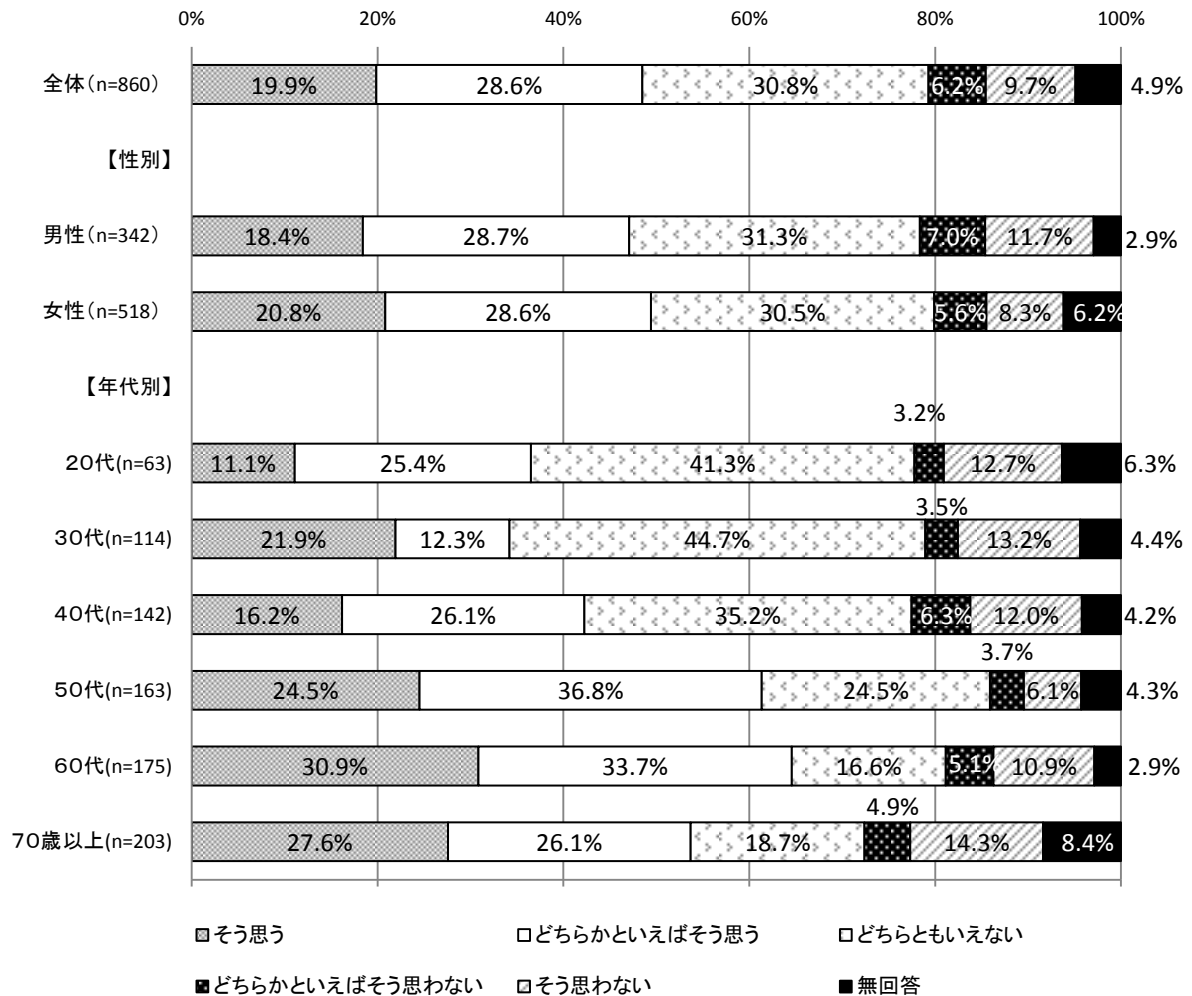
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 60 歳代で 64.6%、次いで 50 歳代 (61.3%)、70 歳以上 (53.7%) の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体、男性、女性すべてで 4.7 ポイント減少している。

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合では、全体で 3.3 ポイント、男性で 3.9 ポイント、女性で 3.0 ポイント、それぞれ増加している。

②男女の役割分担など、古い慣習やしきたりにとられることが多い



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 48.5%、男性 47.1%、女性 49.4%となっている。

【年代別】

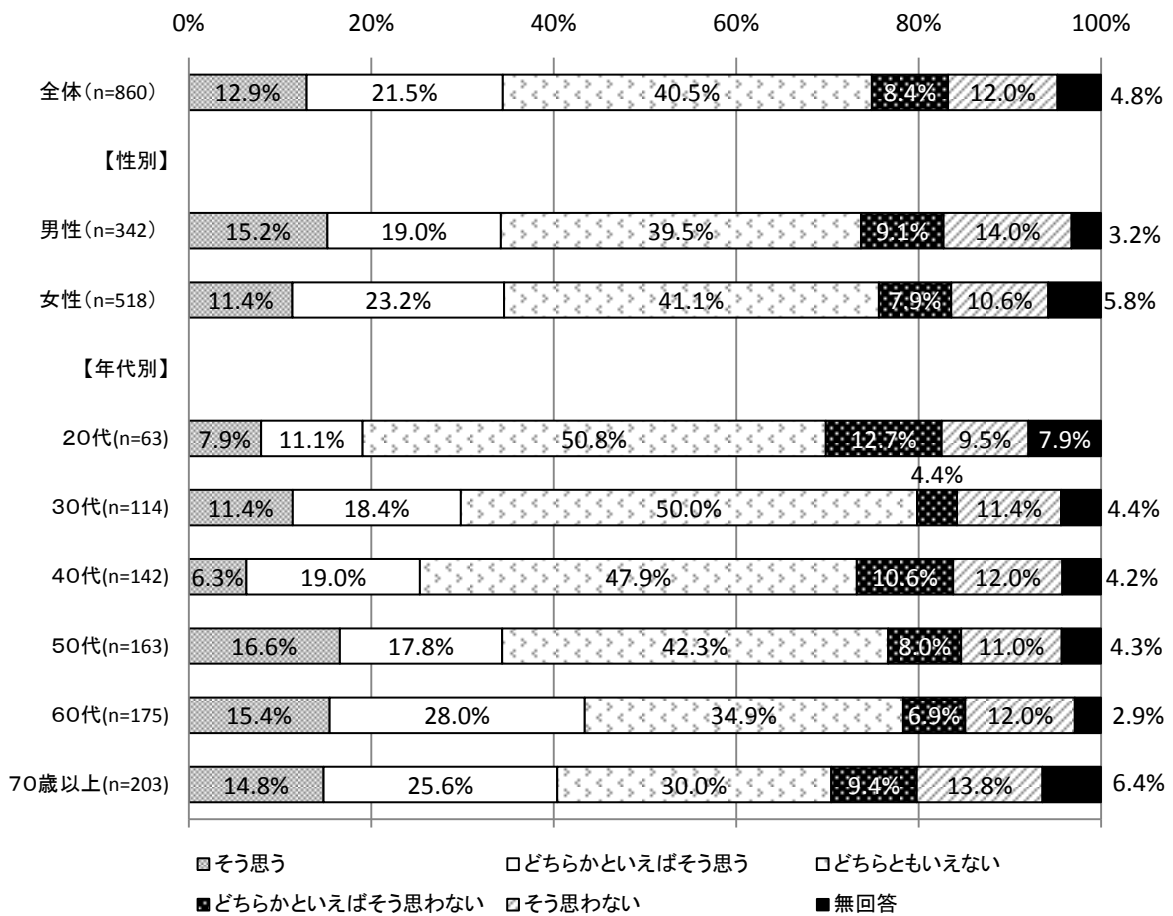
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは60歳代で64.6%、次いで50歳代(61.3%)、70歳以上(53.7%)の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは70歳以上で19.2%、次いで40歳代(18.3%)、30歳代(16.7%)の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見るとほとんど差は見られない。全体で0.9ポイント、男性で3.5ポイント、それぞれ増加しているのに対して、女性では1.0ポイント減少している。

③自治会・町内会の活動では、女性が役職に就くことに消極的



【全体・性別】

「どちらともいえない」とする割合が全体、男性、女性のいずれでも最も高い割合となっており、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 34.4%、男性 34.2%、女性 34.6%でほとんど差がみられない。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、男性 23.1%、女性 18.5%で女性が男性より 4.6 ポイント低くなっている。

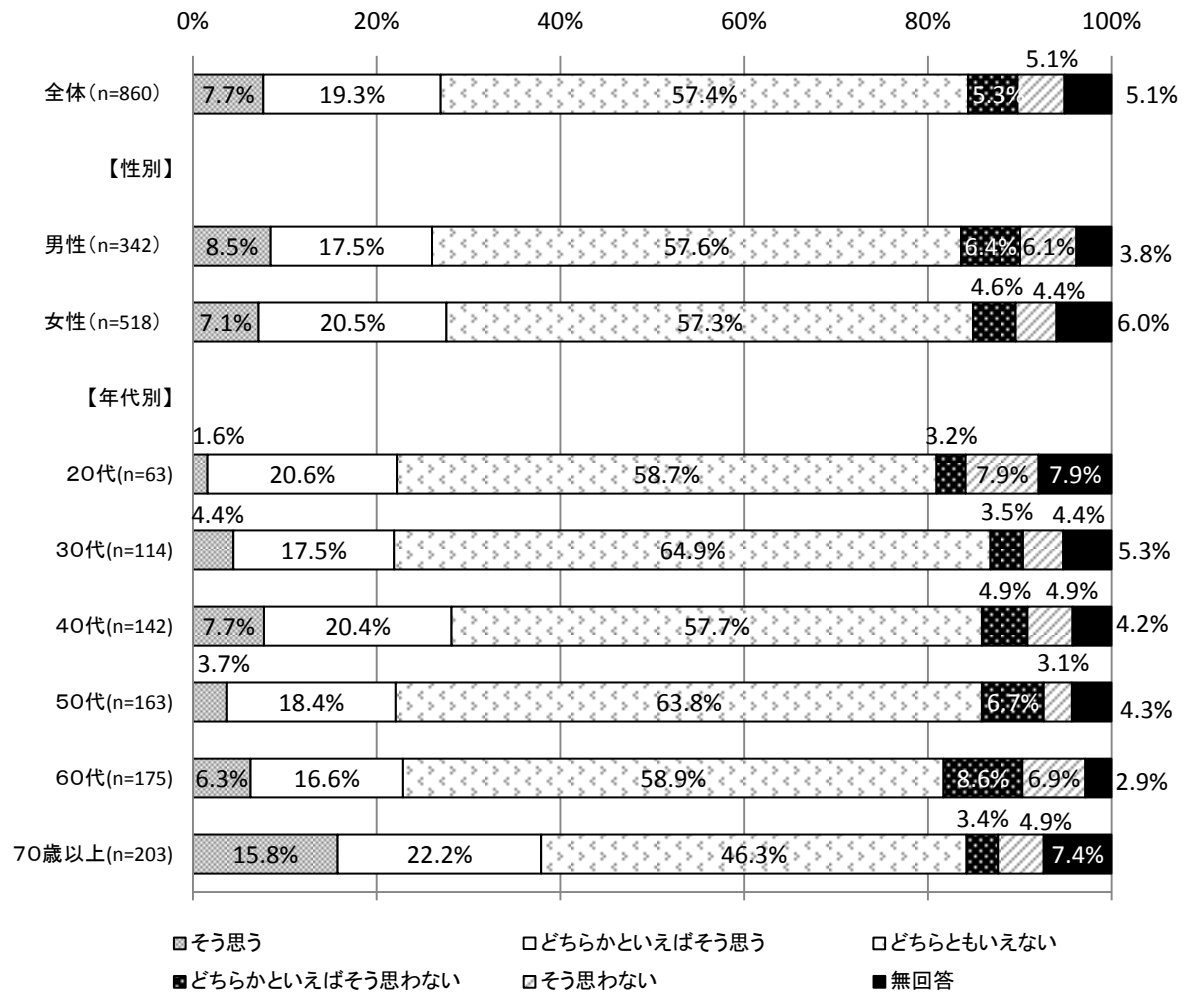
【年代別】

全ての年代で「どちらともいえない」とする割合が最も高い割合となっており、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 60 歳代で 43.4%、次いで 70 歳以上 (40.4%)、50 歳代 (34.4%) の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見るとほとんど差は見られないが、全体で 3.4 ポイント、男性で 2.0 ポイント、女性で 4.4 ポイント、それぞれ減少している。

④地域活動では、女性がいきいきしている



【全体・性別】

「どちらともいえない」とする割合が全体、男性、女性のいずれでも最も高い割合となっており、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体 27.0%、男性 26.0%、女性 27.6%となっている。

【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは70歳以上で38.0%、次いで40歳代(28.1%)の順となっている。

また、「どちらともいえない」とする割合で見ると、20歳代から60歳代でいずれもおおよそ60%となっている。

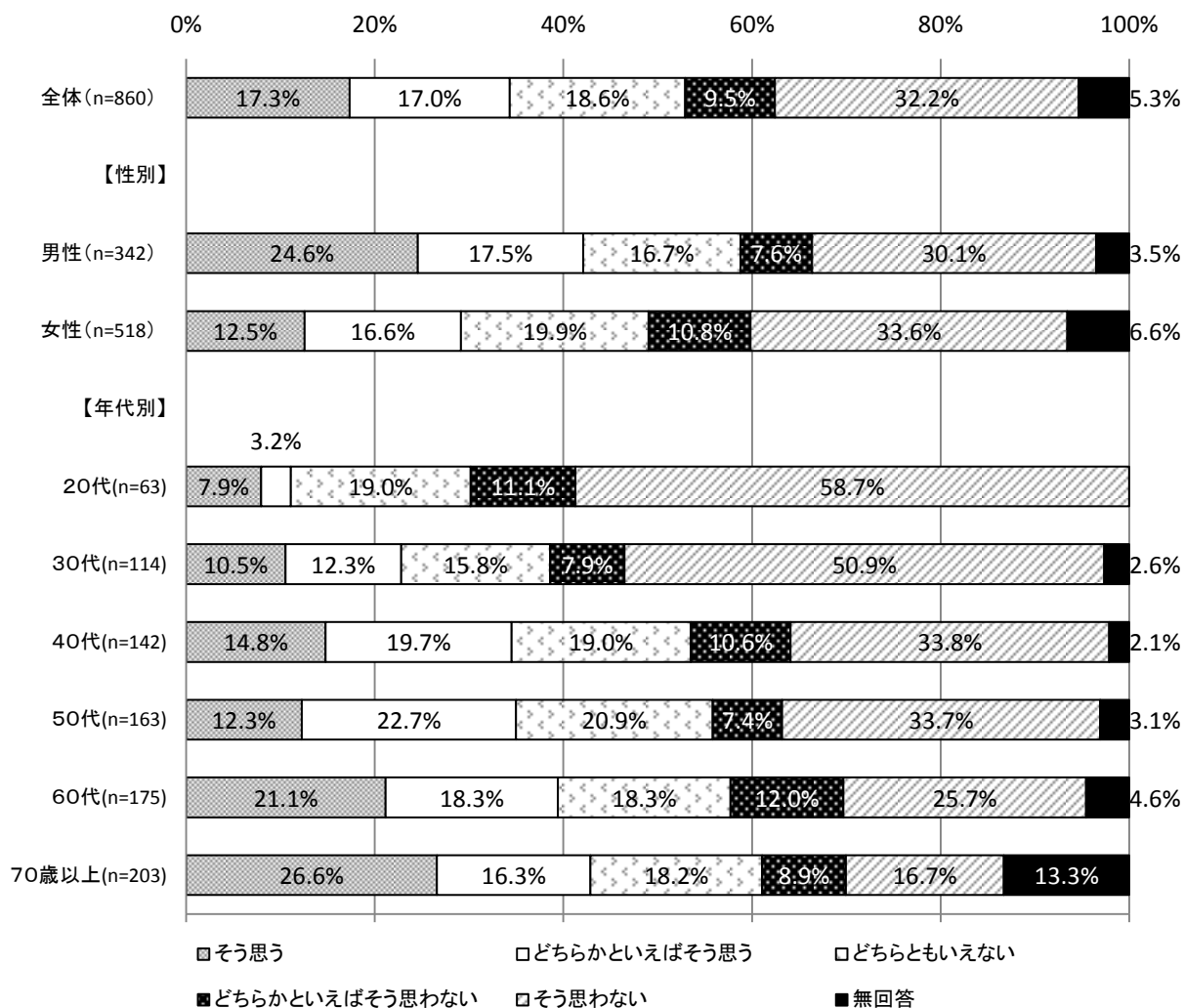
【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体で6.0ポイント、男性で8.6ポイント、女性が4.2ポイント、それぞれ減少している。

「どちらともいえない」とする割合で見ると、全体で10.2ポイント、男性で11.8ポイント、女性が9.1ポイント、それぞれ増加している。



## ⑤自治会活動に参加



### 【全体・性別】

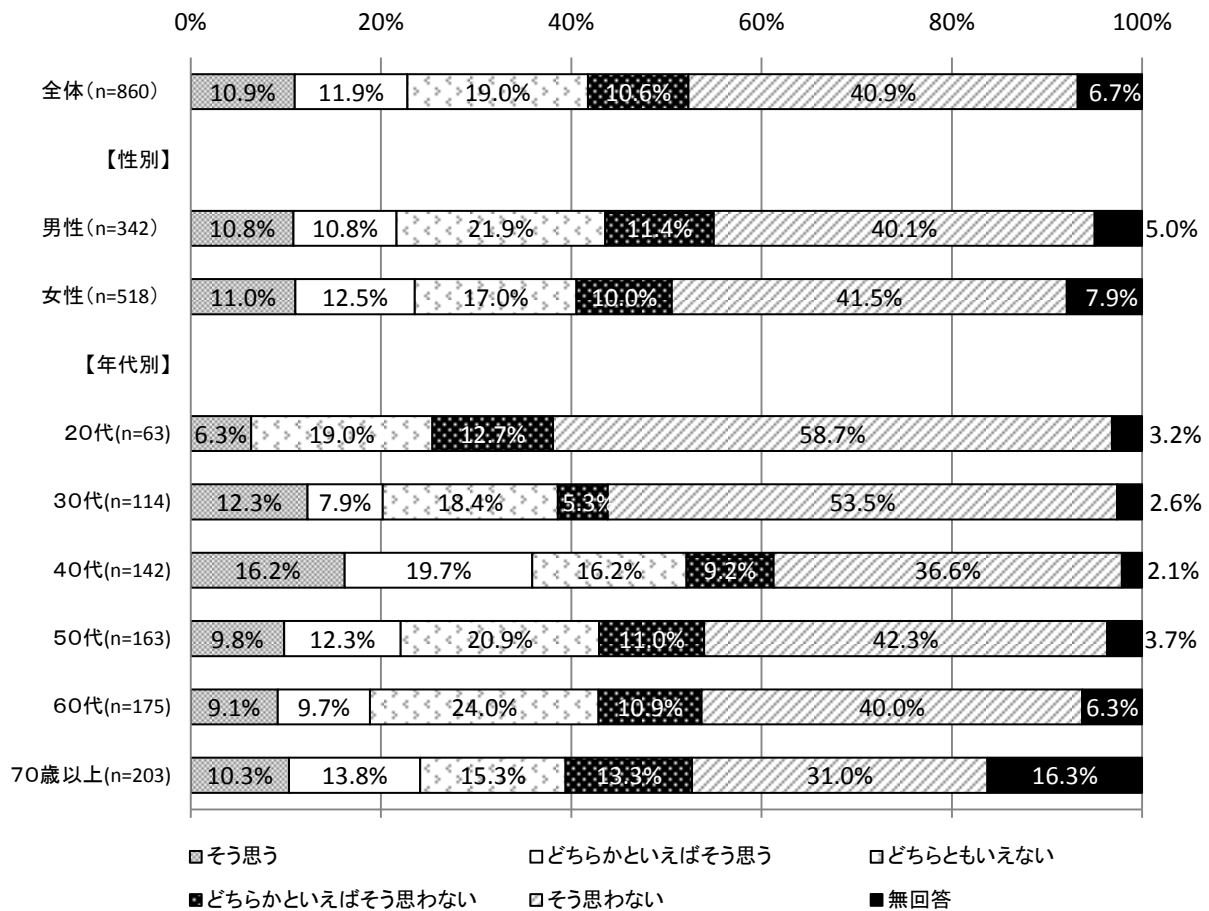
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 34.3%、男性 42.1%、女性 29.1%となっており、女性より男性の方が 13.0 ポイント高くなっている。

### 【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 42.9%、次いで 60 歳代 (39.4%)、50 歳代 (35.0%)、40 歳代 (34.5%) の順となっている。

また、20 歳代から 50 歳代では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合より、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が高くなっている。

## ⑥ P T A や地域のグループ活動に参加



### 【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合より 28.7 ポイント低くなっている。

また、女性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、男性より 1.9 ポイント高くなっている。

### 【年代別】

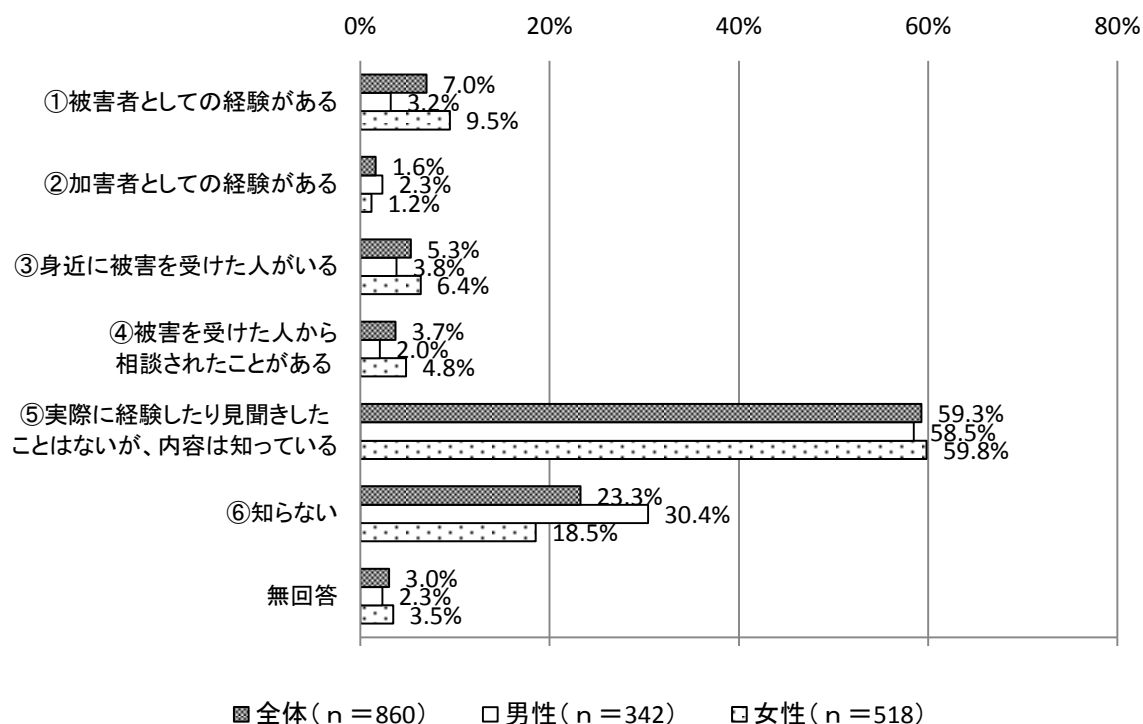
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 40 歳代で 35.9%、次いで 70 歳以上 (24.1%) となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 71.4%、次いで 30 歳代 (58.8%) となっている。

## V ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて

### (1) ドメスティック・バイオレンスの経験・認知 [問 11]

あなたは、この5年間でドメスティック・バイオレンス（DV、配偶者やパートナーなどからの精神的・身体的暴力）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



#### 【全体】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が59.3%で最も高くなっている。

#### 【性別】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が、男性女性共に最も高く、それぞれ58.5%、59.8%となっている。

また、「被害者としての経験がある」とする割合は男性で3.2%、女性で9.5%、「加害者としての経験がある」とする割合は男性で2.3%、女性で1.2%となっている。

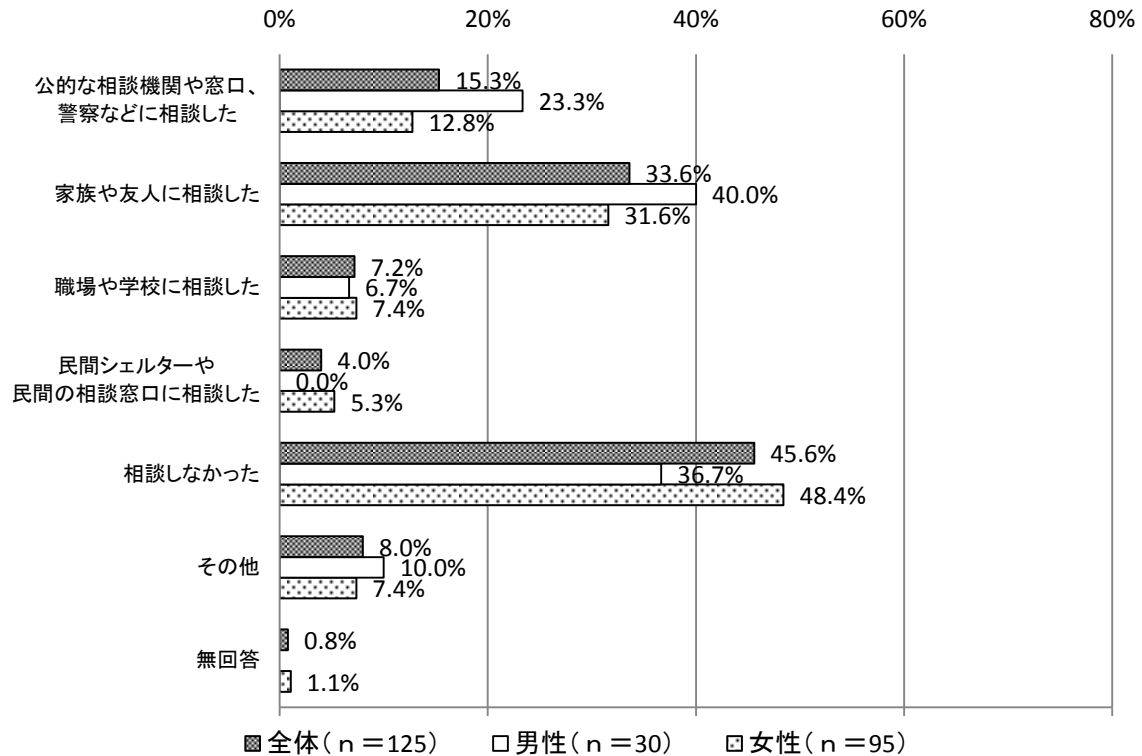
「身近に被害を受けた人がある」「被害を受けた人から相談されたことがある」とする割合は、いずれも男性より女性の方が高くなっている。

#### 【前回調査との比較】

「被害者としての経験がある」とする割合は、前回調査では全体7.3%、男性2.9%、女性10.5%でいずれも今回とほぼ同じ割合となっている。

## (2) ドメスティック・バイオレンスに対する相談先 [問 12]

問 11 で 1～4 のいずれかに○がついた方にお聞きします。あなたは、そのことについて誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



### 【全体】

「相談しなかった」とする割合が 45.6% で最も高く、次いで「家族や友人に相談した」(33.6%)、「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」(15.3%) の順となっている。

### 【性別】

男性では「家族や友人に相談した」とする割合が 40.0% で最も高く、次いで「相談しなかった」(36.7%)、「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」(23.3%) の順となっている。

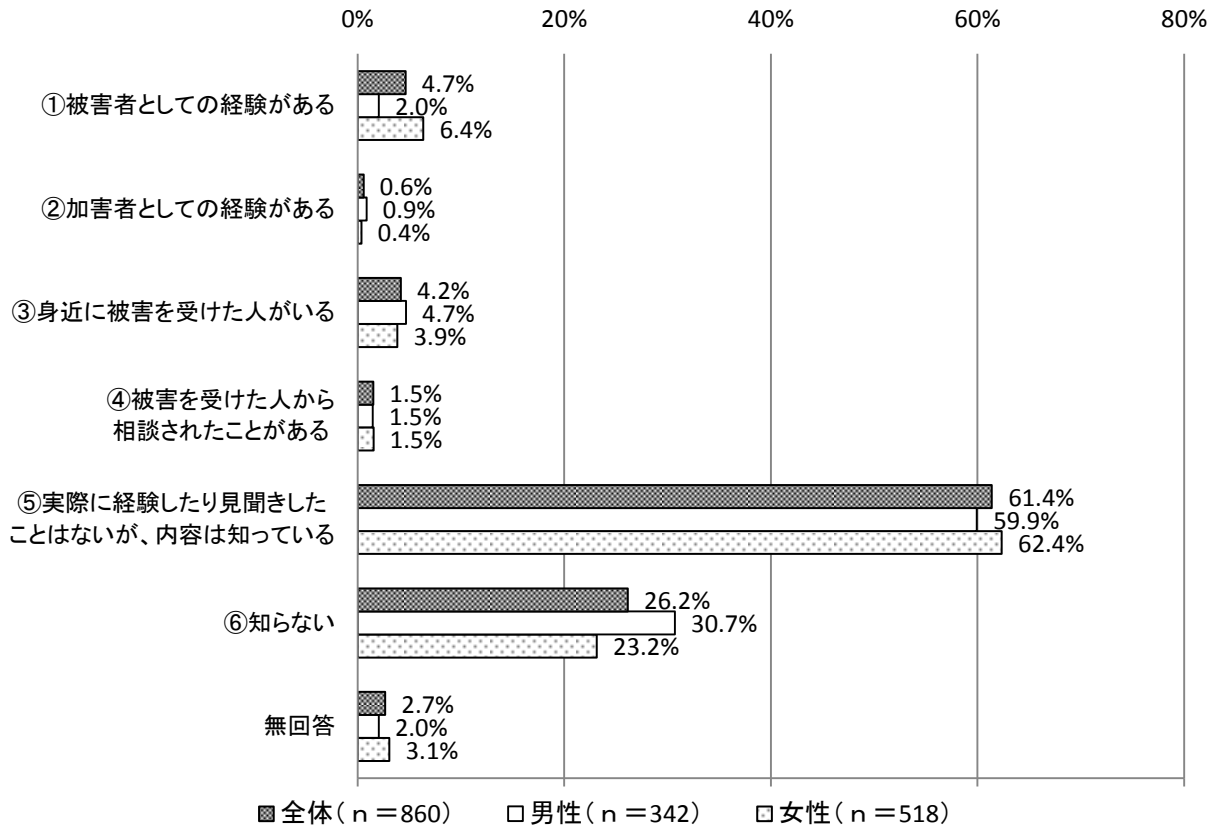
それに対して、女性では「相談しなかった」とする割合が 48.4% で最も高く、次いで「家族や友人に相談した」(31.6%)、「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」(12.8%) の順となっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて、男性では「家族や友人に相談した」「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」とする割合が、それぞれ 15.0 ポイント、15.5 ポイント増加し、「相談しなかった」とする割合が 8.6 ポイント減少している。それに対して、女性では「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」「家族や友人に相談した」とする割合がそれぞれ 6.9 ポイント、11.2 ポイント減少し、「相談しなかった」とする割合が 16.8 ポイント増加している。

### (3) セクシャル・ハラスメントの経験・認知 [問 13]

あなたは、この5年間でセクシャル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



#### 【全体】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が61.4%で最も高くなっている。

#### 【性別】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が男性、女性共に最も高く、それぞれ59.9%、62.4%となっている。

また、「被害者としての経験がある」とする割合は男性で2.0%、女性で6.4%、「加害者としての経験がある」とする割合は男性で0.9%、女性で0.4%となっている。

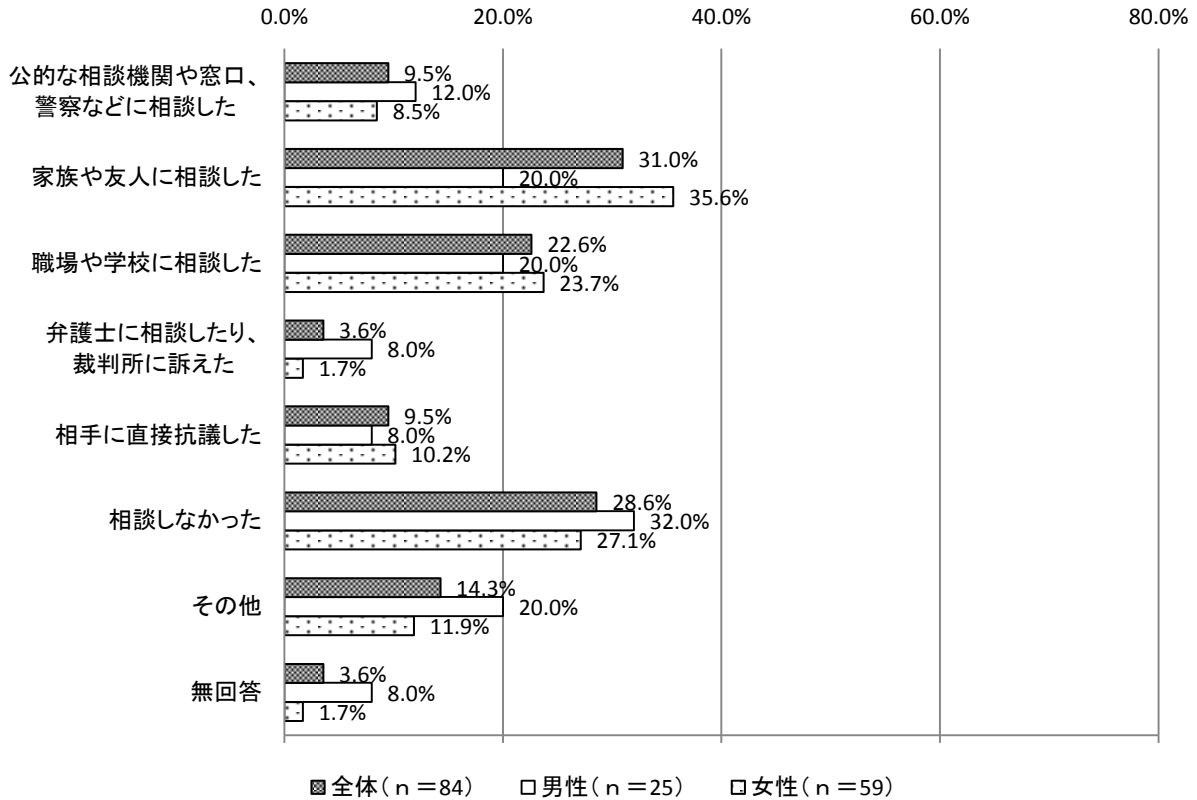
「身近に被害を受けた人がいる」「被害を受けた人から相談されたことがある」とする割合は、いずれも女性と男性で割合に差は見られない。

#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「被害者としての経験がある」とする割合は、全体2.4ポイント、女性4.9ポイントそれぞれ減少しており、男性では0.8ポイント増加している。

#### (4) セクシャル・ハラスメントへの対応 [問 14]

問 13 で 1～4 のいずれかに○がついた方にお聞きます。あなたは、その後どのような対応を  
しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



#### 【全体】

「家族や友人に相談した」とする割合が 31.0% で最も高く、次いで「相談しなかった」(28.6%)、「職場や学校に相談した」(22.6%) の順となっている。

#### 【性別】

男性では「相談しなかった」とする割合が 32.0% で最も高く、次いで「家族や友人に相談した」「職場や学校に相談した」とする割合がそれぞれ 20.0% となっている。

また、女性では「家族や友人に相談した」とする割合が 35.6% で最も高く、次いで「相談しなかった」(27.1%)、「職場や学校に相談した」(23.7%) の順となっている。

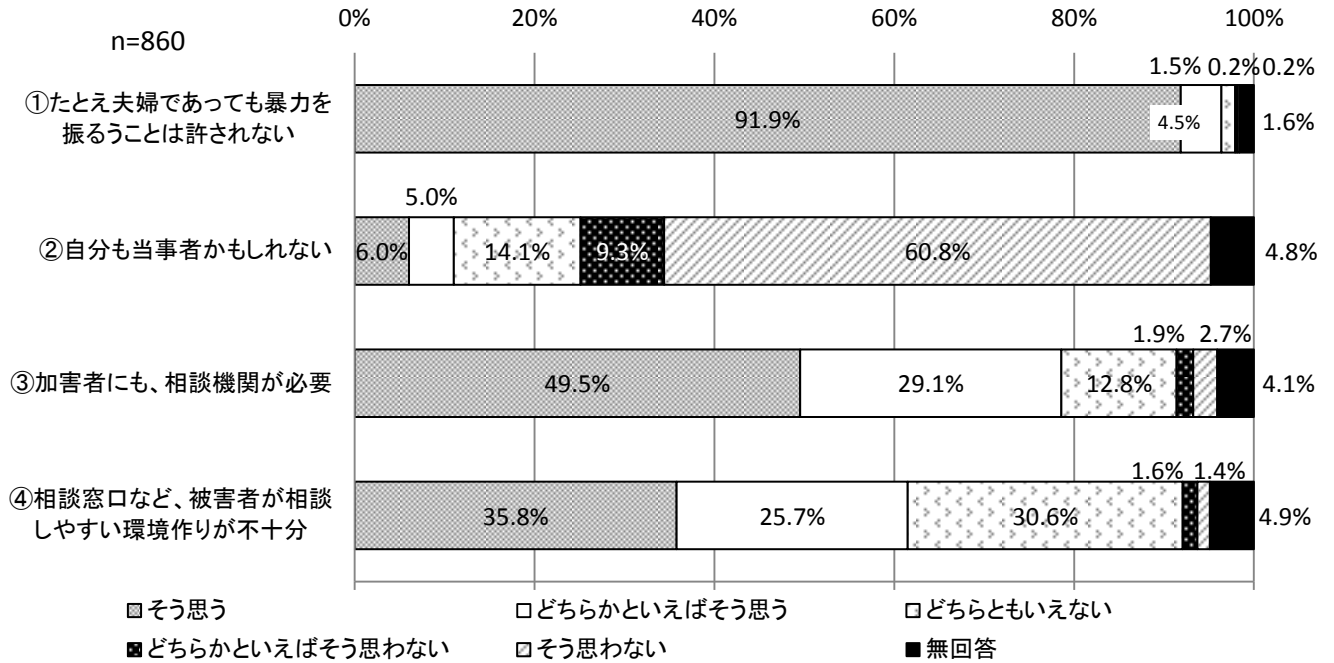
#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて、男性では「弁護士に相談したり、裁判所に訴えた」「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」とする割合が、それぞれ 5.7 ポイント、5.0 ポイント増加し、「相談しなかった」とする割合が 5.2 ポイント減少している。それに対して、女性では「家族や友人に相談した」とする割合がそれぞれ 9.5 ポイント増加し、「相談しなかった」とする割合が 12.0 ポイント減少している。

「相手に直接抗議した」とする割合は、全体で 8.2 ポイント、男性で 3.6 ポイント、女性で 9.8 ポイント、それぞれ減少している。

### (5) ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに関する考え方 [問 15]

あなたは、DVやセクハラに関して、どのような考えを持っていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



#### 【全体】

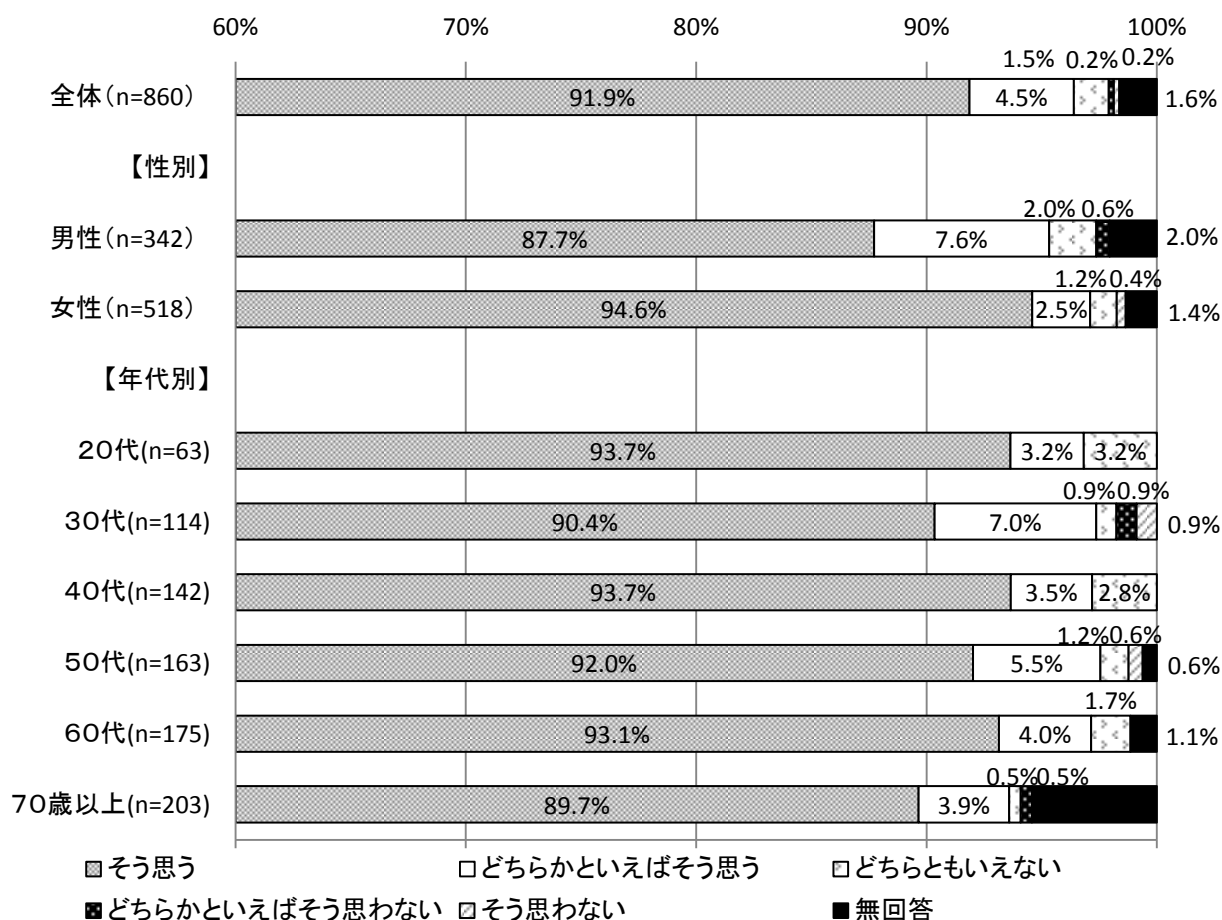
ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに対する考え方について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「たとえ夫婦であっても暴力を振るうことは許されない」が96.4%と最も高く、次いで「加害者にも相談機関が必要」(78.6%)、「被害者が相談しやすい環境作りが不十分」(61.5%)の順となっている。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合を見ると、「自分も当事者かもしれない」が70.1%と最も高くなっている。

#### 【前回の調査との比較】

前回調査の項目「夫婦でも手をあげることは許されない」において、「そう思う」とする割合は、71.2%だった。今回「たとえ夫婦であっても暴力を振るうことは許されない」で「そう思う」とする割合は、91.9%となっており、比較すると20.7ポイント増加している。

①たとえ夫婦であっても暴力を振るうことは許されない



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 96.4%、男性 95.3%、女性 97.1%となっている。

また、「そう思う」とする割合では、男性より女性の方が 6.9 ポイント高くなっている。

【年代別】

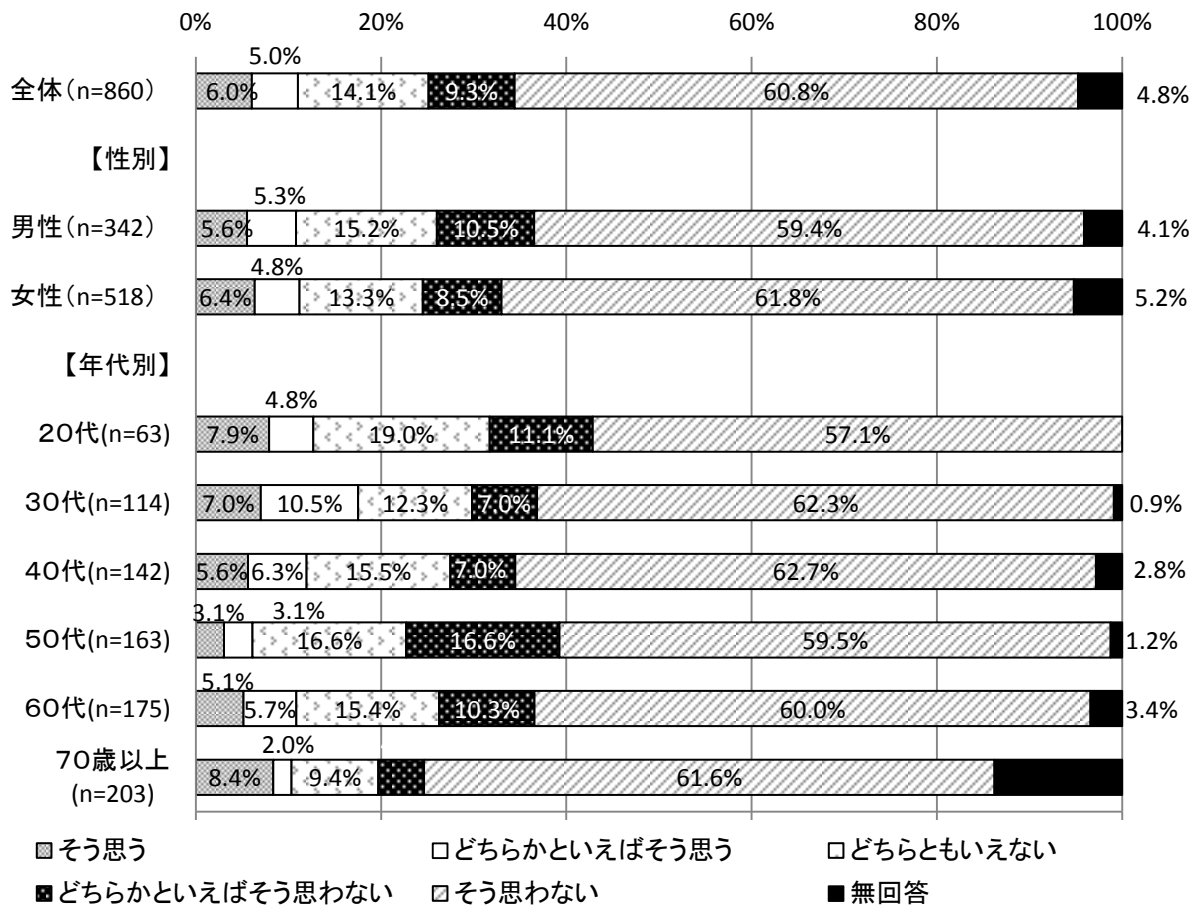
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、世代を問わず 90%以上となっている。

【前回調査との比較】

前回調査の項目「たとえ夫婦であっても手をあげることは許されない」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合と比べて、全体で 8.5 ポイント、男性で 11.1 ポイント、女性で 6.6 ポイント、それぞれ増加している。



②自分も当事者かもしれない



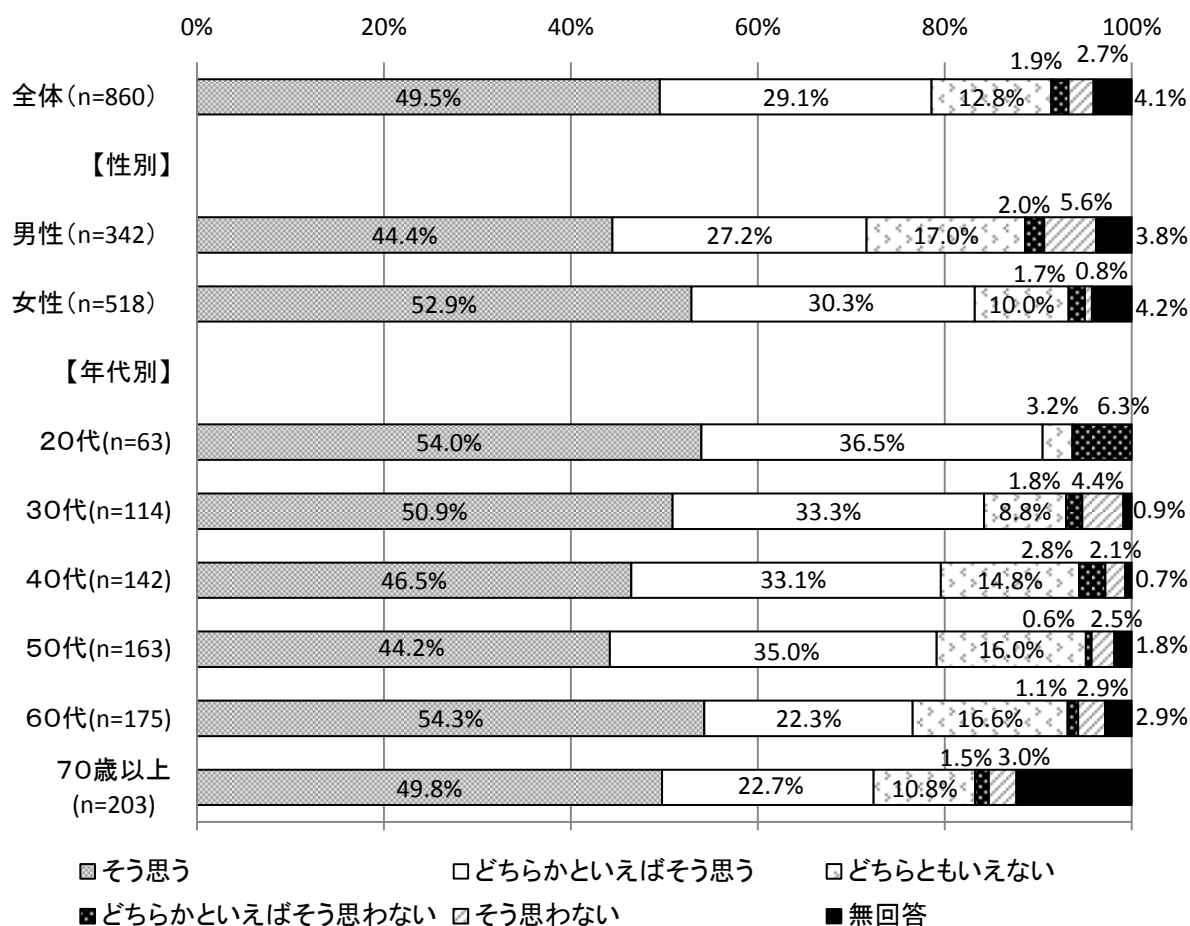
【全体・性別】

「そう思わない」とする割合が最も高く、全体 60.8%、男性 59.4%、女性 61.8%となっている。

【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは30歳代で17.5%、次いで20歳代(12.7%)、40歳代(11.9%)、60歳代(10.8%)、70歳以上(10.4%)、50歳代(6.2%)の順となっている。

### ③加害者にも、相談機関が必要



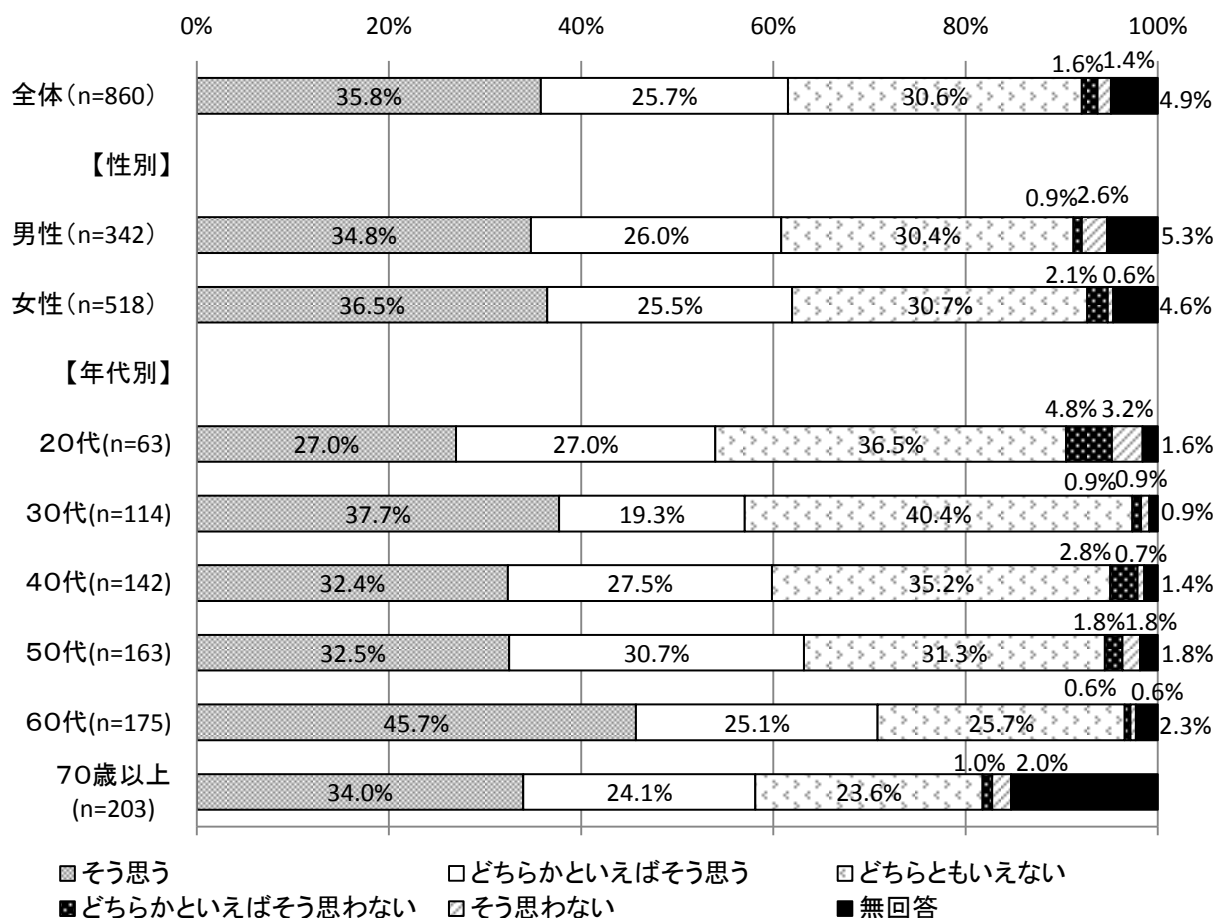
#### 【全体・性別】

「そう思う」とする割合で見ると、全体 49.5%、男性 44.4%、女性 52.9%となっており、男性より女性の方が 8.5 ポイント高くなっている。

#### 【年代別】

「そう思う」とする割合が最も高いのは 60 歳代の 54.3%で、その他の世代でも 40%以上の割合となっている。

④相談窓口など、被害者が相談しやすい環境作りが不十分



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 61.5%、男性 60.8%、女性 62.0%となっている。

【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは60歳代で70.8%だが、全ての世代で50%を越えている。

また、「そう思う」とする割合に限って見ても、60歳代が45.7%と最も高くなっている。

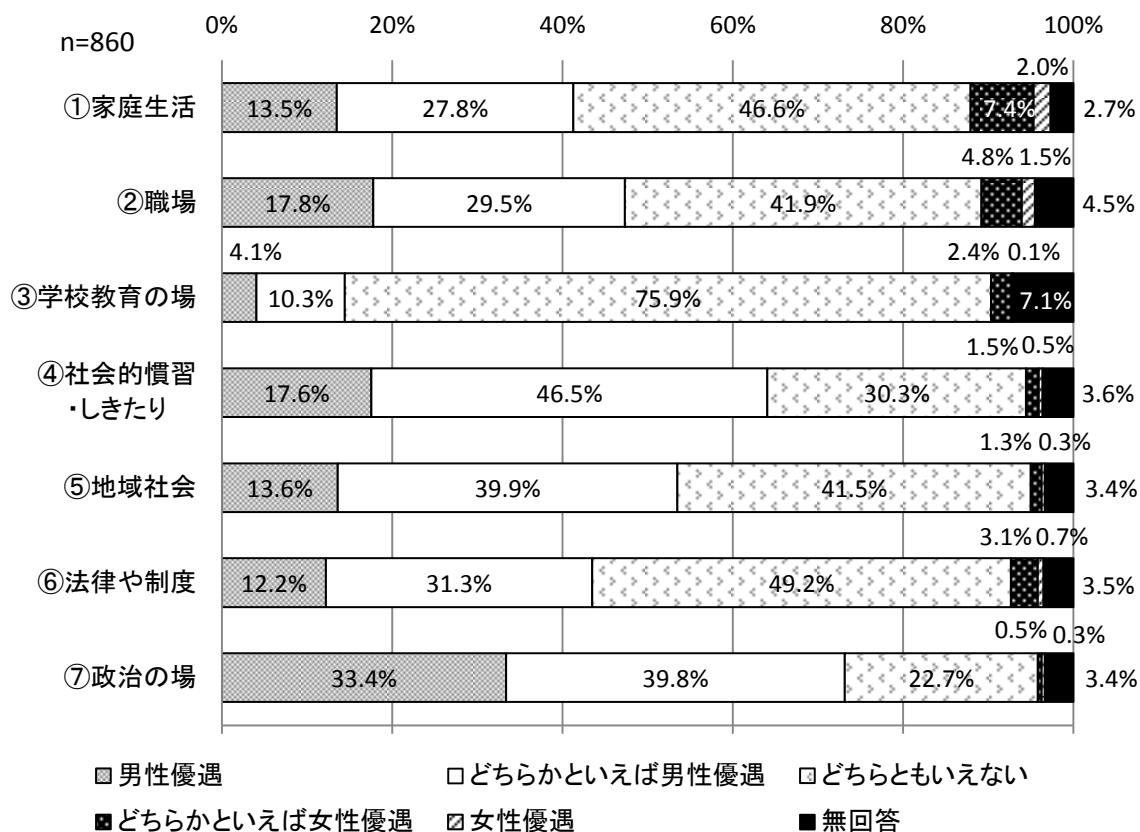
【前回調査との比較】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体では前回調査が62.1%で今回調査結果とほぼ変わらない。年代別では、20歳代で14.0ポイント、30歳代で4.1ポイント、40歳代で5.1ポイント、それぞれ減少し、50歳代では0.4ポイント、60歳代で4.5ポイント、70歳代で5.5ポイントそれぞれ増加している。

## VI 男女共同参画に関する意識や考え方について

### (1) 男女平等についての意識 [問16]

あなたは、次の①～⑦のような分野で男性優遇または女性優遇だと思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



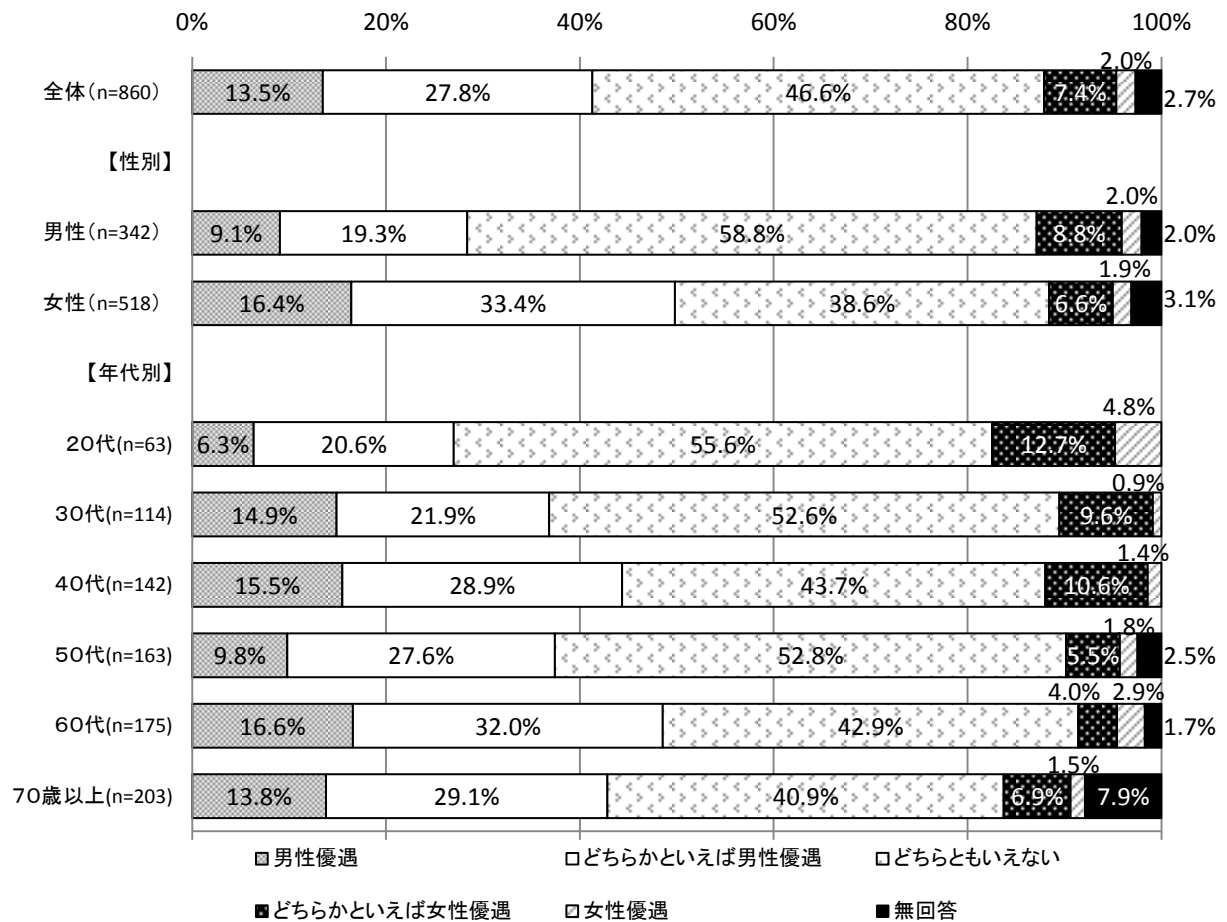
#### 【全体】

男女平等についての意識について「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、「政治の場」が73.2%で最も高く、次いで「社会的慣習・しきたり」(64.1%)、「地域社会」(53.5%)の順となっている。

また、「どちらともいえない」とする割合で見ると、「学校教育の場」が75.9%で最も高く、次いで「法律や制度」(49.2%)、「家庭生活」(46.6%)、「職場」(41.9%)の順となっている。

「女性優遇」「どちらかといえば女性優遇」を合わせた割合で見ると、「家庭生活」が9.4%で最も高く、次いで「職場」(6.3%)、「法律や制度」(3.8%)の順で、いずれも低い割合となっている。

## ①家庭生活



### 【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体 41.3%、男性 28.4%、女性 49.8%となっており、男性より女性が 21.4 ポイント高くなっている。

### 【年代別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が最も高いのは 60 歳代で 48.6%、最も低いのは 20 歳代で 26.9%となっている。

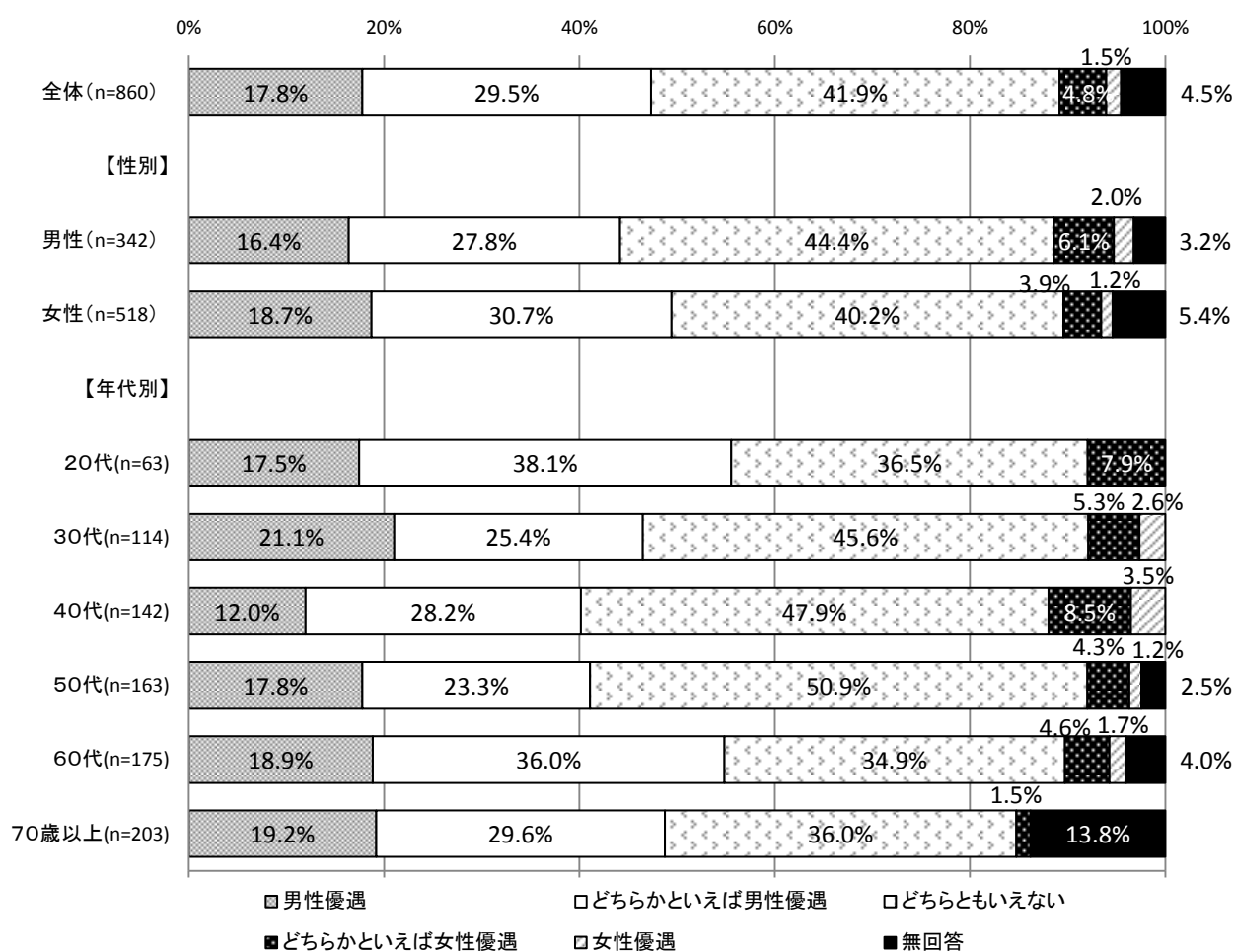
それに対して、「女性優遇」「どちらかといえば女性優遇」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 17.5%、最も低いのは 60 歳代で 6.9%となっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 6.9 ポイント、男性で 17.2 ポイント、女性で 0.2 ポイント、それぞれ減少している。

また、「どちらともいえない」とする割合が、全体で 11.3 ポイント、男性で 20.1 ポイント、女性で 5.7 ポイント、それぞれ増加している。

## ②職場



### 【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体 47.3%、男性 44.2%、女性 49.4%となっている。

### 【年代別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が最も高いのは20歳代で55.6%、最も低いのは40歳代で40.2%となっている。

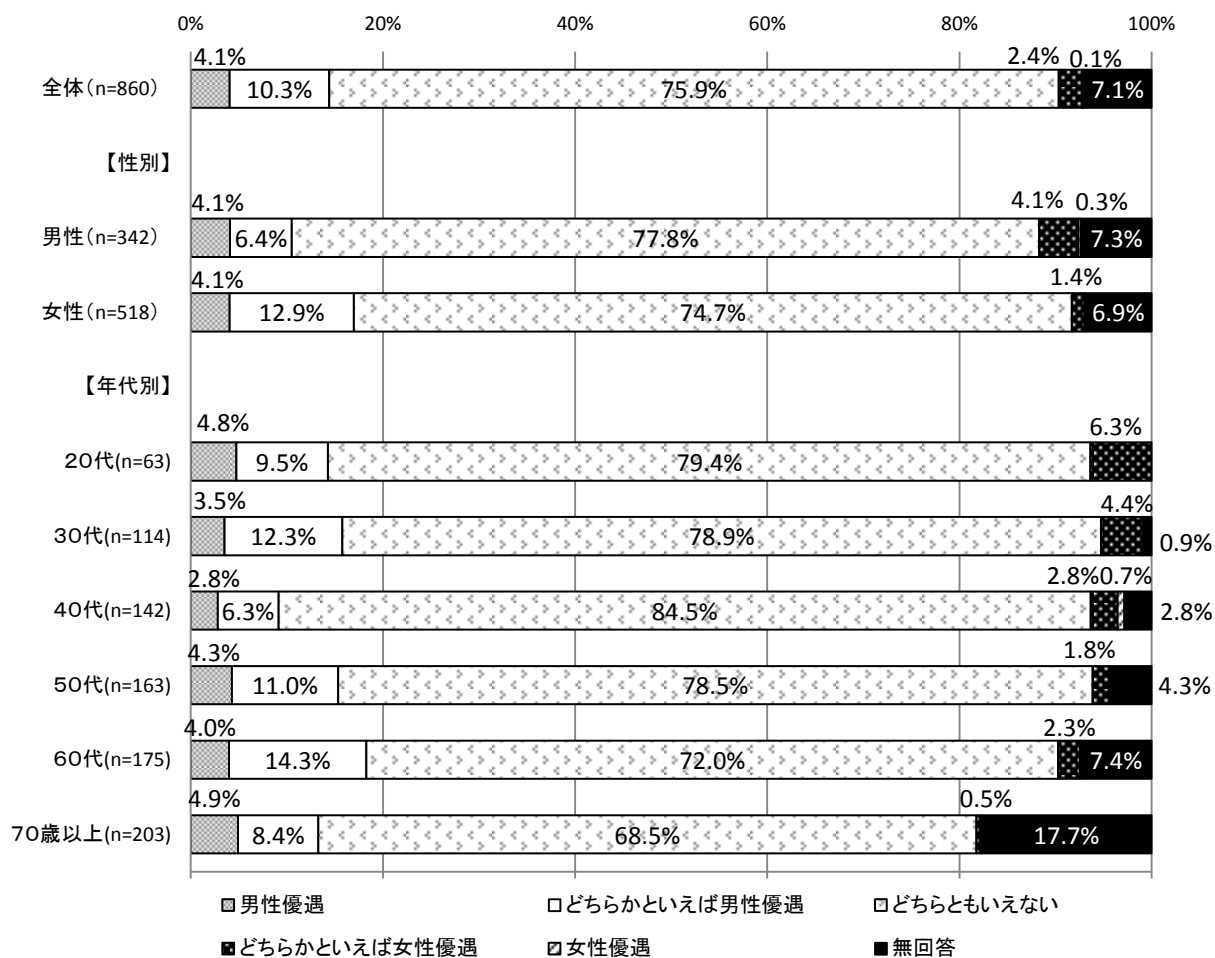
それに対して、「女性優遇」「どちらかといえば女性優遇」を合わせた割合が最も高いのは40歳代で12.0%で、最も低いのは70歳以上で1.5%となっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で14.4ポイント、男性で17.8ポイント、女性で12.1ポイント、それぞれ減少している。

「どちらともいえない」とした割合が、全体で14.1ポイント、男性で18.2ポイント、女性で11.3ポイント、それぞれ増加している。

### ③学校教育の場



#### 【全体・性別】

「どちらともいえない」とした割合が、全体 75.9%、男性 77.8%、女性 74.7%と高くなっている。「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体 14.4%、男性 10.5%、女性 17.0%となっている。

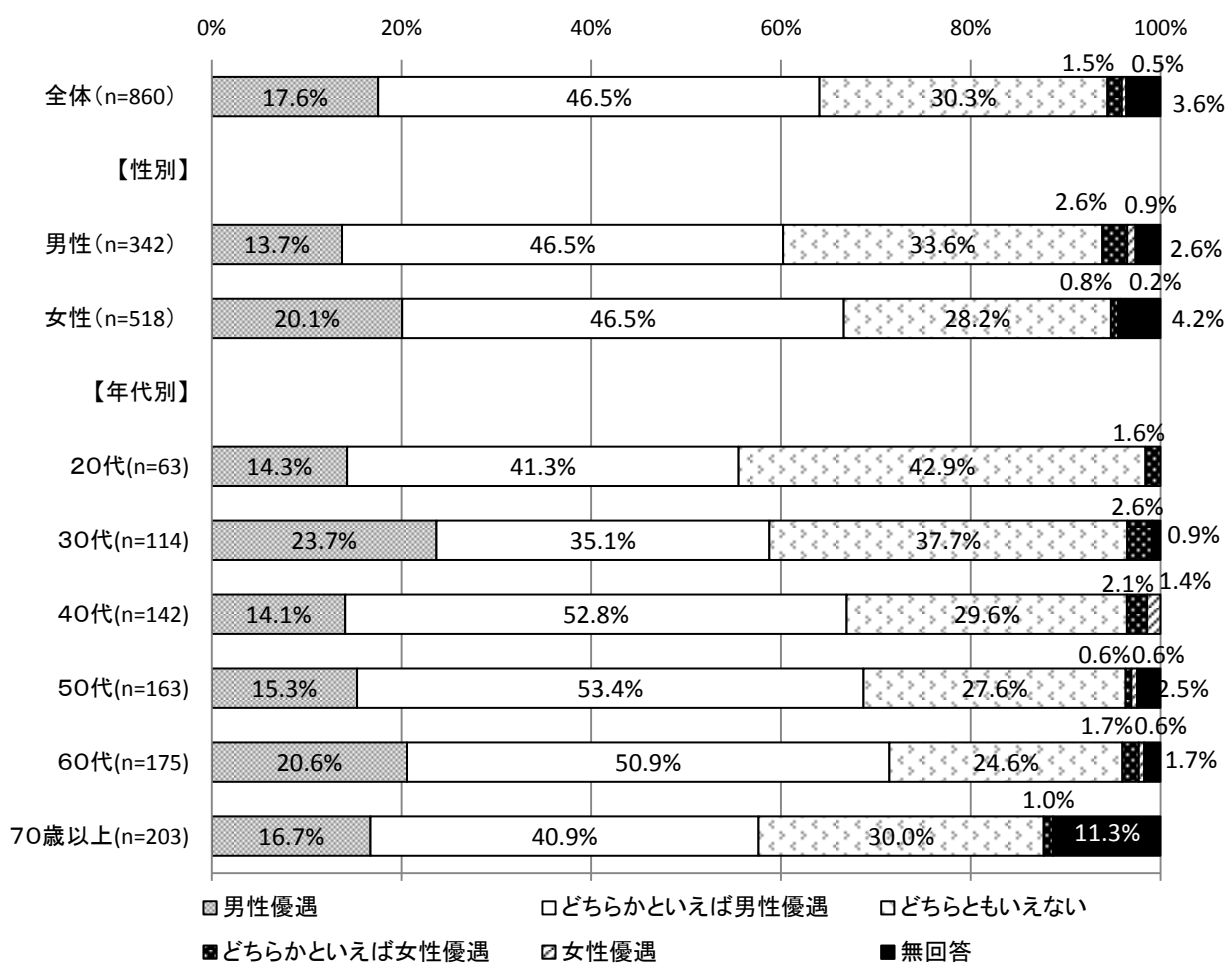
#### 【年代別】

「どちらともいえない」とした割合が、全ての年代で高い割合となっている。

#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 1.8 ポイント、男性で 2.6 ポイント、女性で 1.5 ポイント、それぞれ減少している。

#### ④社会的慣習・しきたり



#### 【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体 64.1%、男性 60.2%、女性 66.6%となっており、男性より女性の方が 6.4 ポイント高くなっている。

#### 【年代別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が最も高いのは 60 歳代で 71.5%、次いで 50 歳代 (68.7%)、40 歳代 (66.9%) の順となっている。

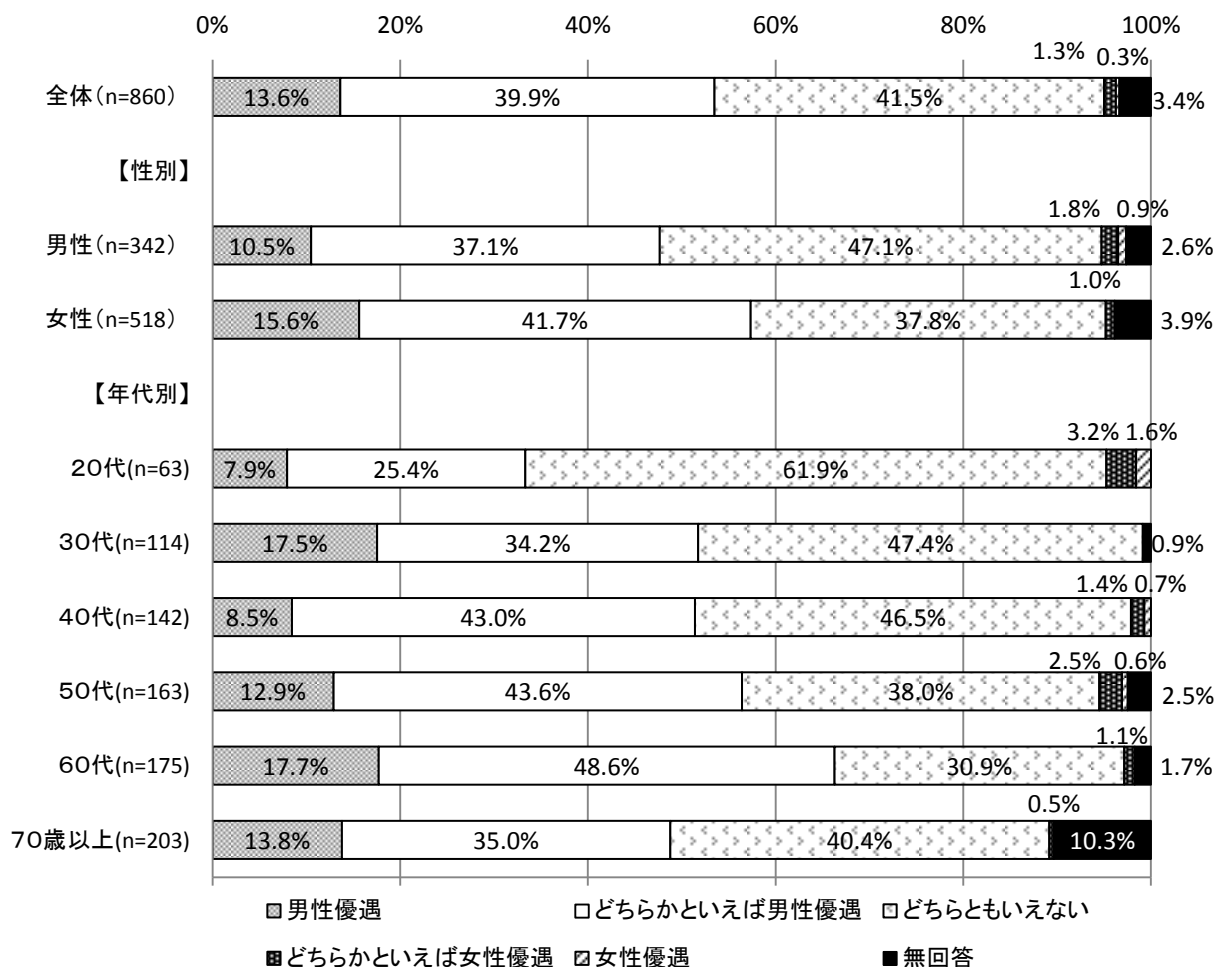
#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合は、全体、男性、女性ともに、ほとんど差は見られない。

「どちらともいえない」とする割合が、全体で 3.4 ポイント、男性で 1.7 ポイント、女性で 5.0 ポイント、それぞれ増加している。



## ⑤地域社会



### 【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体 53.5%、男性 47.6%、女性 57.3%となっており、男性より女性の方が9.7ポイント高くなっている。

### 【年代別】

「どちらともいえない」とする割合が最も高いのは20歳代で61.9%、最も低いのは60歳代で30.9%となっている。

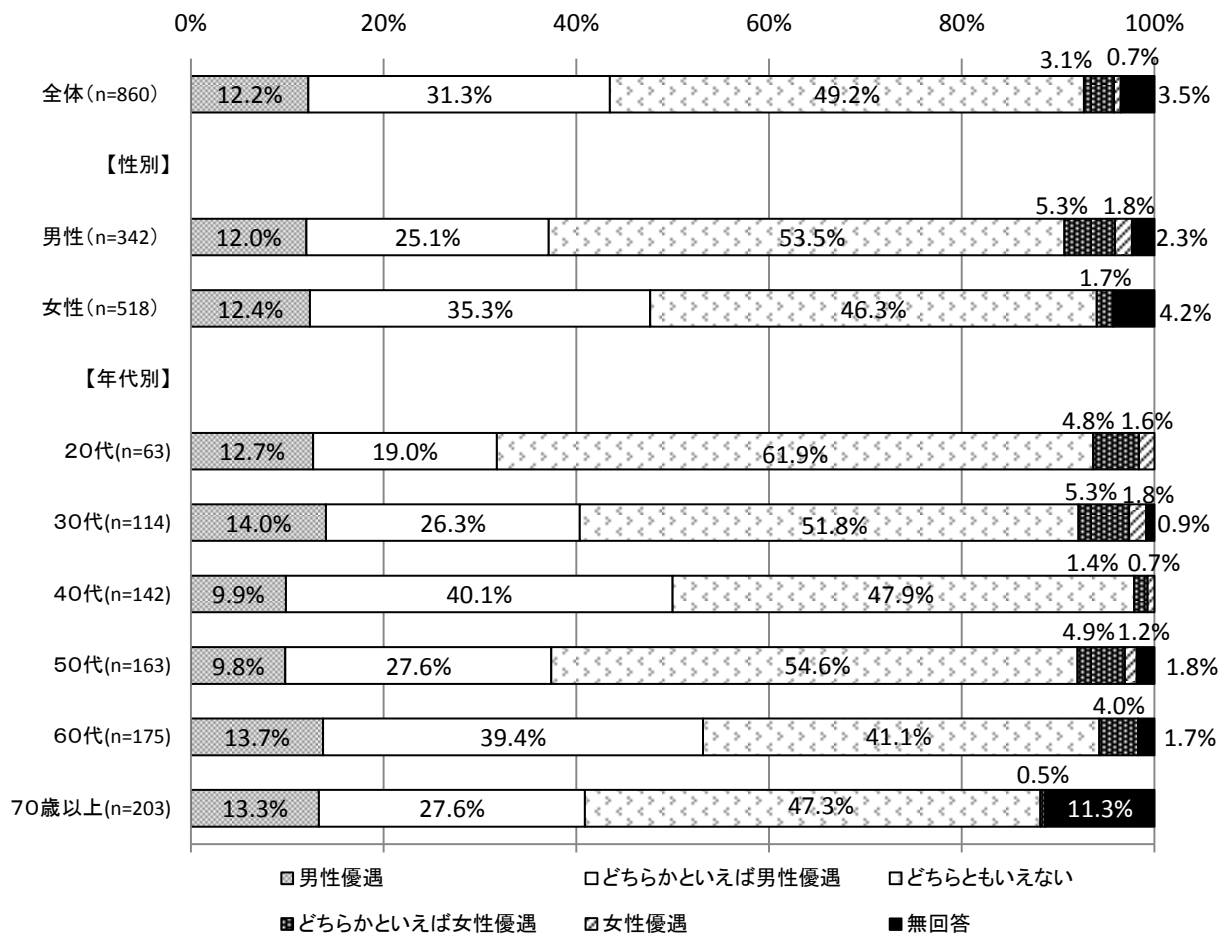
「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が最も高いのは60歳代で66.3%となっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合は、全体、男性、女性ともに、ほとんど差は見られない。

「どちらともいえない」とする割合が、全体で4.1ポイント、男性で3.5ポイント、女性で4.9ポイント、それぞれ増加している。

## ⑥法律や制度



### 【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体 43.5%、男性 37.1%、女性 47.7%となっており、男性より女性の方が 10.6 ポイント高くなっている。

### 【年代別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が最も高いのは 60 歳代で 53.1%、最も低いのは 20 歳代で 31.7%となっている。

「どちらともいえない」とする割合が最も高いのは 20 歳代で 61.9%で、最も低いのは 60 歳代で 41.1%となっている。

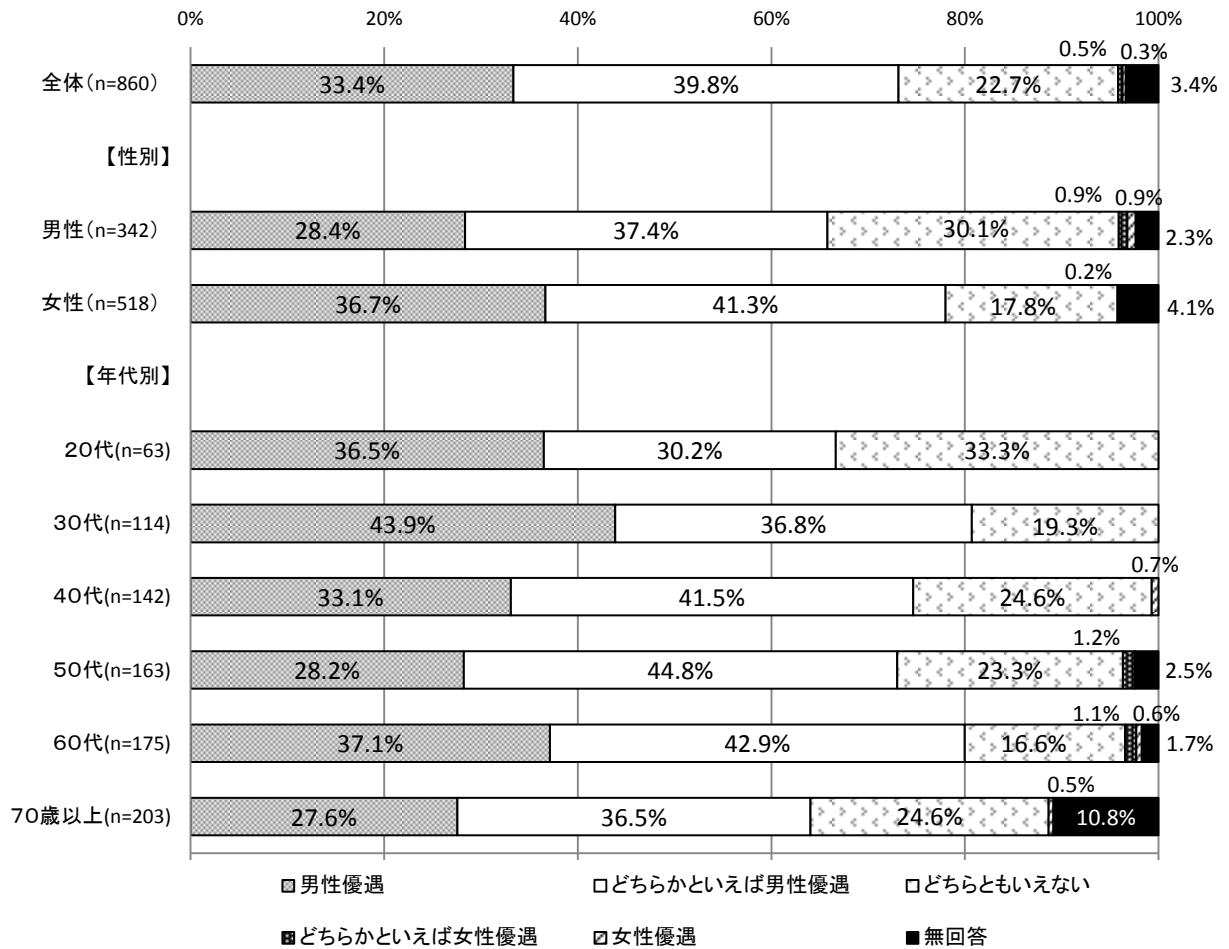
### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 7.4 ポイント、男性で 10.8 ポイント、女性で 4.5 ポイント、それぞれ増加している。

「女性優遇」「どちらかといえば女性優遇」を合わせた割合は、前回調査と比べてほとんど差は見られない。

「どちらともいえない」とする割合が、全体で 3.9 ポイント、男性で 6.8 ポイント、女性で 1.6 ポイント、それぞれ減少している。

## ⑦政治の場



### 【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体 73.2%、男性 65.8%、女性 78.0%となっており、男性より女性の方が 12.2 ポイント高くなっている。

### 【年代別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が最も高いのは 30 歳代の 80.7%で、全ての世代で 60%以上となっている。

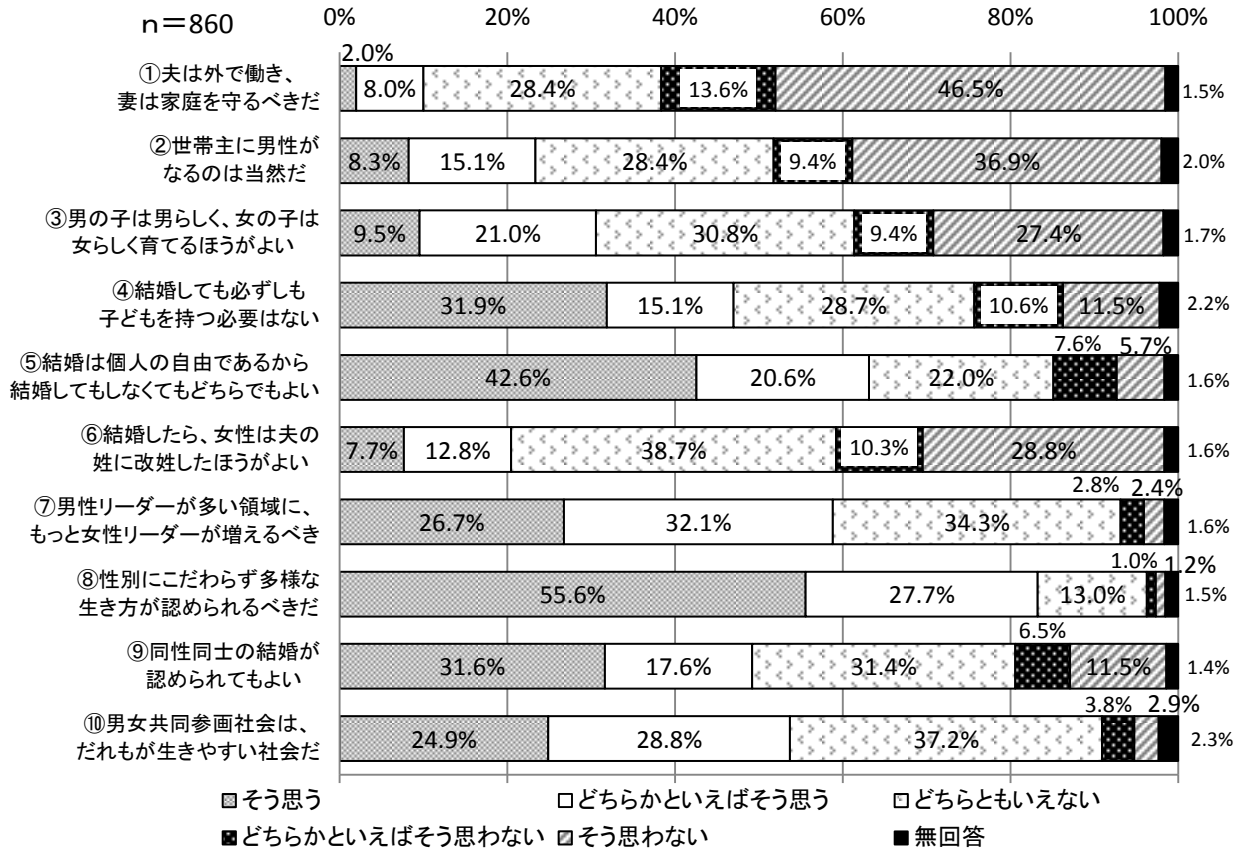
### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 8.7 ポイント、男性で 9.8 ポイント、女性で 7.4 ポイント、それぞれ増加している。

「どちらともいえない」とする割合が、全体で 4.8 ポイント、男性で 5.3 ポイント、女性で 4.0 ポイント、それぞれ減少している。

## (2) 男女のあり方についての考え方 [問 17]

あなたは、次の①～⑩のような考えや思いについて、どのように思われますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

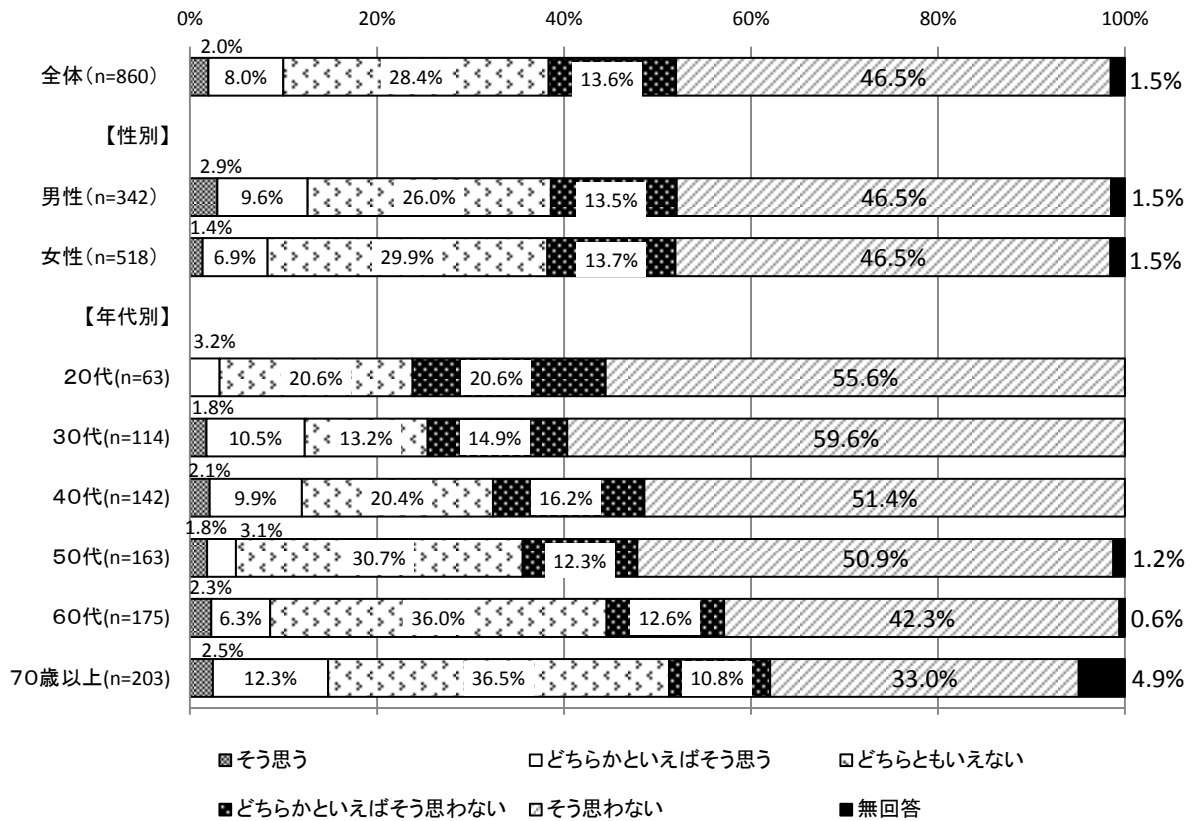


### 【全体】

男女のあり方についての考え方について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ」が83.3%で最も高く、次いで「結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもよい」(63.2%)、「男性リーダーが多い領域に、もっと女性リーダーが増えるべき」(58.8%)の順となっている。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合を見ると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が60.1%で最も高く、次いで「世帯主に男性になるのは当然だ」(46.3%)、「結婚したら女性は夫の姓に改姓したほうがよい」(39.1%)の順となっている。

## ①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



### 【全体・性別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体 60.1%、男性 60.0%、女性 60.2%となっており、男性と女性で、ほとんど差はみられない。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 10.0%、男性 12.5%、女性 8.3%となっており、女性より男性の方が 4.2 ポイント高くなっている。

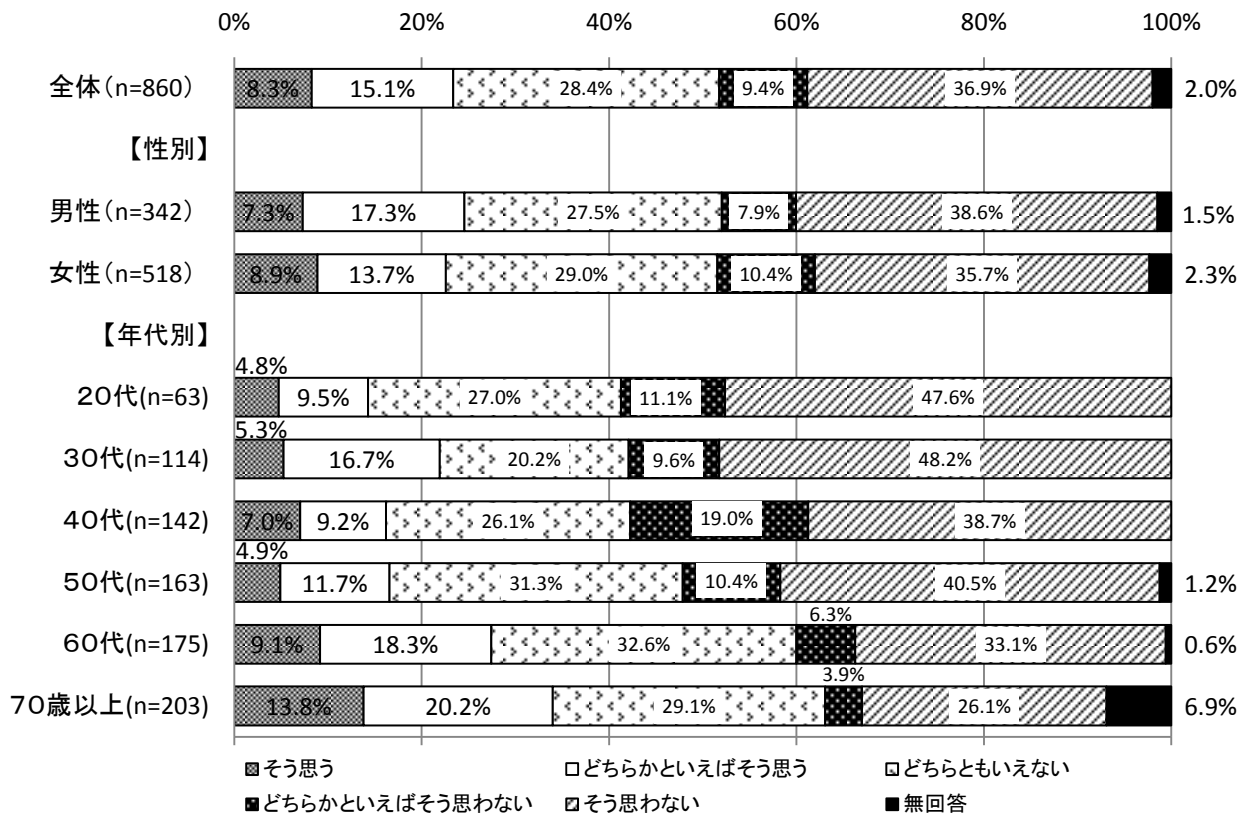
### 【年代別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 76.2%、次いで 30 歳代 (74.5%)、40 歳代 (67.6%) の順となっており、年代を問わず「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が全体で 16.0 ポイント、男性で 19.5 ポイント、女性で 13.6 ポイント、それぞれ増加している。

## ②世帯主に男性になるのは当然だ



### 【全体・性別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合よりも全体で22.9ポイント、男性で21.9ポイント、女性で23.5ポイント、それぞれ高くなっている。

### 【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは70歳以上で34.0%、次いで60歳代(27.4%)、30歳代(22.0%)の順となっている。

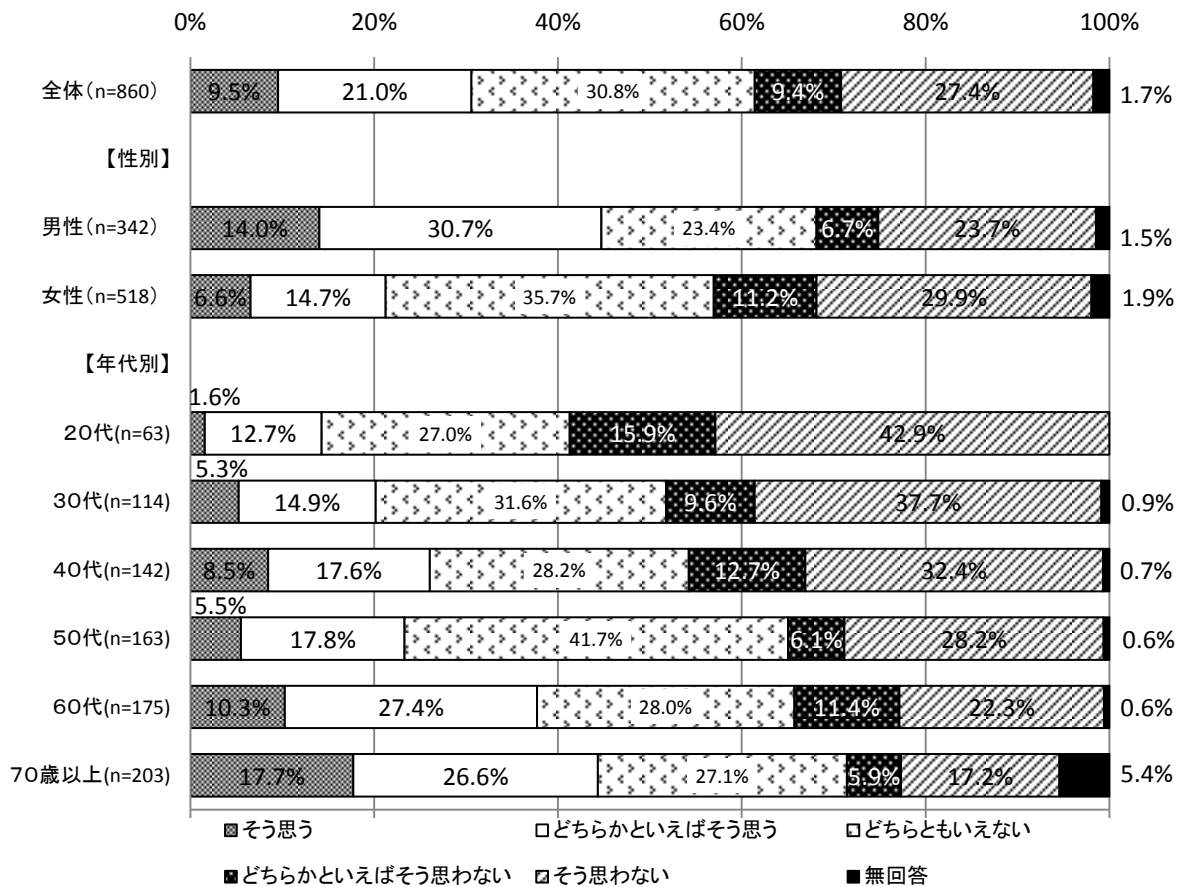
それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは20歳代で58.7%、次いで30歳代(57.8%)、40歳代(57.7%)の順となっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が、全体で16.6ポイント、男性で16.1ポイント、女性で16.8ポイント、それぞれ増加している。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、全体で10.3ポイント、男性で9.4ポイント、女性で10.9ポイント、それぞれ減少している。

### ③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい



#### 【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 30.5%、男性 44.7%、女性 21.3%となっており、女性より男性の方が 23.4 ポイント高くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、男性より女性の方が 10.7 ポイント高くなっている。

#### 【年代別】

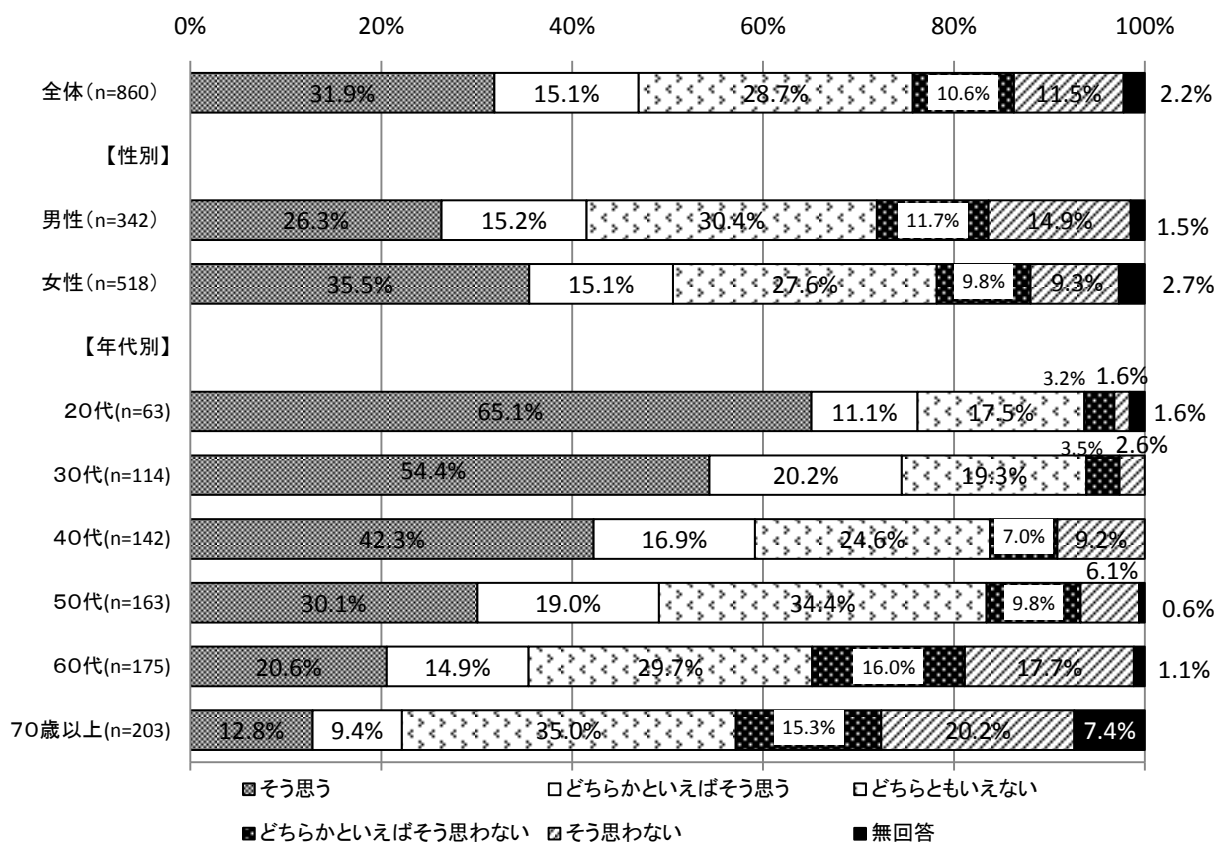
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 44.3%、次いで 60 歳代 (37.7%)、40 歳代 (26.1%) の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代の 58.8%で、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 15.0 ポイント、男性で 10.7 ポイント、女性で 17.1 ポイント、それぞれ減少している。

#### ④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



#### 【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 47.0%、男性 41.5%、女性 50.6%となっており、男性より女性の方が 9.1 ポイント高くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体 22.1%、男性 26.6%、女性 19.1%となっており、女性より男性の方が 7.5 ポイント高くなっている。

#### 【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 76.2%、次いで 30 歳代 (74.6%)、40 歳代 (59.2%) となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

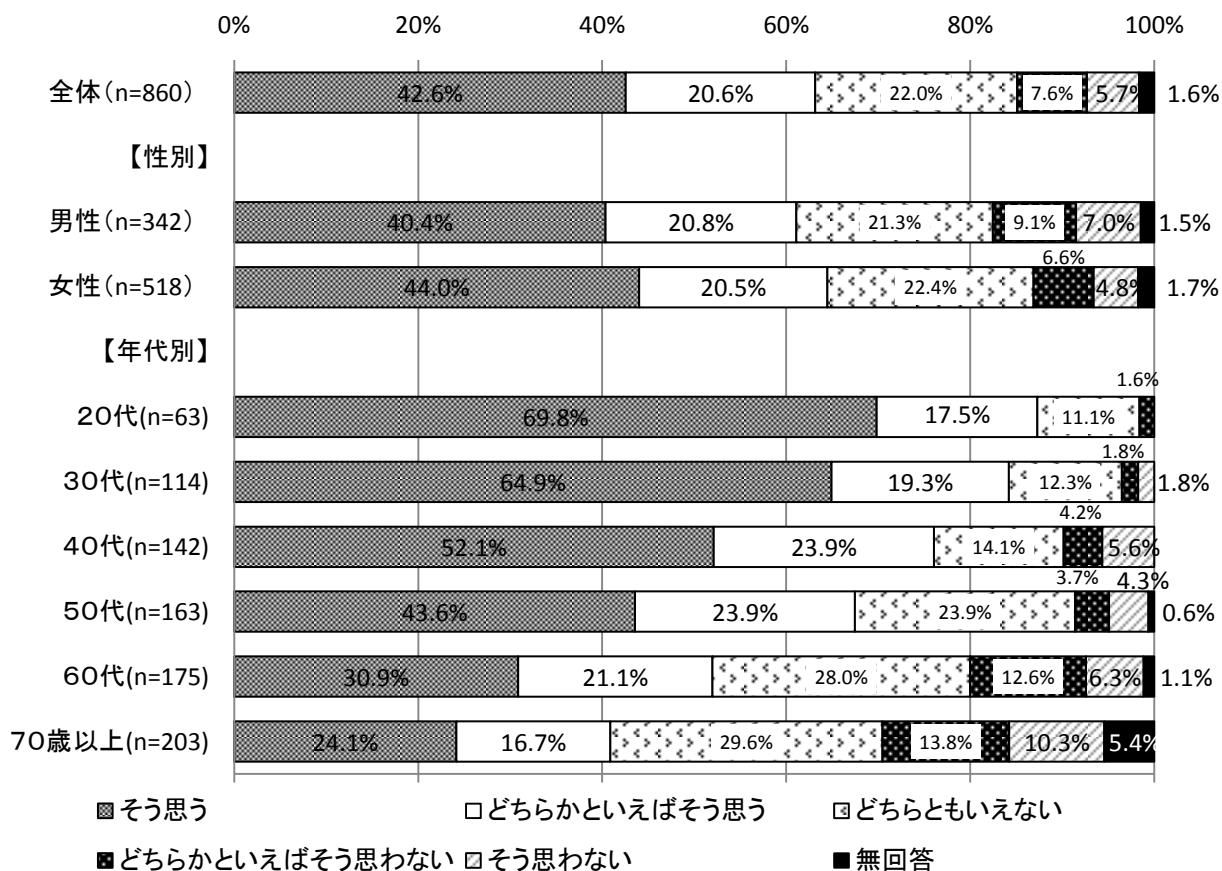
それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 35.5%、次いで 60 歳代 (33.7%)、40 歳代 (16.2%) の順となっており、年代が下がるにつれて割合が低くなっている。

#### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 17.5 ポイント、男性で 18.6 ポイント、女性で 16.3 ポイント、それぞれ増加している。



⑤結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 63.2%、男性 61.2%、女性 64.5%となっており、男性より女性の方が 3.3 ポイント高くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体 13.3%、男性 16.1%、女性 11.4%となっており、女性より男性の方が 4.7 ポイント高くなっている。

【年代別】

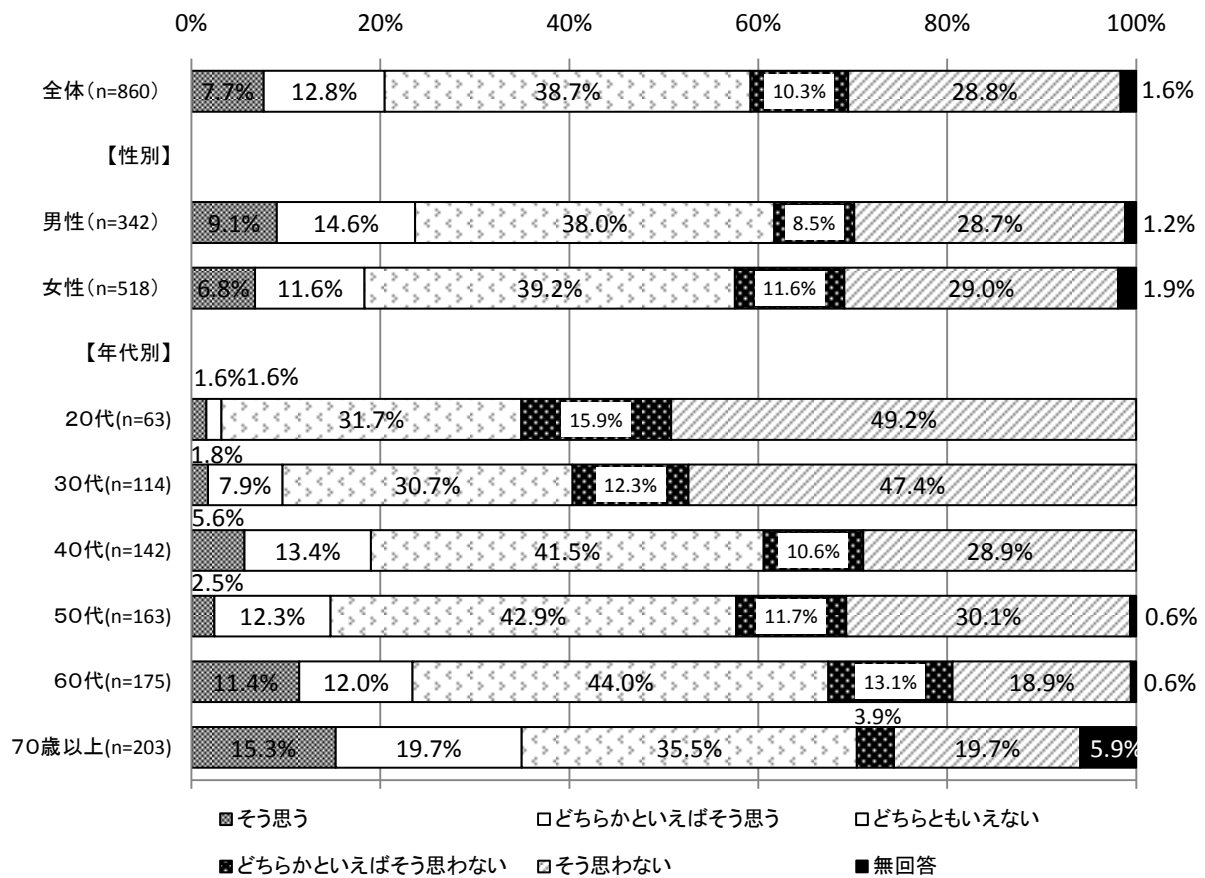
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 87.3%、次いで 30 歳代 (84.2%)、40 歳代 (76.0%) となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 24.1%、次いで 60 歳代 (18.9%)、40 歳代 (9.8%) の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 16.8 ポイント、男性で 22.5 ポイント、女性で 12.5 ポイント、それぞれ増加している。

⑥結婚したら、女性は夫の姓に改姓したほうがよい



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 20.5%、男性 23.7%、女性 18.4%となっており、女性より男性の方が 5.3 ポイント高くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体 39.1%、男性 37.2%、女性 40.6%となっており、男性より女性の方が 3.4 ポイント高くなっている。

【年代別】

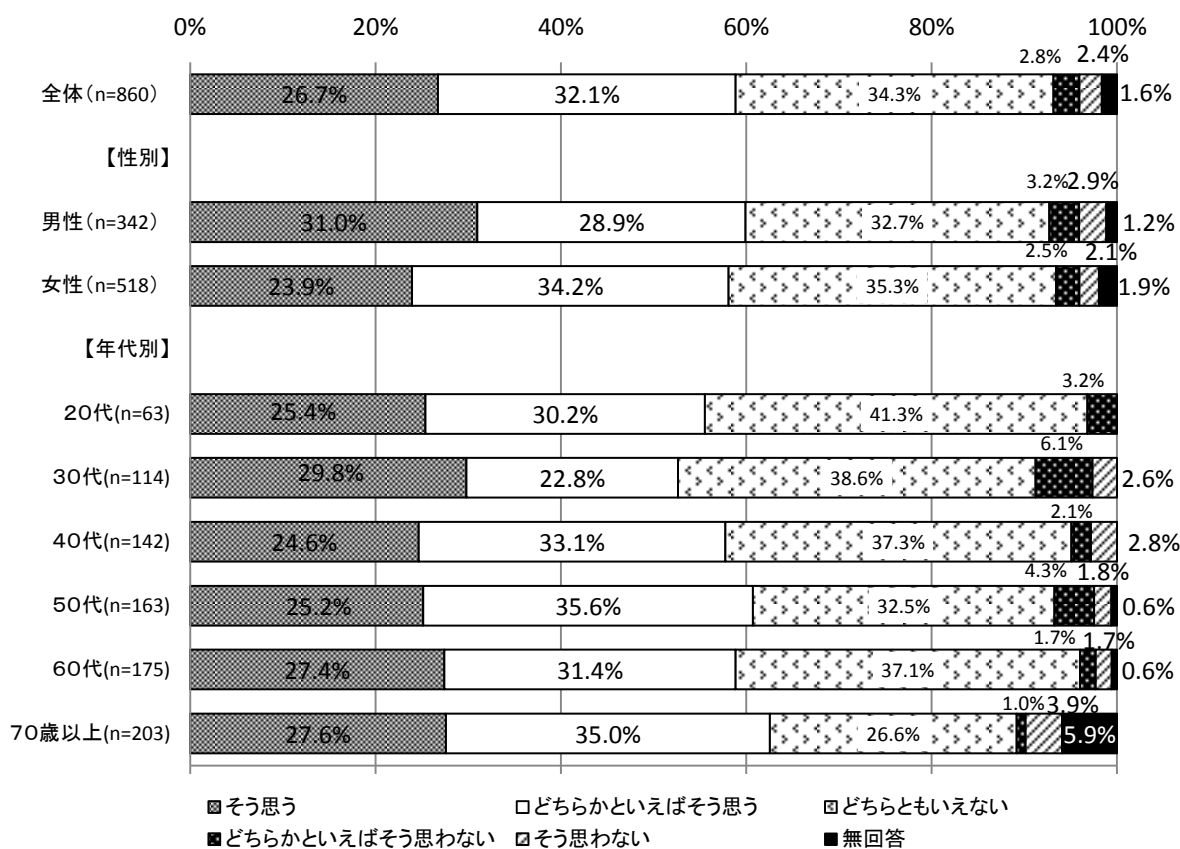
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのが 70 歳以上で 35.0%、次いで 60 歳代 (23.4%)、40 歳代 (19.0%) の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのが 20 歳代で 65.1%、次いで 30 歳代 (59.7%)、50 歳代 (41.8%) の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 9.6 ポイント、男性で 10.2 ポイント、女性で 9.0 ポイント、それぞれ減少している。

⑦男性リーダーが多い領域に、もっと女性リーダーが増えるべき



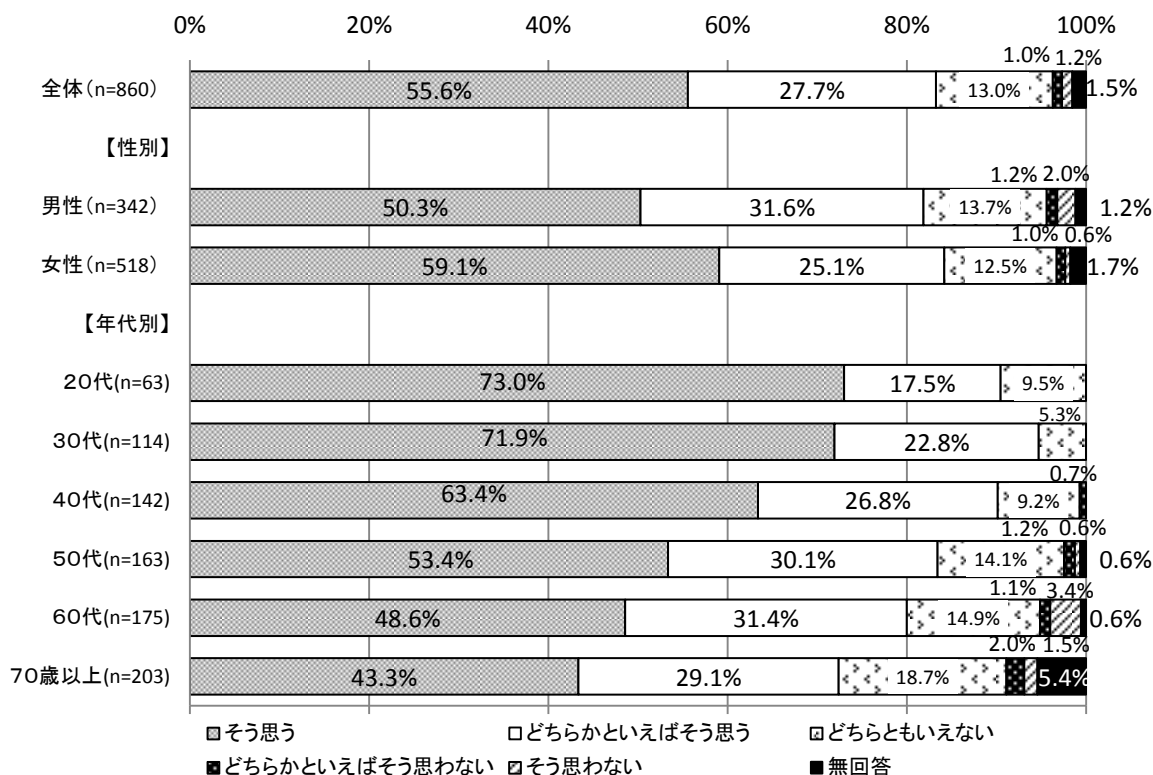
【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 58.8%、男性 59.9%、女性 58.1%となっており、いずれも「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのが、70歳以上で62.6%、次いで50歳代(60.8%)、60歳代(58.8%)の順となっている。

⑧性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 83.3%、男性 81.9%、女性 84.2%となっている。

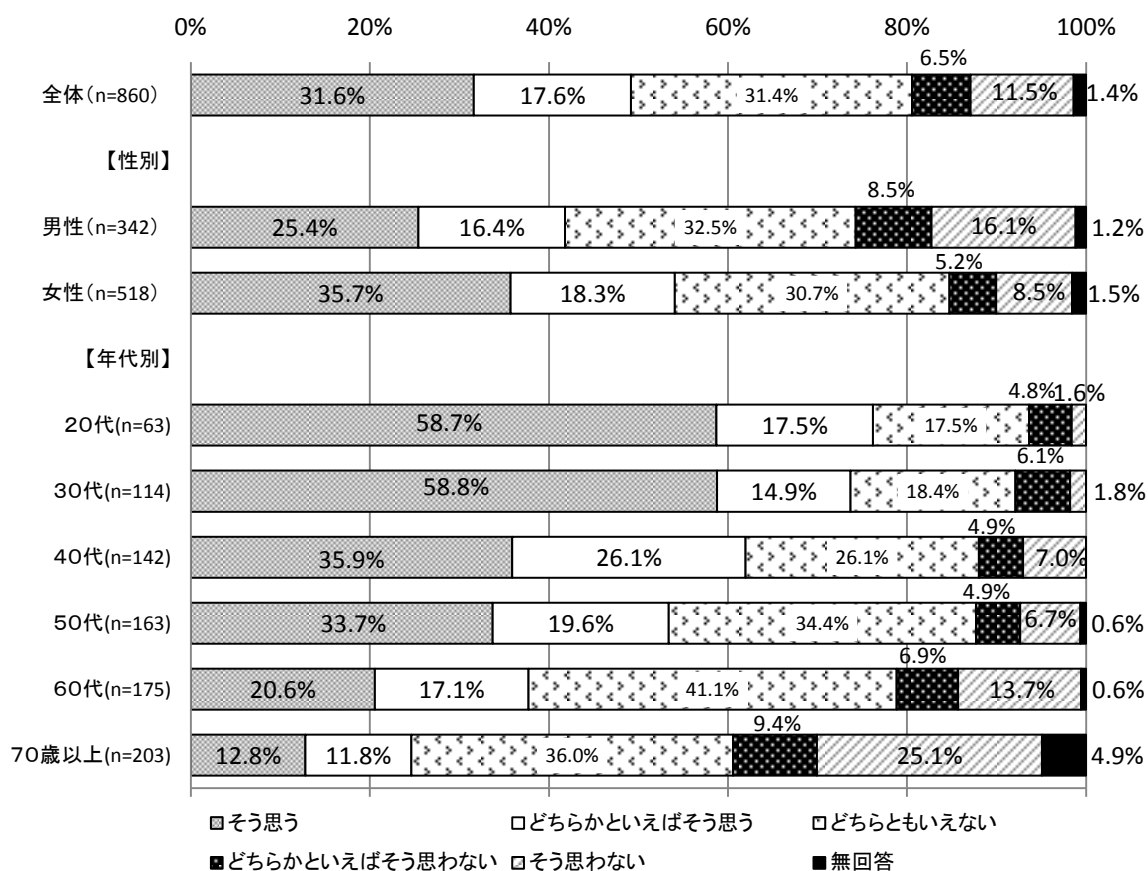
【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのが30歳代で94.7%、次いで20歳代(90.5%)、40歳代(90.2%)の順となっており、「そう思う」に限って見ると、20歳代が73.0%で最も高く、次いで30歳代(71.9%)となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で14.6ポイント、男性で15.9ポイント、女性で13.5ポイント、それぞれ増加している。

## ⑨同性同士の結婚が認められてもよい



### 【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 49.2%、男性 41.8%、女性 54.0% となっており、男性より女性の方が 12.2 ポイント高くなっている。

それに対して「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、女性より男性の方が 10.9 ポイント高くなっている。

### 【年代別】

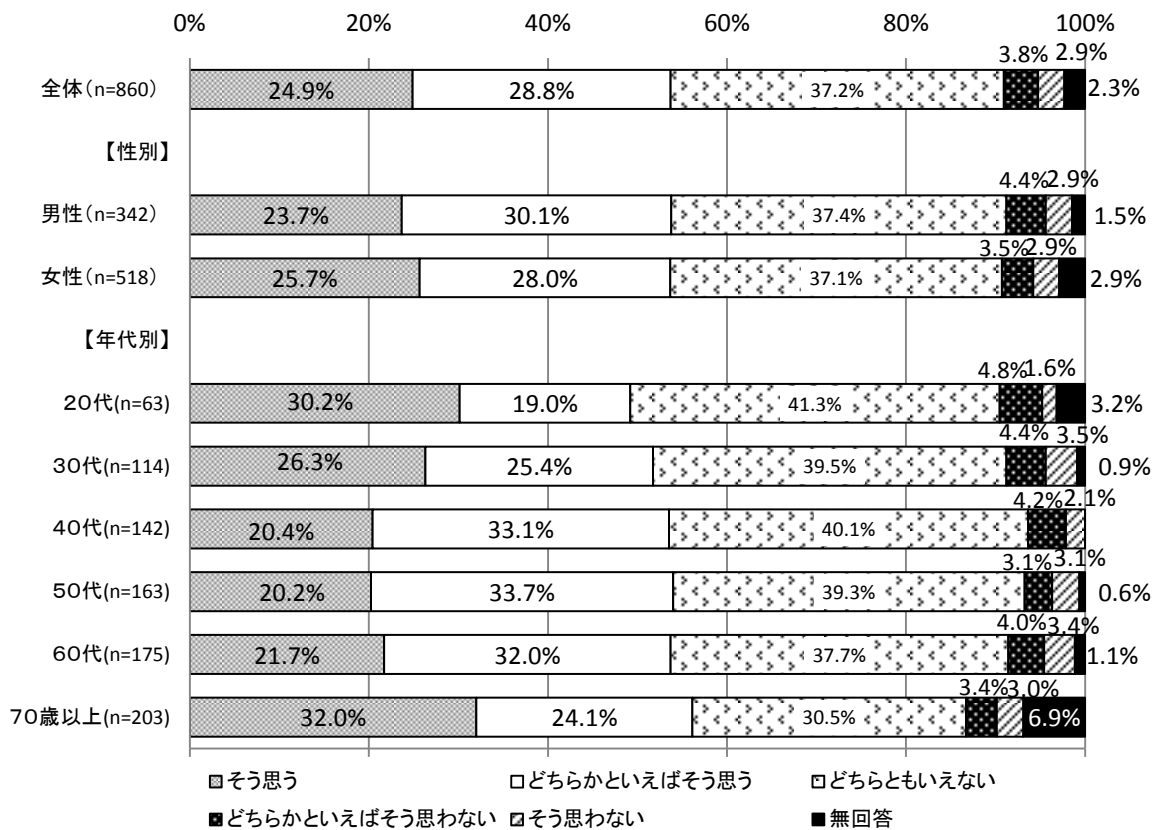
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 76.2%、次いで 30 歳代 (73.7%)、40 歳代 (62.0%) の順となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 34.5%、次いで 60 歳代 (20.6%)、40 歳代 (11.9%) の順となっている。

### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 18.0 ポイント、男性で 17.8 ポイント、女性で 17.7 ポイント、それぞれ増加している。

## ⑩男女共同参画社会は、だれもが生きやすい社会だ



### 【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体 53.7%、男性 53.8%、女性 53.7%となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体 6.7%、男性 7.3%、女性 6.4%となっている。

### 【年代別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いは70歳以上で56.1%、次いで50歳代(53.9%)、60歳代(53.7%)の順となっているが、年代による大きな差は見られない。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は最も高いのが30歳代(7.9%)で、年代を問わず低い割合となっている。

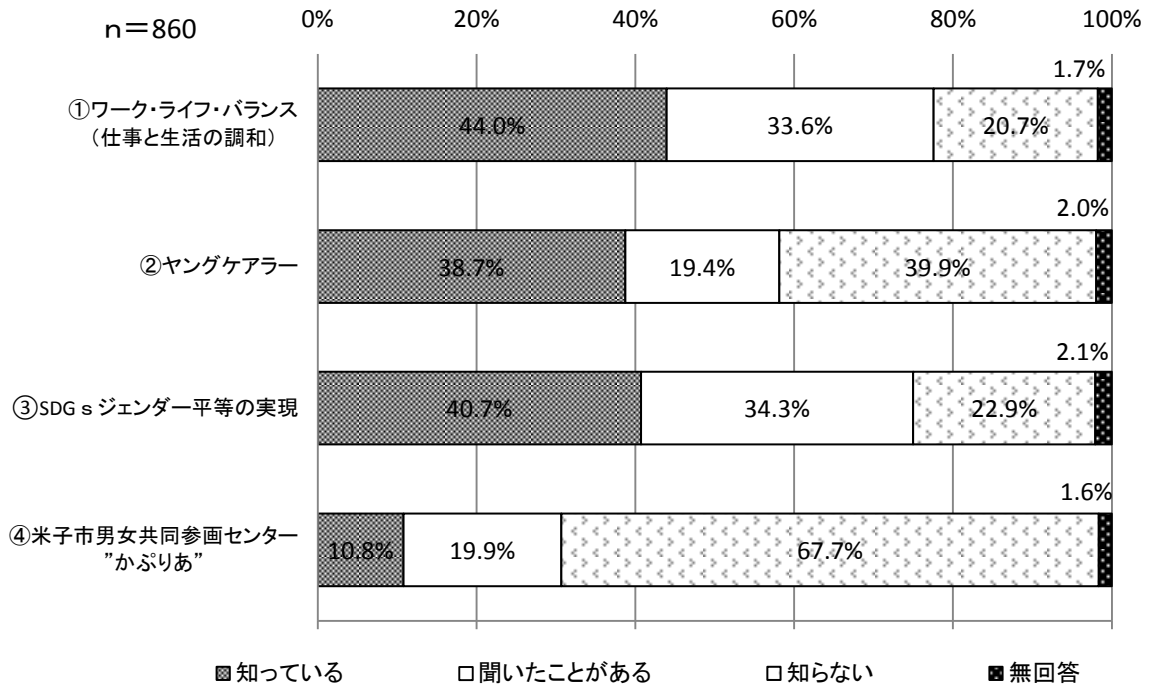
### 【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で7.5ポイント、男性で5.8ポイント、女性で8.8ポイント、それぞれ増加している。

## VII 男女共同参画社会に関する施策について

### (1) 用語の認知度 [問 18]

あなたは、次の①～④のような用語をご存知ですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



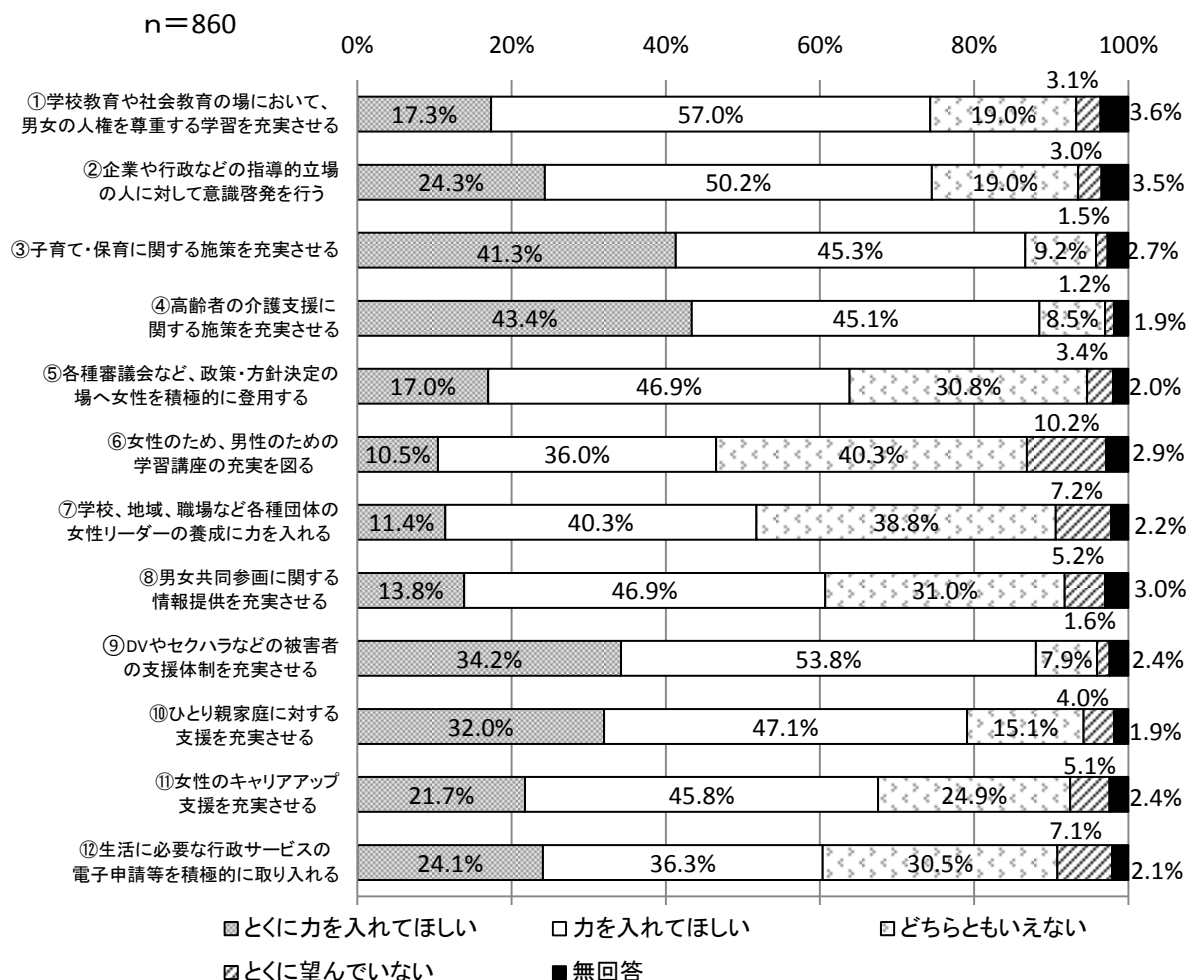
#### 【全体】

「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合で見ると、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が77.6%と最も高く、次いで「SDGs ジェンダー平等の実現」（75.0%）、「ヤングケアラー」（58.1%）の順となっている。

また、前回調査と比べて、「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合で「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」は15.6ポイント、「米子市男女共同参画センター“かぶりあ”」は1.6ポイント増加している。

## (2) 米子市が行う施策について [問 19]

あなたは、男女共同参画社会の実現のために、米子市が行う施策について、どう思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



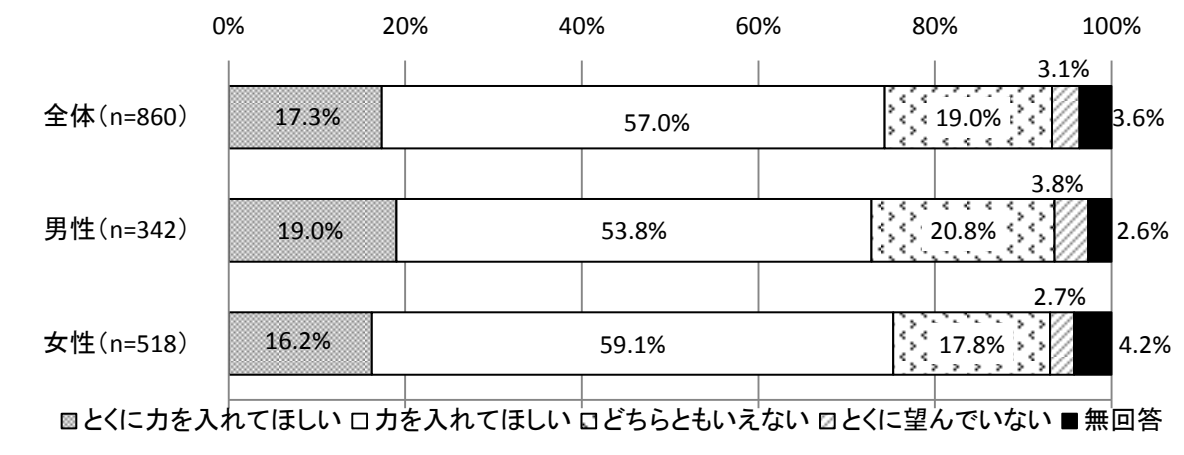
### 【全体】

米子市が行う施策について「とくに力を入れてほしい」「力をいれてほしい」を合わせた割合で見ると、「高齢者の介護支援の施策を充実」が88.5%と最も高く、次いで「DVやセクハラなどの被害者の支援体制を充実」(88.0%)、「子育て・保育に関する施策を充実」(86.6%)、「ひとり親家庭に対する支援を充実」(79.1%)、「企業や行政などの指導的立場の人に対して意識啓発」(74.5%)、「学校教育や社会教育の場において、男女の人権を尊重する学習を充実」(74.3%)の順となっている。

「とくに力を入れてほしい」とする割合だけで見ると、「高齢者の介護支援の施策を充実」が43.4%と最も高く、次いで「子育て・保育に関する施策を充実」(41.3%)、「DVやセクハラなどの被害者の支援体制を充実」(34.2%)、「ひとり親家庭に対する支援を充実」(32.0%)の順となっている。



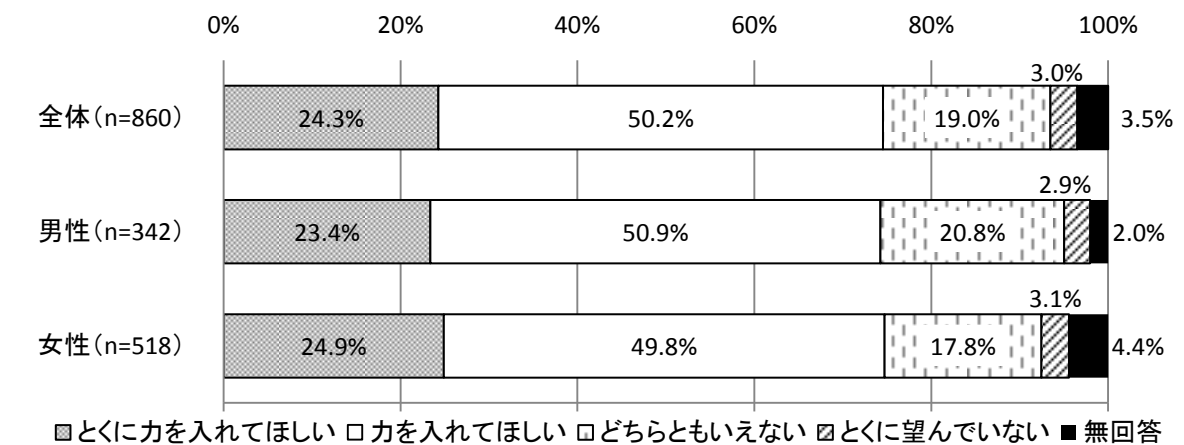
①学校教育や社会教育の場において、男女の人権を尊重する学習を充実させる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 74.3%、男性 72.8%、女性 75.3%となっており、男性より女性の方が 2.5 ポイント高くなっている。

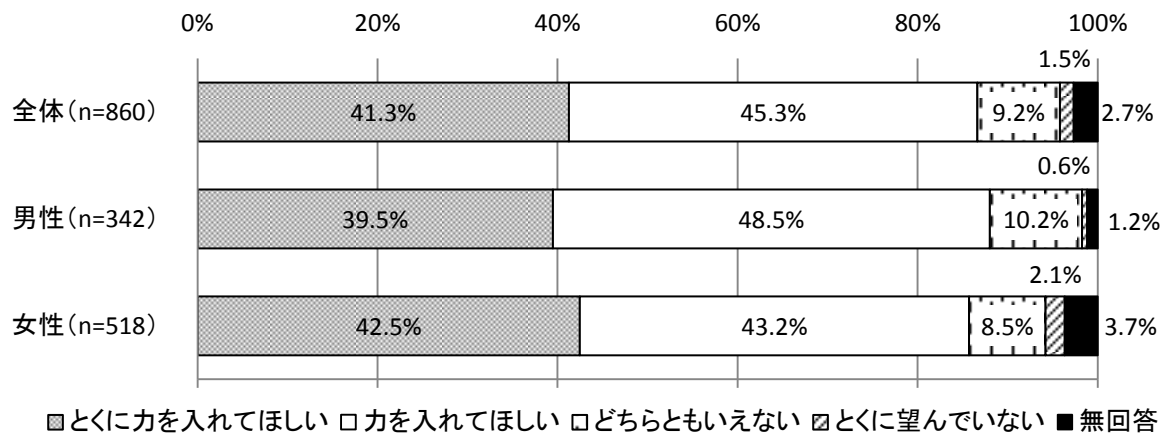
②企業や行政などの指導的立場の人に対して意識啓発を行う



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 74.5%、男性 74.3%、女性 74.7%となっており、男性と女性で割合の差はほとんど見られない。

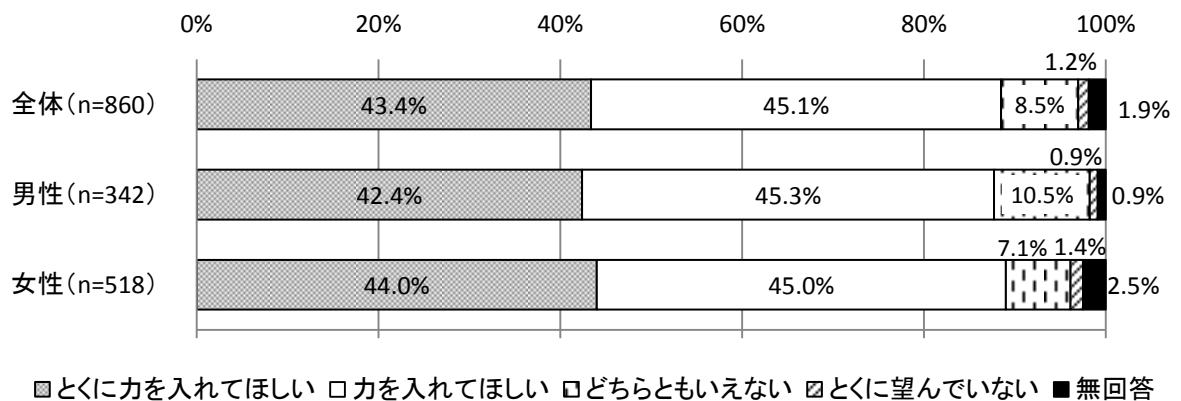
③子育て・保育に関する施策を充実させる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 86.6%、男性 88.0%、女性 85.7%となっており、女性より男性の方が 2.3 ポイント高くなっている。「とくに力を入れてほしい」とする割合だけで見ると、男性より女性の方が 3.0 ポイント高くなっている。

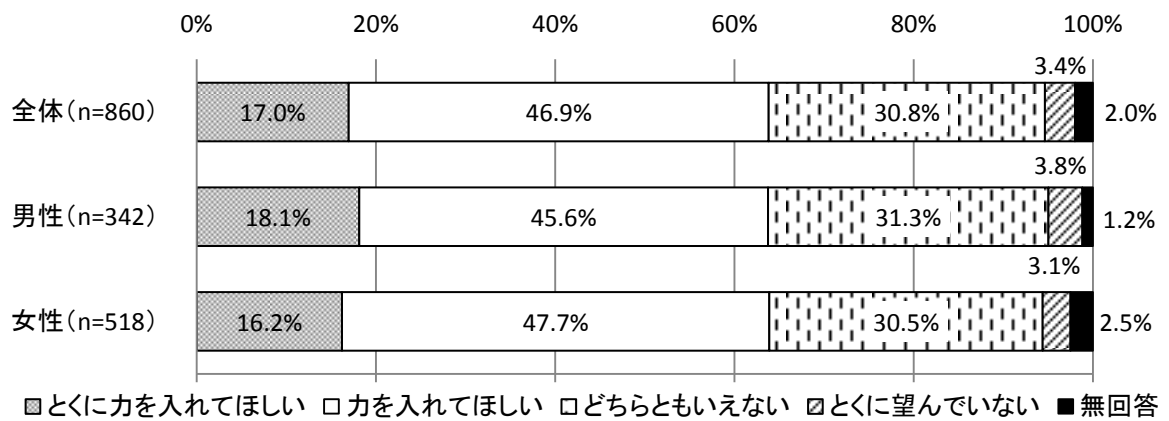
④高齢者の介護支援に関する施策を充実させる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 88.5%、男性 87.7%、女性 89.0%となっており、男性より女性の方が 1.3 ポイント高くなっている。

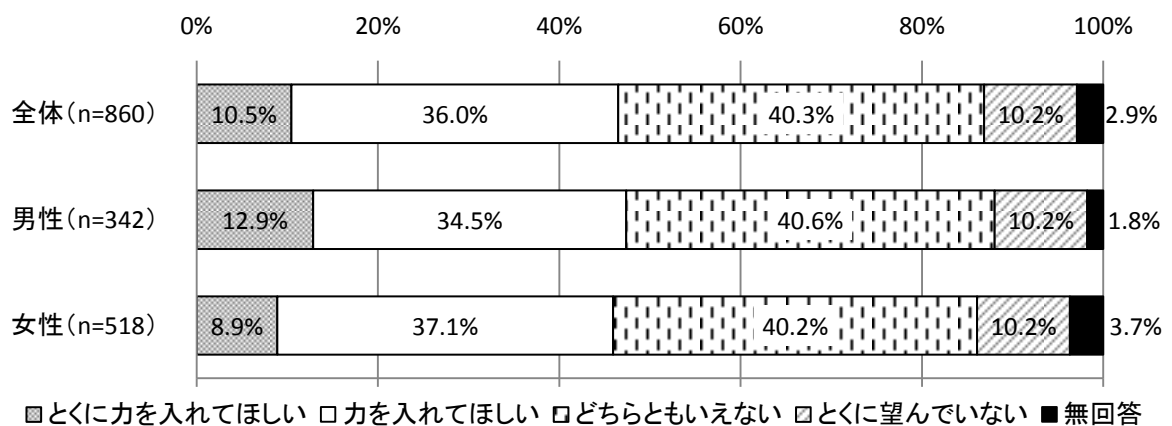
⑤各種審議会など、政策・方針決定の場へ女性を積極的に登用する



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 63.9%、男性 63.7%、女性 63.9%となっており、男性と女性で割合の差はほとんど見られない。

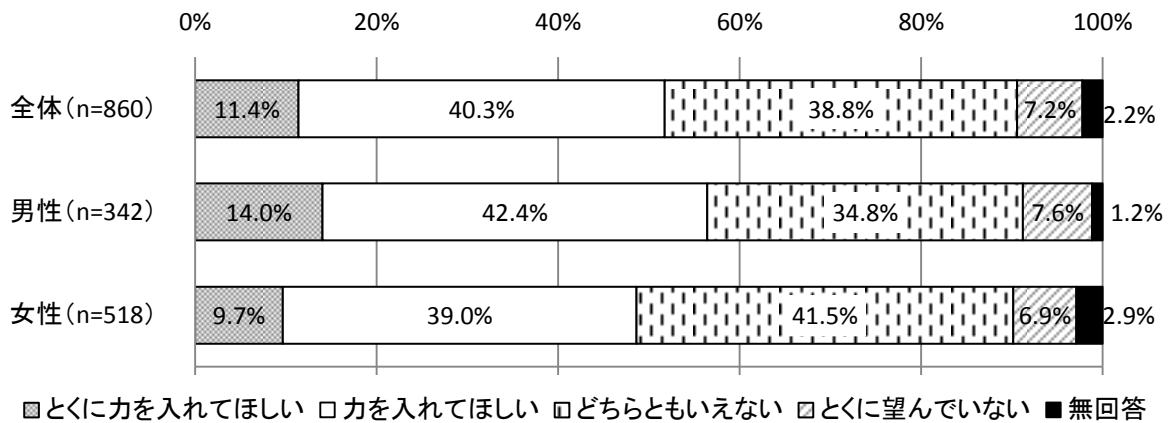
⑥女性のため、男性のための学習講座の充実を図る



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 46.5%、男性 47.4%、女性 46.0%となっており、女性より男性の方が 1.4 ポイント高くなっている。

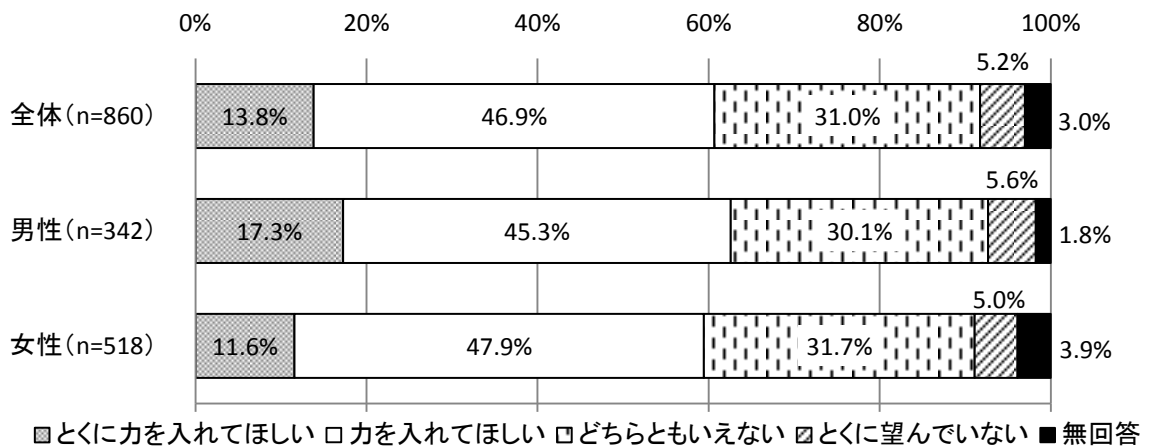
⑦学校、地域、職場など各種団体の女性リーダーの養成に力を入れる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 51.7%、男性 56.4%、女性 48.7%となっており、女性より男性の方が 7.7 ポイント高くなっている。

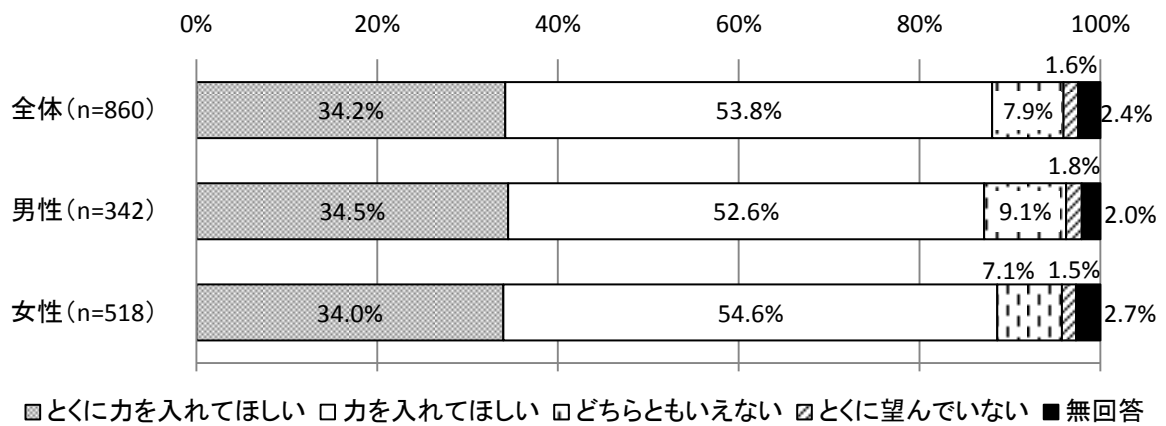
⑧男女共同参画に関する情報提供を充実させる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 60.7%、男性 62.6%、女性 59.5%となっており、女性より男性の方が 3.1 ポイント高くなっている。「とくに力を入れてほしい」とする割合だけで見ると、女性より男性の方が 5.7 ポイント高くなっている。

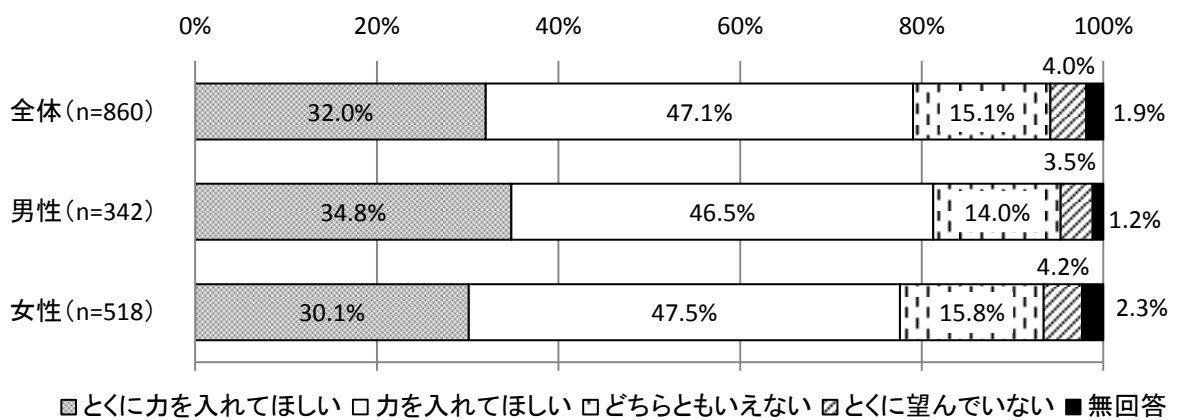
⑨DV やセクハラなどの被害者の支援体制を充実させる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力をいれてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 88.0%、男性 87.1%、女性 88.6%となっており、男性より女性の方が 1.5 ポイント高くなっている。

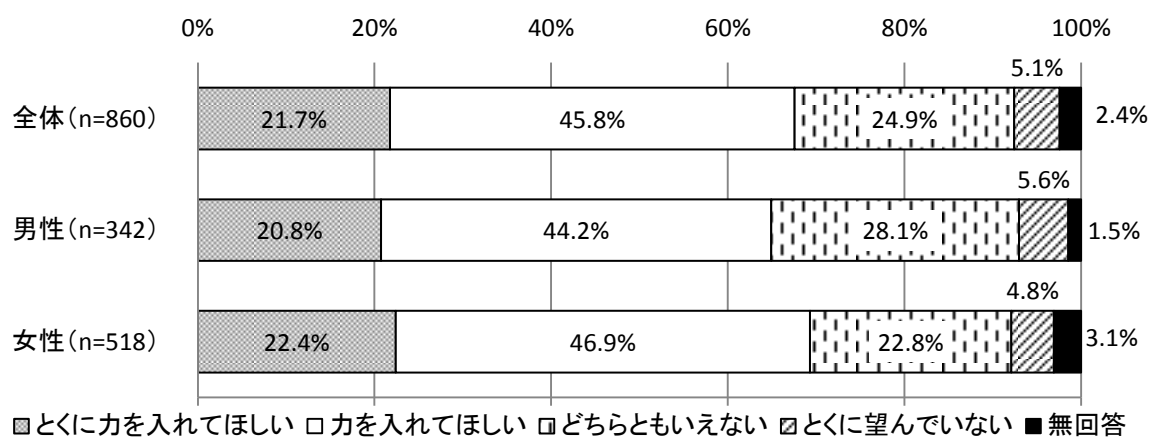
⑩ひとり親家庭に対する支援を充実させる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力をいれてほしい」を合わせた割合で見ると、全体 79.1%、男性 81.3%、女性 77.6%となっており、女性より男性の方が 3.7 ポイント高くなっている。

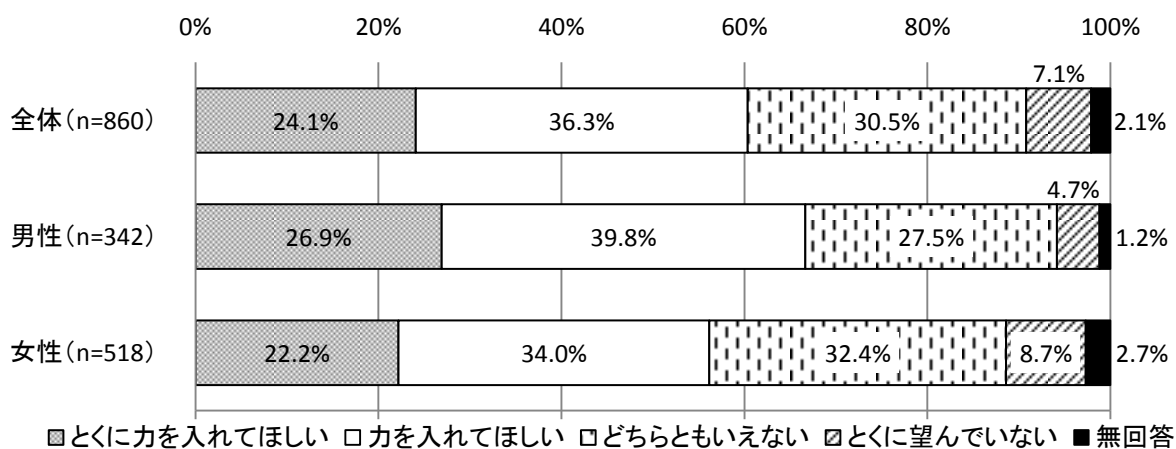
⑪女性のキャリアアップ支援を充実させる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体67.5%、男性65.0%、女性69.3%となっており、男性より女性の方が4.3ポイント高くなっている。

⑫生活に必要な行政サービスの電子申請等を積極的に取り入れる



【全体・性別】

「とくに力を入れてほしい」「力を入れてほしい」を合わせた割合で見ると、全体60.4%、男性66.7%、女性56.2%となっており、女性より男性の方が10.5ポイント高くなっている。

## VIII 意見・要望など自由記述

<b>女性 20 歳代</b>
日本の国において国民1人1人が生活しやすい社会にしてほしい、またなってくれるのを強く希望し自身も努める。
女性でも個々に能力、考え方は多様なので「すべてをリーダーに」「すべてをキャリアアップに」ではなく「リーダーやキャリアアップしたい、続けられる」と能動的に意識できる土壌となればよいのではと思う。
男性だからとか女性だからではなく、誰もが望んでいる生活ができればいいと思う。
男女平等とか多様な考え方を受け入れる施策は広まってきたが、実際は、若者はそういう考えに柔軟だが、年寄りの人達は、かたい考えの人が多く生きづらいと思う事がある。
<b>男性 30 歳代</b>
若者世代の給与水準が上がらないと、自分以外のことに目を向けるのは難しいと思う。男女共同参画とは、男女同じ立場で働けるだけでなく、主婦・主夫になるのも同じハードルの低さになって初めて平等と言えるのではないかな。
男女共同参画なる男性差別はやめて、教育などの他の施策に力を入れてほしい。
男女関係なく、それぞれの能力や個性に適した割りふりを行えば良い。無理に上に立たせる必要はないと思う。
何でも同じにすればよいという訳ではないと思う。無駄な理不尽さを無くし選択肢の多い社会になればいいと思う。
<b>女性 30 歳代</b>
男女共同参画を詠う事で女性を優遇していると考える保守的な考えの男性が一定数いる事でキャリアアップを望む女性が行動しづらくなっていると思う。そう考える男性こそ今の時代に沿った情報を知るべき。そのためにもっと身近に情報提供をすすめてほしい。
女性がフルタイムで働き続けるためには、職場の理解（制度として取り入れる）などが当たり前が必要。子どもが保育園などで体調を崩し、迎えに行くのはだいたい女性。仕方のなこともかもしれないが、こういう小さなことの積み重ねが働きづらさだったり、キャリアをあきらめることにもつながったりすると思う。
コロナの影響でいろいろ大変さに改めて気づいた。ひとり親だが、少しの風邪の症状でもあずかり拒否、4日間ほどの登園禁止。たまたまではあるが、このような状態の時、市役所の窓口で現況の事で行かなければいけないという事があった。「行かないとダメ」に年齢性別は関係なく、つれ歩けないという環境や身体的に難しいという人に過酷だと思う。もっと郵送やメールなど直接行かなくても手続きが出来るようになってほしい。
共働きを理由にPTA、地域の活動も積極的に参加した方が増えてきているように感じる。共働きは最近増えてきているので、もう少し誰もが活動しやすくなってほしい。
「男性」「女性」という括りでものごとを考えないでほしい。女性の活躍推進は、女性差別をなくすことで一定程度解決されている。性別等に関わらず、自分の行いたい事ができるようになればよい。
女性の賃金UPをしてほしい。平等になってほしい。
LGBTQなど多様性や性への理解について早くから知識を勉強したらどうか。若い人だけでなく大人も知ることが必要だと思う。
また、不妊治療を経験したが、男性より女性ががんばらばいいという風潮が多い。お互いが理解し合えたらいいが、そういうところも含めて不妊治療についても力を入れてほしい。
結婚して子どもがいる女性と独身の女性では職場での扱いに大きな差がある。同じ給料にも関わらず、子育てを理由に仕事が免除され、その仕事が独身にまわってくる。ワークライフバランス、男女共同の正しい理解ができていないと思う。組織がワークライフバランスや男女の平等についてもっと勉強するべきだと思う。
男性優遇の社会は改善すべきだが、逆にトップに女性をあえて（同じ実力、それ以上の実力の男性がいるのに）選ぶというの間違っていると思う。とは言え、子どもを持つ時点で、子どもを産むこと以外にも女性に強く負担があり、男性は非協力的であることも多いので、そこをどうすれば良いのか考えてほしい。

<b>男性 40 歳代</b>
男性のDVが増加傾向なので、男女共同参画でDV反対への参加を強めてほしい。
女性をリーダーにという考えではなく性別にこだわらず能力で判断するべき。それには社会で活躍できるような（家事分担等）文化を根づかせることが必要だと思う。
理念はわかるが、結局女性優遇で男性に負荷が増えていくだけ。平等ではない。
いろいろ大変だと思うが、より良い市に出来る様頑張る。
男も女も自分の向いている事を見つけて、それを仕事にすれば良いと思う。「女性のリーダー養成」など、そんな事は考えない方が良い。向き不向きだ。
定期的な相談の開催
<b>女性 40 歳代</b>
質問に「女性のため」「男性のため」というフレーズがある時点で、男女が同じラインに立てないのでは？と思った。「女性だから」とか「男性だから」ではなく役割分担などは個人の特性を活かしてできる人がやれるようにできる世の中になるといいと思う。
年配者にこそ、違いを認め合え、誰もが意見を言いやすい世の中になりつつあることを教えなくてはいけないことを肌で感じる。家庭内祖父母の学びが必要。子どもは学校で人権学習を学んでいるが、そもそも親またその親である祖父母の一言でそれがムダになる。
生活や物事の考え方全てにおいて女性の能力は高く判断力もあると思う。しかしながら、子どもの預け先であったり家庭のことを両立させようとすると、その能力を発揮できなくなっている。もっと育児保育なり行政の支援が充実していれば女性の活躍の場が増えると思う。
男女と表現することで苦しむ人もいる。多様性を認める社会であってほしい。
男性だから女性だからではなく個々の能力をふまえて登用していくべき。年代によっても物事のとらえ方もちがう為、家庭内での共同を教えて社会へつながるのではと思う。人権の尊重も学校ではなく家庭内で教えていく内容。その為の情報の提示をアピールしてほしい。
男女共同参画の推進している事をよく知らなかったし、どこでどんな活動をしているのかも聞いたことがなかったので、地元のニュースなどで身近に情報が入ってくると嬉しい。
昔ながらの社会的慣習、しきたりがある以上、女性の人権尊重、幸せは皆無。先祖からの格差を結婚によって思い知らされた。囚われた生き方を背負わされ、生きた心地がしない。
男性女性人間としての体のしくみも違うので、それぞれ役割があって良いと思う。みんな政治やまわりに求めすぎていると思う。一人一人が今を受け入れて自立するように努力するのがよいと思うのであまり力を入れた施策は望んでいない。自立を促して欲しい。
様々な場で積極的に女性を…という声もあるが、実際能力があつてのことであればリーダーとして活躍すべきであるが、とりあえずそういう感じだからというのであれば、積極的に取り入れる必要はないと思う。
女にしか子どもは産めない。その事を中心に進めるべきだと思う。保育園は19時まで、小学中学になっても同じ時間まであずかってくれる施設または制度があると助かると思う。
<b>男性 50 歳代</b>
制度の押しつけではなく、自発的に参画できるような環境作りが重要である。
本来、能力のある人を適材適所に配置するのがあたりまえなので、男だから女だからと言って分けることが間違いなのではないか。
会社でハラスメント相談窓口が体裁だけで相談してもみ消されている。そういう実態が存在する限り推進はむずかしい。小さな子どもがいると共働きだと病気になっても付き添いできない。突発的に子どもを休ませないといけない時、市で面倒をみてくれる人物を養成してほしい。
女性を優遇するのではなく、性別にかかわらずに進めてほしい。
身近に多いのが、ひとり親家庭の方で色々な面で苦勞されている。就職、職場での扱い、転居など身元保証人の必要な場合など様々な面でへだたりがある様に感じる。慣習なども含めて意識や法制度など改善していく必要がある。



結果を恐れずどんどんやればよいと思う。他にない政策をやっていただきたい。
仕事もよいが、子どもにとって母親が家にいてその愛情をそそぐことの方が大切だ。
何でも安易に男女平等と言うのではなく、それぞれの役割についてはしっかり考慮すべき。生理学上の向き不向きは必ず有る。権利については平等で良いが義務については平等ではないと思う。男性らしさ女性らしさは絶対に必要だと思う。
個人の力が優れていれば、年齢、男女に関係無く良いところを延ばし幹部に登用する。
男性女性の別ではなく、個々の資質が重視されるべきと考える。その上で女性の資質向上が必要なのであれば対策を講ずる必要がある。
<b>女性 50 歳代</b>
男性がとか女性がやってあたりまえとか、手伝ってあたりまえという意識をなくしていかないといけない。結局は人を思いやる事が出来るかなので、そのあたりをもっと皆が意識しあえたらと思う。
男女共同参画、少しずつ浸透していると思う。でもまだ理解出来ない方も多いと思うが、考え方それぞれ。長くかかってもそれが普通になるよう願っている。その為に日々行動をおこすように自分なりに努力していく。
高齢者がこれからふえてくる事がみこまれるので、老人ホーム・介護支援をだれでもうけられる様にしてほしい。
〇〇のためとか付けると、それだけで片寄り気味な社会になりそうな気がする。
女性のため男性のために学習するのではなく、よりよい社会を作るために年齢も男女も問わない考えられる場が大切なのではないか。
私は自分の子どもが性転換しても同性でつきあってもいいし、LGBTQであってもいいしサポートすると思う。
男性女性というらえ方ではなく、個を認め個を生かすような個々を大切にできる社会をつくっていきけるようにしてほしい。
男女共同参画の見方として、高齢の方に知識不足を感じる。意識改革してほしい。
早く名字が変わらずに結婚（入籍）ができると良い。
会社で男女共同参画推進していると言っても見えてない部分では昔のまま、お茶、台所は女性、平等ではないことも多々ある。定年も定めてあるが、“ずっと勤められる訳ではない”とか不安になる事を言うパワハラ的なこともある。年をとると働く所がかぎられるので、余計な事、会社にとって都合の悪い事は言えない。見えない部分をもっと知ってほしい。
SNSのような手段で、行政サービスを知らせる場を設けてはどうか。
改めて我が家が男女共同参画になっていなかったことに気がついた。少しずつ改善していこうと思う。
何でもおたがいの意見を聞く必要がある。地域活動に関しても結局は男性が権力を持ち、地域の人意見を聞いてくれない。
子育て・保育に関する施策については、これ以上は無理だと思う。保育士がいない（介護員も）。
子どもがいる家庭を優先するのはおかしい。もっと社会人親家庭の生活も考えてほしい。たとえば社会人の子どもはコロナで仕事がなく、親は体調不良で働けない家庭は？生活保護の申請を受けたがダメだった話をよく聞く。そうした時、私達はどの様な生活をしたらよいのか。県、市はどう考えているか。
女性のキャリアアップは、結局上司がでる。女性は？って思うが、今後はすばらしい方がでてくることを願う。
夫を立てる事は、日本人として大切だと思う。それでこそ男性が女性を大切にしてくれるし、家事も協力してくれるのだと思う。女性の言葉使いの悪さが気になる。働き方改革はどうなったのか。早くなんとかしてほしい。
女性のキャリアアップはいいと思うが、周り、人の心がわかる人育成希望。
DVやハラスメントでは、加害者側が相手にダメージを与えているという事に気づいていない場合が沢山ある。身体的暴力だけでなく、精神的暴力（多種多様なものがあるということ）について、もっと知ってもらおう活動もしてほしい。
<b>男性 60 歳代</b>
片寄った考えはだめだと思う。
米子市の取り組みが市民にリアルタイムでわかるよう工夫してほしい。
女性の意見を多く聞き、又、意見は少し間をあけてから話すと互いに聞く耳が出来るのではないかと。

<p>男女が対等な立場になれる様、行政への依頼のみでなく自分たちの意識を変える。生活のすべての時間と場所で常に考えられることが第一歩であり、前向きに考え取組むのが大切と思う。</p>
<p>男女共同参画の活動スペースとして、以前は駅前サティにあり非常に便利であったが、旧市役所になりとても不便となり活用しなくなった。元にもどしていただきたい。</p>
<p><b>女性 60 歳代</b></p>
<p>学校教育や社会教育の場において、男女の人権を尊重する学習の充実について、人の気持ちを考え、共に助け合い、会話を良くする様な学習内容が必要。人の悪い所に入り込み、人を感情的にする子どもが多く、大人の態度言葉などを子どもが正しいか悪いかを判断できない状態の世の中になっている。もっと楽しい喜びなどを感じる世の中に進んで行かないといけない。</p>
<p>男女両方努力しながら良い方向になることを願いたい。</p>
<p>アンケートの集計が男女平等の社会を築いていくために有効に迅速に活用されることを望む。</p>
<p>職場や地域では、まだまだ男性が中心となっている。女性が中心となって進めていけるような仕事や行事など企画して頂けたらと思う。</p>
<p>今まで行政（法務局、市、県の窓口）に相談したことがあるが、通り一遍の受け答えで終わり、もう少し「人」としての対応があればと思う。「命」の重さが皆同じようにあるから、おもいやりの心が欲しい。</p>
<p>男女共同参画の米子市の取り組みも知らない、もっと相談できたり参加する場所があれば、育児、介護など少しは楽に生活できるだろうと思う。</p>
<p>ジェンダー・モラハラは日常的である。啓蒙活動は、もっとすべきだと思うが、70～80歳の男性には会社等で教育されてないので無理である。妻がいなくなった時の事でも、もっと知らせるべき。</p>
<p>高齢化が進み、独居問題等に注力が必要だと思う。（男女不問）</p>
<p>職場ではあまり認識がないので、役員の講習会も必要。</p>
<p>母子家庭へのケアが昔と違い手厚すぎて、父親がいる家庭よりも母子家庭の方がリッチで違和感を感じる。支援を充実させなくてもいいと思う。</p>
<p>若い方は家事も半々なのが自然にできている。女性が出産から仕事に復帰する為、0才児～1才児保育施設の定員増に今すぐ力を入れてほしい。</p>
<p>これからは男女の問題だけでなく、生き方の多様性が認められる時代に変化していく。学校・社会活動の場で、柔軟な考え、発想が持てる人材を育てる事が大切になると思う。</p>
<p>男女関係なく能力のある人物を各部署に配置してください。</p>
<p>これだから役所がすることはと言われぬように物事をすすめてほしい。今の日本で子どもが食事が出来ないなんて大変なこと。年配の方は男の方がいいと考える傾向が強いようだが、考えを変えるのは大変だと思う。</p>
<p>地域リーダーも男性（世帯主）であっても、その時の状況で女性も代替えて充分に参加していると思う。一人親、また死別で一人になった家庭への自治会役員等少し柔軟なしくみにしてほしい。</p>
<p><b>男性 70 歳以上</b></p>
<p>保守的な考えの人が多いように思う、もっと民主主義的思考のできる人が増えることを望む。古い慣習が強く残っていると思う。</p>
<p>男性の意識改革も必要だが、女性も積極的に前に出る勇気を持ってほしい。</p>
<p>市役所でも女性部長の登用をどんどん推進してほしい。</p>
<p>自治会の運営について、世帯数も減少、高齢者となる人がふえている。働く人は退職までの年数が長くなっている。そうした中で地域の活動をどのように維持していくのか、米子市からの支援、アドバイスなどお願いしたい。</p>
<p>教育には力を入れるべきである。</p>
<p>地域に出向いて自治会長、民生委員、駐在所、地域包括支援すべての方々とコミュニケーションを取れるよう考えてほしい。</p>
<p>格差の是正、子育て世帯への支援。</p>

女性 70 歳以上
生活に必要な行政サービスの電子申請等を積極的にと言うのは高齢者のことも考えて実施してほしい。
それぞれ（男と女）の役割があると考える。
男性と同等に定年まで共働きをし、義両親とも同居、家では嫁。退職後も3度の食事作り家事一斉など定年後何故男性と違うのかゆっくりしたい。今の社会では次生まれる時は男性にと思ってしまう。
昭和の生まれでパソコン等キカイものを操作できない。若い頃からそういう機会があつたら良かった。結婚と共に勤めをやめたが、そのまま続けていたらまだ良かったと思う。
ひとり親家庭への支援について、両親揃えでも貧困家庭ならひとり親に限らない。
電子申請を取り入れる以前にIT, AI, DX等十分に理解できてる人が多数いるのか。
男女、子ども差別なく幸せに生きれる社会を作してほしい。
女性が社会で指導者になるのは大賛成、でも別に選ばれた人が偉いわけではないから、人の話に聞く耳を持つ人がいい。
私たちの年代の人はこの件について何も勉強もしていない人が多い。もっと皆に周知する方法を考えてほしい。
昔に比べたら女性の地位は随分向上している。男性も勘違いを勉強してきたと思う。でも、権利のはき違えも多く、我慢を忘れている。思いやり、感謝、尊敬等、お互いを考えて男女の区別がなくなればいいと思う。
日常生活の話は聞き役にまわっている。書類を読んで、人と人のつながりを大切にして過ごしたい。
訪問介護・看護だけでなく、ただおしゃべり相手をする人が欲しい。
男女共、それぞれ向き不向きがあるので、人間の人格の向いている人がそれぞれに適応して行った方が良い。共同といって何が何でも同じ向きを向くという考え方はおかしい。
年寄りにも支援がほしい。
若い女性が働きやすいと言うことは幼児小学生等の預ける場所が安全にあるかが一番のポイントだと思う。北欧の男性への育児休暇も参考にしてほしい。
その他
男らしい女らしいが理解できていない中で一連の問題解決が望めない。本質は何かから始めて、人間らしい生き方とは何かを教育現場、指導者、行政、政治家から考え直さないといけない。
性別の問いには、男女以外の選択肢があるのに、その他の問の中に男女の区別しかないものがあつた。

市の施策への意見・提案として寄せられた回答の中から、一部抜粋・要約して掲載しています。



## 第3章 調査結果のまとめ

---



## 1 家庭での役割について

### Ⅱ家庭での役割分担について 10 ページ～ (1) 家庭での役割分担参照

家庭での役割分担については、「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」のいずれも「主として女性」がしているという回答が7～8割を占めた。前回調査よりわずかに減ってきてはいるとはいえ、家事を女性が担う傾向は依然として変わっていないことが示された。

「介護・看護」「子育て・しつけ」でも、「主として女性」という回答が「主として男性」や「男女が同じくらい」という回答より割合が大きくなっていた。家族成員に対するケアについても、女性の役割となっている家庭が多いことがうかがえる。

「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」「子育て・しつけ」「介護・看護」のすべての項目に、男女の間で認識の違いがあり、「主として男性」「男女が同じくらい」しているという割合は男性より女性の方が低くなっていた。男性が家庭内で担っている役割が、女性にとっては不十分に感じられていることが推察される。

男女間の役割分担の認識のずれは、家庭での役割分担の満足度にも影響しているようもうかがえる。「満足している」「どちらかといえば満足している」とする割合は、男性7割に対し、女性では約5割と低かった。

## 2 就労について

### Ⅲ就労について 18 ページ～職場の現状参照

就労の現状について尋ねた結果からは、ワーク・ライフ・バランスやハラスメント防止に向けた取組のさらなる充実が必要であることが示唆された。

休業制度の取得に関する項目では、男女で傾向の違いが見られた。「育児休業制度の取得がしやすい」については、女性では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が約6割を占めたのに対して、男性では約4割にとどまった。また「介護休業制度の取得がしやすい」の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合は、男性が女性より高くなった。家族のケアのために休業することへのハードルが、男性ではより高いことがうかがえる。

「ワーク・ライフ・バランスが実現できる職場である」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答は4割程度であり、半数には及ばない。性別の違いはほとんど見られなかったが、30代・40代の子育て期にある世代が、ワーク・ライフ・バランスが実現できていないと答える割合が高くなっていた。

「職場にハラスメントがある」については、「そう思わない」という回答が4割程度を占め最も多くなったが、「そう思う」も2割弱あった。「そう思う」の割合は、男女でほとんど違いは見られなかった。

昨今のコロナ禍において、収入が減少したという回答は2割程度であった。

### 3 地域活動などについて

IV地域活動などについて 24 ページ～地域の現状参照

地域の現状について、「地域活動では、会長などリーダーは男性で、女性は補助的な役割になる」という項目での「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答の割合は、男女とも前回調査よりは若干減少したが、依然として約5割を占めていた。また、「自治会・町内会の活動では、女性が役職につくことに消極的」とする回答の割合も、男女とも前回調査よりは少し減少したが、女性が役職につくことに消極的ではないとする回答の割合より高かった。「地域活動では、女性がいきいきしている」への「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答の割合は男女とも3割程度にとどまった。「男女の役割分担など、古い慣習やしきたりにとらわれることが多い」への「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答も、男女ともに約5割となった。

これらのことから、地域活動においては、固定的な性別役割分担の意識が根強く残っていることがうかがえる。

また、20代、30代の若い世代で「自治会活動に参加」「PTAや地域のグループ活動に参加」への「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答の割合が低くなっていた。

### 4 ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて

Vドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて 31 ページ～参照

ドメスティック・バイオレンスの経験・認知について、「被害者としての経験がある」とした割合は前回調査とほぼ同様で男性3.2%、女性9.5%であった。被害者は女性の方が多いものの、男性の被害者もまた一定数存在する。また、「加害者としての経験がある」と回答した割合も前回調査とほぼ同様で、男性2.3%、女性1.2%となった。

ドメスティック・バイオレンスに対する相談先について問うた結果を前回調査と比べると、相変わらず「相談しなかった」が男女ともに多かった。女性では「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」「家族や友人に相談した」とする割合が、前回調査に比べて減少した。今後も引き続きより相談しやすい環境を整え、周知していくことが必要だと考えられる。

セクシャル・ハラスメントについては、「被害者としての経験がある」とする割合が、5%程度となった。また、「加害者としての経験がある」と回答した割合は前回調査とほぼ同様で、男性0.9%、女性0.4%となった。

セクシャル・ハラスメントへの対応については、前回調査と比べて「相談しなかった」とする割合は男性女性共に減少した。女性では「家族や友人に相談した」、男性では「弁護士に相談したり、裁判所に訴えた」「公的な機関や窓口、警察などに相談した」とした回答が前回調査より増加した。しかし、それでも男女それぞれにおいて「相談しなかった」が3割あったことをふまえると、引き続き、相談しやすい環境の整備づくりに努めることが求められる。

ドメスティック・バイオレンスに関する考え方については、「たとえ夫婦であっても暴力を振るうことは許されない」という項目で、9割が「そう思う」と答えた。また、DVやセクハラ相談窓口や環境作りの充実についての必要性も、多くの人に認識されていることが分かった。

今後も継続的な普及啓発及び相談環境の整備を行うことが必要だと考えられる。



## 5 男女共同参画に関する意識や考え方について

VI男女共同参画に関する意識や考え方について 40 ページ～参照

男女平等についての意識については、すべての項目において、「男性優遇」と回答した割合が「女性優遇」と回答した割合を上回った。また、性別による認識の違いも見られ、男性よりも女性の方がより「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」という認識を持っていることがうかがえた。

前回調査と比べて、「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」とした割合は、「家庭生活」「職場」「学校教育の場」では減少しており、「社会的慣習・しきたり」「地域社会」ではほぼ差は見られず、「法律や制度」「政治の場」では増加していた。

男女のあり方についての考え方については、性別による違いよりも年代による違いが顕著であった。「世帯主に男性になるのは当然だ」「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」「結婚したら、女性は夫の姓に改姓したほうがよい」では、年代が上がるにつれて肯定的な回答が多く、若い世代ほど「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「結婚は個人の自由であるから結婚しなくてもどちらでもよい」「性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ」「同性同士の結婚が認められてもよい」で肯定的な回答が多くなった。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」についても、若い世代では「そう思わない」とする回答が多かった。若年層ほど、固定的な性別役割分担意識にとらわれず自分らしい生き方を追求することが望ましいとしていることが明らかになった。

ただし、「男性リーダーが多い領域に、もっと女性リーダーが増えるべき」「男女共同参画社会は、だれもが生きやすい社会だ」については、どの年代でも 50～60%が肯定的な回答をしていた。男女が共同で社会をつくっていくことは、年齢に関係なく、理想としていることが分かった。

## 6 男女共同参画社会に関する施策について

VII男女共同参画社会に関する施策について 59 ページ～参照

用語については、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「SDGs ジェンダー平等の実現」が7割以上に認知されていることが明らかになった。また、「ヤングケアラー」は、過半数に認知されていた。「米子市男女共同参画センター“かぶりあ”」の認知度は、30.7%と低く、引き続きセンターの活動の周知に努めることが必要である。

米子市が行う施策について「とくに力を入れてほしい」という回答の割合がより大きかったものは「高齢者の介護支援に関する施策を充実させる」「子育て・保育に関する施策を充実させる」であった。それらに次いで、「DVやセクハラ等の被害者の支援体制を充実させる」「ひとり親家庭に対する支援を充実させる」も高い割合となった。子どもや子育て世代、高齢者や介護者、DV・セクハラ等の被害者など、ケアを必要としている人やそのケアをおこなっている人に対する行政サービスの充実が望まれていることが分かった。



資 料

---



# 男女共同参画に関する市民意識調査

## ～意識調査ご協力のお願い～

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

米子市では、誰もが性別にかかわらず、その個性と能力を發揮して、お互いの人権を尊重し、自分らしくいきいきと活躍できる社会の実現に向けて、平成30年3月に「第3次米子市男女共同参画推進計画」を策定し、様々な取り組みを進めています。

このたび、社会情勢の変化などに対応するため、男女共同参画に関する皆さまの意識や実態をお聞きし、今後の施策へ反映させていただくこととしました。

この調査票は、無作為抽出で選ばれた市内にお住まいの20歳以上の男女2,000人の皆さまに送付しています。ご記入は無記名で、ご回答いただいた方が特定されたり、本来の目的外に利用されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。

令和3年9月

米子市長 伊木 隆司

### 【ご記入にあたってのお願い】

- ① 回答にあたっては、封筒のあて名のご本人がお答えください。
- ② この調査は無記名調査です。お名前やご住所を記入していただく必要はありません。
- ③ 回答は質問にしたがって、あてはまるところに○をつけてください。
- ④ ご記入いただいた調査票は、10月5日（火）までに、同封の返信用封筒に入れて、お近くのポストに投函してください。（切手は不要です）

### 《お問い合わせ先》

米子市役所 総合政策部 男女共同参画推進課  
〒683-8686 米子市加茂町 1-1 米子市役所本庁舎 4F  
TEL : 0859-23-5419 FAX : 0859-23-5392  
E-mail : danjyo@city.yonago.lg.jp

## I あなた自身について

### 問1 【全員にお聞きします】

あなたの性別を教えてください。1つ選んで番号に○をつけてください。

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

### 問2 【全員にお聞きします】

あなたの年齢を教えてください。1つ選んで番号に○をつけてください。

- |         |       |       |       |       |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 1 20代   | 2 30代 | 3 40代 | 4 50代 | 5 60代 |
| 6 70代以上 |       |       |       |       |

### 問3 【全員にお聞きします】

あなたの職業を教えてください。1つ選んで番号に○をつけてください。

- |  |
|--|
| 1 自営業主（農林水産業、商工業、サービス業、自由業 など）         |
| 2 家族従業員（農林水産業、商工業、サービス業、自由業 など）        |
| 3 フルタイムの勤め人《正規雇用》（正社員、正職員 など）          |
| 4 フルタイムの勤め人《非正規雇用》（派遣社員、契約社員 など）       |
| 5 パートタイムの勤め人（パートタイマー、臨時職員、アルバイト、内職 など） |
| 6 無職（専業主婦・主夫、学生、その他）                   |

### 問4 【全員にお聞きします】

あなたは現在結婚していらっしゃいますか（事実婚を含みます）。1つ選んで番号に○をつけてください。

- |            |                    |             |
|------------|--------------------|-------------|
| 1 現在結婚している | 2 現在結婚していない（離別・死別） | 3 結婚したことがない |
|------------|--------------------|-------------|

### 問5 【問4で「1 現在結婚している」と答えた方にお聞きします】

あなたは共働きですか、それとも夫婦どちらか一方が働いていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- |                         |
|-------------------------|
| 1 共働きをしている（パートタイムなどを含む） |
| 2 夫のみが働いている             |
| 3 妻のみが働いている             |
| 4 夫婦とも働いていない（退職した場合を含む） |

### 問6 【全員にお聞きします】

あなたには次のようなお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1	子どもはいない	2	乳幼児（就学前児）	3	小学生	4	中学生
5	高校生	6	学生（大学・短大・専門学校など）	7	社会人	8	その他

## II 家庭での役割について

### 問7 【全員にお聞きします】

あなたの家庭では、①～⑥のような家庭での役割について、主に女性がしていますか、男性がしていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	主として女性	主として男性	男女が同じくらい	特にだれもしていない
①食事の支度	1	2	3	4
②食事の後片付け	1	2	3	4
③掃除	1	2	3	4
④洗濯（干す・取り入れる）	1	2	3	4
⑤子育て・しつけ	1	2	3	4
⑥介護・看護	1	2	3	4

### 問8 【全員にお聞きします】

あなたは、自分の家庭内での役割分担について満足していますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1	満足している	2	どちらかといえば満足している	3	どちらともいえない
4	どちらかといえば満足していない	5	満足していない		

### Ⅲ 就労について

問9 【現在、職業に就いておられる方にお聞きします。職業に就いておられない方は、問10へお進みください。】あなたの職場は、①～⑤のようなことがあてはまりますか。それそれについて1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない
①育児休業制度の取得がしやすい	1	2	3	4	5
②介護休業制度の取得がしやすい	1	2	3	4	5
③ワーク・ライフ・バランスが実現できる職場である	1	2	3	4	5
④職場に、ハラスメント（嫌がらせ、いじめ）がある	1	2	3	4	5
⑤私の収入は、コロナの影響で減っている	1	2	3	4	5

### Ⅳ 地域活動などについて

問10 【全員にお聞きします】

あなたがお住まいの地域についてお尋ねします。①～⑥のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	そう思う	どちらか といえば そう 思う	どちらと も いえ ない	どちらか と いえ ば そう 思 わ ない	そう思 わ な い
①地域活動では、会長などリーダーは男性で、女性は補助的な役割になる	1	2	3	4	5
②男女の役割分担など、古い慣習やしきたりにとられることが多い	1	2	3	4	5
③自治会・町内会の活動では、女性が役職に就くことに消極的	1	2	3	4	5
④地域活動では、女性がいきいきしている	1	2	3	4	5
⑤私は、自治会活動に参加している	1	2	3	4	5
⑥私は、PTA や地域のグループ活動に参加している	1	2	3	4	5



## V ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて

### 問 11 【 全員にお聞きします 】

あなたは、この5年間でドメスティック・バイオレンス（DV、配偶者やパートナーなどからの精神的・身体的暴力）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○をつけてください。**

- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 被害者としての経験がある</li><li>2 加害者としての経験がある</li><li>3 身近に被害を受けた人がいる</li><li>4 被害を受けた人から相談されたことがある</li><li>5 実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている</li><li>6 知らない</li></ol> | } 1～4のいずれかに<br>○がついた方は、<br>問 12 にお答えください。 |
|---|---|

### 問 12 【 問 11 で 1～4 のいずれかに○がついた方にお聞きします 】

あなたは、そのことについて誰かに相談しましたか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○をつけてください。**

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 公的な相談機関や窓口、警察などに相談した</li><li>2 家族や友人に相談した</li><li>3 職場や学校に相談した</li><li>4 民間シェルターや民間の相談窓口に相談した</li><li>5 相談しなかった</li><li>6 その他</li></ol> |
|---|

### 問 13 【 全員にお聞きします 】

あなたは、この5年間でセクシャル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○をつけてください。**

- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 被害者としての経験がある</li><li>2 加害者としての経験がある</li><li>3 身近に被害を受けた人がいる</li><li>4 被害を受けた人から相談されたことがある</li><li>5 実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている</li><li>6 知らない</li></ol> | } 1～4のいずれかに<br>○がついた方は、<br>問 14 にお答えください。 |
|---|---|

### 問 14 【 問 13 で 1～4 のいずれかに○がついた方にお聞きします 】

あなたは、その後どのような対応をしましたか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○をつけてください。**

- 1 公的な相談機関や窓口、警察などに相談した
- 2 家族や友人に相談した
- 3 職場や学校に相談した
- 4 弁護士に相談したり、裁判所に訴えた
- 5 相手に直接抗議した
- 6 相談しなかった
- 7 その他

**問 15 【 全員にお聞きします 】**

あなたは、DV やセクハラに関して、どのような考えをもっていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも いえない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない
①たとえ夫婦であっても、暴力を振るうことは許されない	1	2	3	4	5
②自分も当事者かもしれない	1	2	3	4	5
③加害者にも、相談機関が必要	1	2	3	4	5
④相談窓口など、被害者が相談しやすい環境作りが不十分	1	2	3	4	5

**VI 男女共同参画に関する意識や考え方について**

**問 16 【 全員にお聞きします 】**

あなたは、次の①～⑦のような分野で男性優遇または女性優遇だと思われますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	男性優遇	どちらかとい えば男性優遇	どちらとも いえない	どちらかとい えば女性優遇	女性優遇
①家庭生活	1	2	3	4	5
②職場	1	2	3	4	5
③学校教育の場	1	2	3	4	5
④社会的慣習・しきたり	1	2	3	4	5
⑤地域社会	1	2	3	4	5
⑥法律や制度	1	2	3	4	5
⑦政治の場	1	2	3	4	5

### 問 17 【 全員にお聞きします 】

あなたは、次の①～⑩のような考えや思いについて、どのように思われますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
②世帯主に男性になるのは当然だ	1	2	3	4	5
③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
⑥結婚したら、女性は夫の姓に改姓したほうがよい	1	2	3	4	5
⑦男性リーダーが多い領域に、もっと女性リーダーが増えるべき	1	2	3	4	5
⑧性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ	1	2	3	4	5
⑨同性同士の結婚が認められてもよい	1	2	3	4	5
⑩男女共同参画社会は、だれもが生きやすい社会だ	1	2	3	4	5

## Ⅶ 男女共同参画社会に関する施策について

### 問 18 【 全員にお聞きします 】

あなたは、次の①～④のような用語をご存知ですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
①ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
②ヤングケアラー	1	2	3
③SDGs ジェンダー平等の実現	1	2	3
④米子市男女共同参画センター “かぶりあ”	1	2	3

### 問 19 【 全員にお聞きします 】

あなたは、男女共同参画社会の実現のために、米子市が行う施策について、どう思われますか。  
 あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

	とくに力を入 れてほしい	力を入れて ほしい	どちらとも 言えない	とくに望ん でいない
①学校教育や社会教育の場において、男女 の人権を尊重する学習を充実させる	1	2	3	4
②企業や行政などの指導的立場の人に対し て意識啓発を行う	1	2	3	4
③子育て・保育に関する施策を充実させる	1	2	3	4
④高齢者の介護支援に関する施策を充実さ せる	1	2	3	4
⑤各種審議会など、政策・方針決定の場へ 女性を積極的に登用する	1	2	3	4
⑥女性のため、男性のための学習講座の充 実を図る	1	2	3	4
⑦学校、地域、職場など各種団体の女性リ ーダーの養成に力を入れる	1	2	3	4
⑧男女共同参画に関する情報提供を充実さ せる	1	2	3	4
⑨DV やセクハラなどの被害者の支援体制 を充実させる	1	2	3	4
⑩ひとり親家庭に対する支援を充実させる	1	2	3	4
⑪女性のキャリアアップ支援を充実させる	1	2	3	4
⑫生活に必要な行政サービスの電子申請 等を積極的に取り入れる	1	2	3	4

### Ⅷ ご意見・ご要望など

最後に、男女共同参画の推進などについてのご意見やご要望などがありましたらお聞かせくだ  
 さい。

お忙しいところ、調査にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。  
 同封の返信用封筒に入れて、10月5日（火）までにご投函ください。

## 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

令和4年3月発行

発行：米子市総合政策部男女共同参画推進課

〒683-8686 米子市加茂町1丁目1番地（米子市役所本庁舎）

TEL：0859-23-5419 FAX：0859-23-5392

E-mail：danjyo@city.yonago.lg.jp